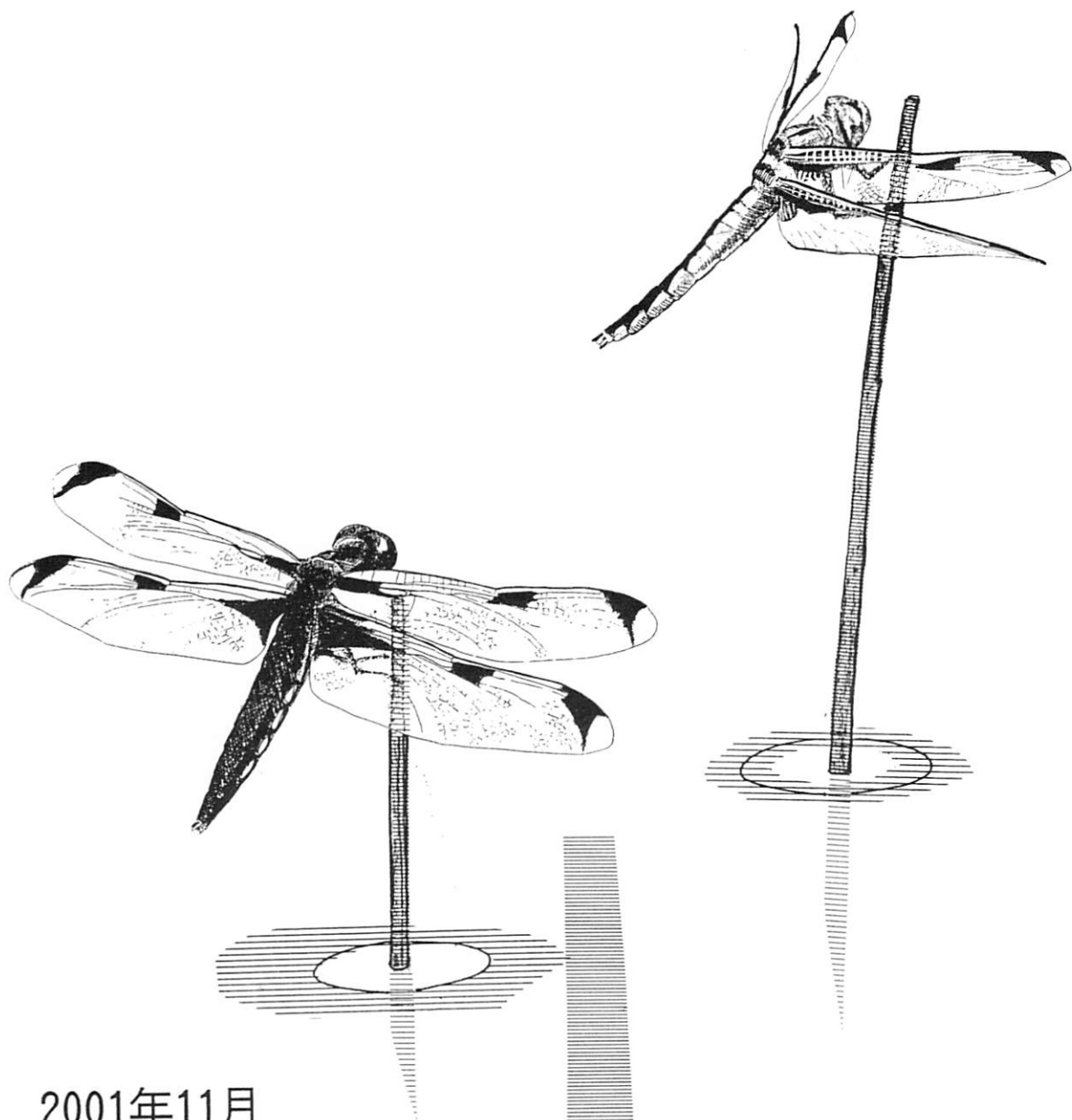


まべりはむし

第29巻 第2号



2001年11月
兵庫昆虫同好会

ベッコウトンボ

庭に来る3種のアゲハを飼育して

矢田 敦子

庭のミカンの木に来るアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハの幼虫を、4シーズンにわたって飼育した。その成長過程で観察された行動、一般の本ではなかなか分からなかった面白い行動、不思議に思ったこと、実際に確認できたこと等の中から、いくつかまとめてみた。

飼育期間 1997年6月～2001年6月

飼育数 アゲハ26頭(うち越冬7)

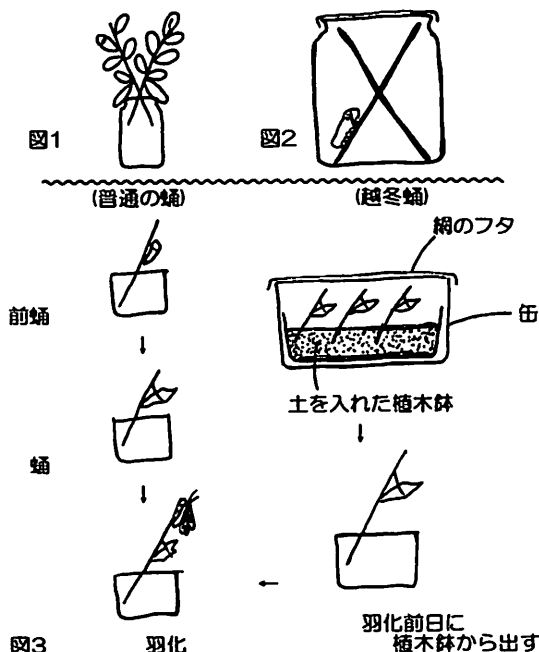
ナガサキアゲハ35頭(うち越冬1 病死3)

クロアゲハ8頭

飼育環境 卵から5令幼虫最終のフンをするまでミカンの葉で室内飼育(図1)。

↓
その後、前蛹化するまで棒を数本入れた大きなガラスビンに入れた(図2)。

↓
その後、羽化するまで小さなビンに移し変えた。越冬蛹は植木鉢に移して外に出しっぱなしにした(図3)。



※環境面で気を付けたこと

出来るだけ野生に近い環境になるよう心がけた
風を通す・雨に当てる・時には日光に当てる・
夜はカーテンの無い窓際に置く

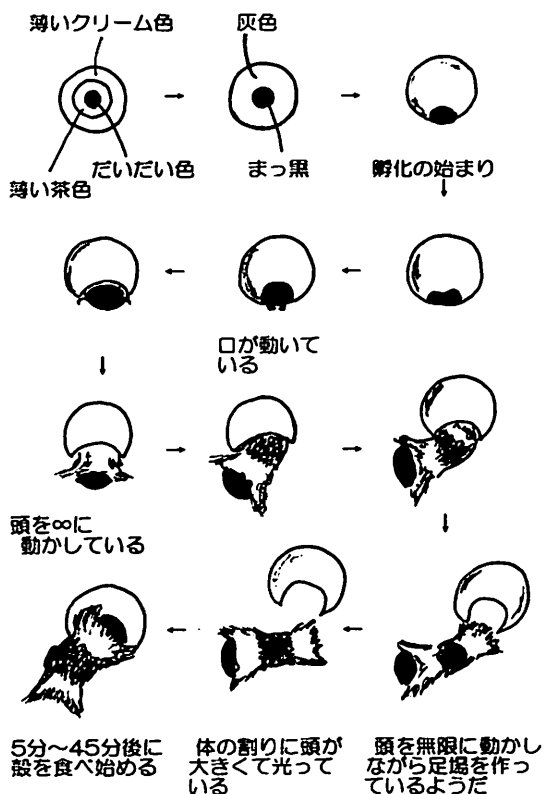
1 成長段階別に見た幼虫の観察記録

1 卵

卵が産みつけられる位置は種類によって違っていた。アゲハは木の半分から上の日の当たる新芽に産みつけられることが多く、ナガサキアゲハは殆どが半分より下の、日が当たりにくい大きな古い垂れ下がった葉に産みつけられていた。

卵の区別は、アゲハは小さくて黄色く、ナガサキアゲハは一回り大きくてクリーム色なのですぐ分かる。クロアゲハについては、アゲハとナガサキアゲハほどの違いは無いがどちらかといえばナガサキアゲハに近いように思った。

産みたての卵を採取してから、アゲハは6日(5月採取分)、ナガサキアゲハは4日(7,8月採取分なので短い)、クロアゲハは6日(5月採取分)たつと孵化する。ナガサキアゲハを例にとって孵化の様子を再現してみると次のようになる。



2 1令幼虫

1令幼虫は、すでに大きさも色も形も随分違う。特にナガサキアゲハはアゲハに比べて一回り大きく、クロアゲハに比べても少し大きい。この3種の大きさの違いは個体差を別として最後まで変わらない。外観もアゲハは黒っぽい糸状、ナガサキアゲハは毛が生えていて緑っぽく、クロアゲハは茶色っぽい。しかし外観は違っていても基本的な行動パターンは羽化するまで殆ど同じであった。

幼虫は食事のとき以外は身動きもせず、いつも同じ所で休眠している。ツルツルの葉の上でも落ちないように、孵化した直後から休眠する場所には、しっかりと糸を吐き出して、体を安定させているようである。同じように、移動するときは頭を横8の字に振りながら足元に糸を吐き出しているようである。

食事については、休眠しているところの葉の範囲内で済ますものや、出張して別のところの葉を食べるものなど、それぞれである。しかし食後は必ず元の休眠場所に戻っていく。新しい葉を入れ替えたり、他の幼虫に邪魔されたりした時等は、やむなく、違う場所で休眠する。この傾向は5令になっても変わらないが弱令幼虫のほうが強いような気がする。1令脱皮後、3種ともほぼ3日たつと2令に脱皮する。

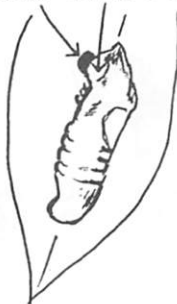
3 2令幼虫

幼虫は脱皮後脱いだ皮を食べてしまうが、食べ始めるまでにかかる時間は1時間～1時間50分ぐらいと個体差がある。脱皮直後の頭は急に大きく感じられ、色も薄く、不釣合いに見えるが、時間が経つにつれて本来の色になり違和感が無くなる。

この時期、フンがなかなか落ちないので口でくわえて落とすのを目撃した(アゲハ、ナガサキアゲハ各1例ずつ)。また、自分の周りに残っていたフンをくわえて落とすのを見た。幼虫はなかなか神経質なところがあるなと思った。

2令脱皮後、アゲハは2日～4日、ナガサキアゲハは2日～3日、クロアゲハは3日たつと3令に脱皮する。脱皮前の幼虫はフンをしなくなる。体が少し縮み加減になり、且つ少し丸みを帯びて張りが無くなる。色も精細が無くなる。そしてだんだん次の頭がせり出してくるので、脱皮直前の頭は、顔の前面に張り付いた仮面のように見えてくる。この一連の変化は2令化～5令化まで、3種類共通して脱皮の前に見られる現象である。

2令の頭 次に出てくる頭



4 3令幼虫

3令になると各幼虫の外観も、アゲハはこげ茶色に白い模様、ナガサキアゲハは緑色に白い模様、クロアゲハは薄茶色に白い模様とかなり違ってくる。

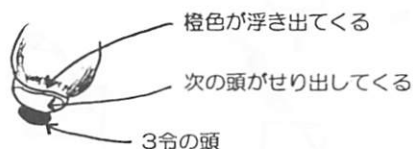
幼虫はたまに、短時間直射日光に当たったが、殆どの幼虫は当たってしばらくすると上半身を直角に持ち上げて日光を避けるような格好をする。葉の陰に移動するものもある。反対に雨に当たると一斉に動き始めて雨水を飲んでいようであった。そして、ついではどうか分からないが食事を始めるものが多かった。まるで直射日光は嫌がり、雨は喜んでいるように見受けられた。これも3種とも幼虫の間の共通した傾向だった。限られた環境の中では幼虫も時々他の幼虫の休眠場所に近づいたりする。すると休眠していた幼虫は、体の大小に関係無く上半身を思いきり左右に振って相手を威嚇する。殆どの場合近づいた幼虫はあわてて退散する。たまに仲良く並んでいる時もあったので、どのような組み合わせの時に大丈夫なのか記録しておけばよかったと思う。これも幼虫時代の3種の共通傾向である。



上 ナガサキアゲハ(3令幼虫) 下 クロアゲハ(3令幼虫)

3令脱皮後、3種ともほぼ3日で4令に脱皮する。

脱皮前の経過は2令幼虫のところで述べたが、加えて4令及び5令脱皮の時は、直前になると頭の所の角の出る部分に橙色が浮き出てくる(若令の時は気が付かなかっただけかも知れない)。

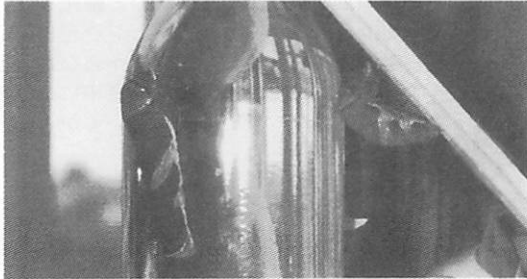


5 4令幼虫

4令になるとアゲハは大きくなっただけで外観はあまり変わらないが、ナガサキアゲハはエメラルドグリーンに白い模様、クロアゲハはこげ茶(部分的には金色に近い色)に白い模様となる。その上どち

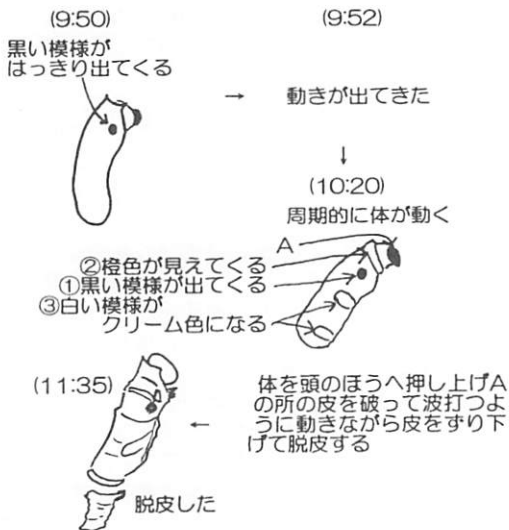
らも体に光沢があってとても綺麗である。

4令になってくると、ナガサキアゲハにおいては、飼育しているビンの側面で休眠するという、他の2種には全く見られなかった行動がよく見られた。これは5令になっても続き、ビンに付いたまま最終のフンをするものもいた(野生の場合は太い枝などで休眠する習性がある、飼育用の枝では頼りなくてビンの所まで下りて来るのではないかと想像する)。



ビンで休眠するナガサキアゲハ(5令幼虫)

4令脱皮後、3種ともほぼ3日～4日たつと5令に脱皮する。脱皮前の幼虫は光沢が無くなる。ナガサキアゲハの脱皮直前の体の変化を見ると次のようであった。



6 5令幼虫

5令になると外観がすっかり変わる。体は緑色で、両肩の所に目玉模様があるところは一緒であるが、細かい所が3種3様なので全体的に見ると、大きく違って見える。

背中模様は、アゲハが緑、ナガサキアゲハが白、

クロアゲハが赤茶色である。目玉模様も、アゲハは橙色、ナガサキアゲハは白、クロアゲハは茶色が混ざっていて少しずつ違う。

5令になると食事の量はとて多くなる。すごいスピードで規則正しく頭を上下に動かしながら葉を食べていく。早いのは食事のスピードだけであって、移動などの動作は緩慢である。食事は一斉にすることが多く、大きな古くて硬い葉もどんどん食べるので、シャッ、シャッ、シャッと噛み切る音が聞かれるようになる。そしてこの頃になると食べた後の葉の軸は普通噛み切ってしまうので、ビンの下には硬い軸が何本も落ちている(特にナガサキアゲハ)。

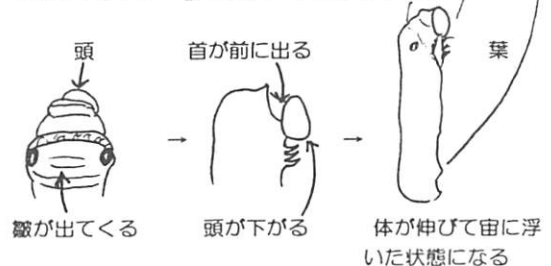
またフンも大きくなるので、落ちるとポトンと音がするようになる。そして最後の方は水分を含んだ2段重ねのフンをするようになる。

5令は終令であるが、たまに6令までいく個体がいる。その場合本来の5令の時には、頭は5令だが体はどちらかと言うと4令に近かった。6令になって本来の5令の姿になった(アゲハ2例、クロアゲハ1例、ともに体は小さかった)。

5令幼虫も4日目ぐらになると体ははちきれそうになり、丸太棒のような姿になる(5令になって4日目のナガサキアゲハと5日目のクロアゲハは、ともに体長が65mmあった)。

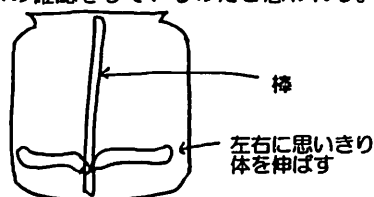
5令脱皮後、アゲハは4日～7日(越冬個体は9日～17日)、ナガサキアゲハは4日～8日、クロアゲハは4日～6日たつと、5令最終のドロドロとした黒っぽい下痢状のフンをする。この最終のフンをする時間帯は、午後から夜にかけてが多く、したがって最後の食事は午前中に終えてしまうものが多い。

そして最後の休眠場所には、体を垂直にしやすい、大きく且つ下に垂れ下がっている葉を選ぶ。体の水分を出しやすい姿勢になるためと思われる。最終のフンをする前は、体長が少し縮み、目玉模様がある肩の所に皺が出てくる。そして直前には首が前の方に出てきて、頭が下に垂れ下がる。その後すぐに体が10mm程もダランと伸びて下痢状のフンが出る。このとき「キュー」と音がするときもある。



その後、急に慌てたように、蛹になる場所を求めてかなりのスピードで動き出す。すぐに動き出すも

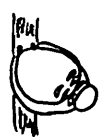
のから、20分後に動き始めるものまで個体差がある。この段階で行方不明にならないように、棒を何本か入れた大きなガラスビンに入れてやると、何回も棒上を往復したりビンの内側を這ったりして、気に入った場所を探しまわる。棒の上で体を左右に大きくのけぞらす行動をとるが、これは羽化するときのスペースの確認をしているのだと思われる。



5令最終のフンをしてから、3種ともほぼ1日たつと前蛹化する。

7 前蛹

前蛹化するための糸掛け行動は夜中から明け方が多かったが、何例かは観察することが出来た。気に入った場所が決まると、上向きにじっとしたり下向きにじっとしたりしている。体はすでに縮んでいる。その後棒に糸を張り巡らせる。まず上のほうに張り、次に下向きになって、お尻を固定する位置に何回も頭を打ち付けるようにして糸を張る。そしてお尻を固定すると、いよいよ糸掛けを始める。1番目と2番目の手の間に糸を引っ張りながら掛けて、胸



左から右へ糸を引っ張り胸の上で輪を作り右端を棒につける



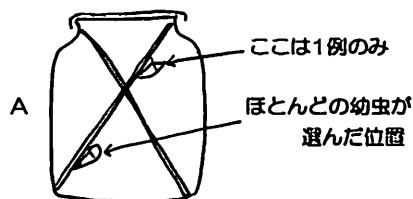
同じく右から左へ糸を引っ張り左端を棒につけるこれを繰り返す



糸は一番目と二番目の手の間に吐いている

の上に輪を作り、両端は棒に付ける。これを何回も繰り返して適当な太さになった時、頭から輪をくぐって背中にあわす。

幼虫が糸掛けをする場所は、ビンの中という限られた範囲の中ではあるがほぼ同じような位置であった。余裕があるAの位置が殆どであった。羽化の時、羽が伸びるための余地も必要なので、このような位置に落ち着くのであろう。



なお、糸掛けをする前に必ず胡麻のようなコチコチの黒いフンが落ちているが、どの段階ですのを見たことが無い。前蛹化後、1日たつと蛹化する。

蛹化前の幼虫の体は、白い模様がピンク色に変化し、徐々に全体が黄色っぽくなり、干からびたような感じになると蛹化が始まる。時には背中に掛けた糸が口や手に引っかかっている幼虫もいるが、心配無用で蛹化する。

8 蛹

蛹化が始まると体は上下に動き始め、背中の突き出たところから皮が破れ始める。背伸びをするように動きながら皮を下の方へずらすと、お尻をいったん棒からすばやく外し、すぐまた元の位置に押しつける。そして体をくねらせながら皮を下に落とす。落とした後もしばらくは体を上下左右と動かしている(15分近くも動かしていることもあった)。蛹化直後の体は棒に対して内側に反っているが、次第に外側に反って蛹の形となる。ナガサキアゲハとクロアゲハは、アゲハに比べて反る角度が大きい。

蛹の色については同じ条件で育てたものの中にも、緑色になったり茶色系になったりするものが出て、何を基準にして決まるのか見当がつかなかった(表1)。もしかしたら常識はずれの色になる個体が時には出るような仕組みになっていて、それが天敵から身を守る知恵になっているのではないかとも思ってみた。

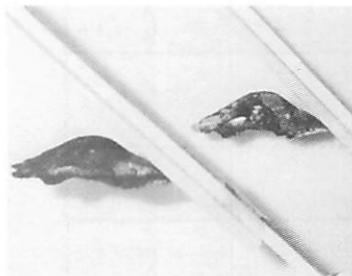
蛹は意外と周囲の気配に敏感で、数頭並べていると一斉にビクビク動いたりする。空気の振動を感じるのではないかと思った。羽化が近づいた時にも時々動いたりする。反面こちらから息を吹きかけてもビクともしない事も多い。

驚いたことに、羽化3日前のクロアゲハの蛹がシュッ、シュッと大きな音を出しながら体を何回も左右に振ったり、くねらせたりしていた。音は5~6回ほど出していた。蛹がこのような音を出すのを他にもクロアゲハ1例、羽化前日のナガサキアゲハ1例で観察した。幼虫が角を出すのと同じ意味合いで、音を出しているように思えた。

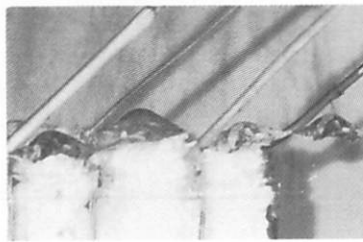
蛹化してから、アゲハは9日~24日、ナガサキアゲハは10日~17日、クロアゲハは11日~20日たつと羽化する。越冬蛹においては、蛹化日に関係なくある一定の時期になるとほぼ一斉に羽化するようであった(表2)。

表1 蛹の色と取り付く棒との関係 (ベージュ、オレンジ色は茶系に含めた)

棒の種類	蛹の色	アゲハの例	ナガサキアゲハの例	クロアゲハの例
バセリの枝	緑		♀1	
	褐色・茶系			1
グミの枝	緑	3		
	褐色・茶系		♂1	1
割り箸	緑	7		♀2
	褐色・茶系	11	♂1	1
ミカンの枝	緑	2	♂2	♀1
	褐色・茶系			♀1
モチの枝	緑	1	♂5	♀6
	褐色・茶系	1	♂2	♀2
クリーム色のポリバケツ	緑		♂2	♀1
	褐色・茶系		♂1	
ひまわりの枯枝	緑		♂1	♀1
	褐色・茶系		♂1	♀1
レンギョウの枯木	褐色			1
ティッシュ	茶系	1		



ナガサキアゲハ(左は緑色)

ナガサキアゲハ
(左から二番目のみ緑色)

クロアゲハ(左は緑色)

表2 越冬蛹における蛹化日と羽化日の関係及び期間(日数)

種 類	蛹化日	羽化日	日数
アゲハ	H9年10/05	H10年4/21	198
	" 10/18	" 4/21	185
	" 10/24	" 5/01	188
	" 10/30	" 4/20	172
	" 10/31	" 4/27	178
	" 11/08	" 4/24	167
	" 11/26	" 4/24	149
ナガサキアゲハ	H10年 9/29	H11年5/05	218
自然の中で育ったアゲハ	H12年10/04	H13年4/17	195

9 羽化

羽化前日ぐらいから、蛹は色が黒っぽくなってくる。間近になると羽の色が浮き出てきて、頭のところが透けてくる。そしてお尻の溝が深くなり先のほうが少しへこんでくる。

羽化が始まると、口のスローも使って前面の殻を押し上げ、すばやく足を伸ばして棒につかまる。そしてお腹の水分を出しながら体全体を殻から引き出す。出しきらなかった水分はその後何回かにわたって出す。殻から出た蝶の羽は縮んでいるが、口の

2本のストローだけは、真っ先に伸ばしたり丸めたりして、綺麗な円になるまで調整する。

羽は15分ぐらいで伸びる。その後は、時々羽を広げたり羽ばたいたりする。そして自力でカーテンに飛び移り、ウロウロし始める頃になったら戸外へ飛び出す。アゲハの場合は4時間ぐらい、ナガサキアゲハの場合はアゲハのように身軽く無く、自力で飛ぶのに時間がかかったので、6時間以上かけて外へ

放した。

なお、ナガサキアゲハにおいては、成長を同じくするグループ毎に、♂♀羽化の時間差を調べてみたところ、♂は♀より先に羽化する傾向がでた(表3)。

他の2種については♂♀が一目瞭然ではないので、記録しなかったため分からないが、同じような傾向が出るのではないかと想像する。

表3 ナガサキアゲハにおける♂♀の羽化の時間差

グループ	5令化日	蛹化日	羽化日時	羽化順番	♂・♀
A	7/22	7/28	8/08 (早朝)	1	♂
	7/23	7/30	8/09 (13:05)	2	♀
B	5/28	6/04	6/20 (7:20)	1	♂
	5/28	6/04	6/21 (より早朝)	2	♂
	5/29	6/05	6/21 (早朝)	3	♀
C	9/21	10/1	10/17 (10:15)	1	♂
	9/21	10/1	10/17 (12:35)	2	♀
D	9/07	9/12	9/25 (早朝)	2	♂
	9/07	9/12	9/24 (早朝)	1	♂
	9/07	9/14	9/25 (早朝)	3	♀
E	6/09	6/16	6/29 (8:15)	1	♂
	6/09	6/16	6/30 (早朝)	2	♂
	6/09	6/18	7/01 (早朝)	4	♀
	6/11	6/18	6/30 (8:45)	3	♂
F	7/26	8/01	8/13 (早朝)	1	♂
	7/26	病死			
	7/26	8/02	8/14 (早朝)	2	♀
G	8/01	8/06	8/17 (早朝)	1	♂
	8/01	8/08	8/18 (15:55)	2	♀
	8/02	8/08	8/19 (11:30)	3	♀

表4 蛹化月と蛹でいた期間(日数)との関係 (下線は越冬蛹)

種類	蛹化月	蛹でいた日数 (蛹化日の早いものから並べた)
アゲハ	5月	12・13・14・13・14・13・13・14・14・13・13
	6月	12・9
	7月	9・9
	9月	9・17
	10月	17・198・24・185・188・172・178
	11月	167・149
ナガサキアゲハ	6月	16・17・16・14・13・14・13・14・13・12
	7月	11・10・10
	8月	12・12・11・11・10・11
	9月	11・11・13・12・12・14・14・15・13・14・15・218
	10月	16・16
クロアゲハ	6月	14・13
	7月	12・11
	8月	12・12・11
	10月	20

II 観察記録から分かったこと

1 幼虫の成長速度について

卵から採取した個体の1令から羽化までの日時記録を調べた結果、1令から羽化までにかかった日数と蛹でいた日数とは、ほぼ正比例していることが分かった。そこで蛹でいた日数を、蛹化した月別に比べてみたところ、3種ともほぼ7月～8月の真夏にかけて蛹化したものが最も成長速度が速いことが分か

った(表4)。

2 脱皮、蛹化、羽化等は1日のうち、どの時間帯に行われていたか

卵から採取したもの、幼虫から採取したもの、途中で死んでしまったものも含め、飼育した全個体について時間記録をもとに調べてみた(表5)。

0時～5時台は記録が出来なかったので、ひとまとめにした。

表5 脱皮が行われた時間帯

(アゲハ○ ナガサキアゲハ● クロアゲハ×)

	1令化	2令化	3令化	4令化	5令化	最終便	前蛹化	蛹化	羽化
0時台 5時台	○○○	●●●●●	○○○●●● ×××	○○●●●	○○	●●	○○○○○○ ●●●●● ×××××	○○○○○○ ×××××	○○○○●● ××
6時台		●●●××	●	●●●××			●●×		○○○○●●
7時台		●●●	●●××	●●●	○		○○	●	○○○○●●
8時台	●	○○●●●●	○●×	○○●●●●	○○			○●	○○○○●●
9時台	●		●●	●	○○○××	○●	○		○●×
10時台	●×		●	●×	○○●	○		○●	●●×
11時台	●●	○	●●	●×	●●●●	○○		●	○○○○●●
12時台	●●		●×	○○●	●×		○○		○○●×
13時台	●●	●●●●	○●	●	○●●×	○		○○×	○○●
14時台	●	○	●		○○●●●●	○○○○○×	○○	○○	
15時台	●	×	●●		○○●××	○○○○		○	○○●●
16時台	●●			○○●	○○●●●	○○○○○○		○●	○○
17時台		○	○		○●	○○●		○	○
18時台			●	○○	○○●●●	●●●×		○	
19時台				○	●●●×	●●●●●		○○○○	
20時台	○				×	●●●●●		○●	
21時台			●		●	●●●●●	○	○○●●●	●
22時台	●				●●	●●●●×	○○	●●●●	
23時台					●●●	○○●		●●×	

◎は越冬蛹

この表で見ると、前蛹化の時間帯がほぼ0時～5時台にかたまっている。糸掛けを含む一連の動作が目立つ上、時間もかかるので外敵が少ないこの時間帯に集中するのであろうと思われる。ここから本能的に逆算して、最終のフンをする時間帯もほぼ決まってくるのだと思う。羽化については、明け方から午前中ぐらいいまがが多いが、明るい間に飛び立つためには当たり前の時間である。総合的に見ると、ナガサキアゲハとクロアゲハは行動パターンがよく似ているように思われる。

III 病気

病気及び異常行動をとったナガサキアゲハの4例(ABCD)を述べてみる。

A 羽化後、羽は伸びたが広げることが出来なかった。体の下半分が黒と緑の縞模様になっていた。翌日死んだ。

B 5令5日目に最終のフンをしないまま急に動き出し、前蛹化しないまま下に転がって死んでいた。

C 5令6日目に、Bと同じく最終のフンをしないまま突然ウロウロし始め、8時間後にフンをするという異常な行動だった(羽化後左上の足が伸びず)。

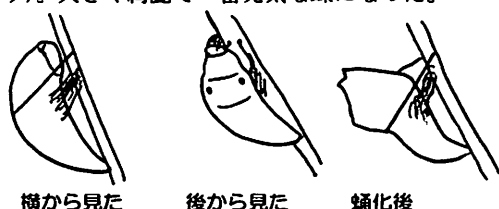
D 糸掛けがうまく出来なかったのか、お尻は糸で棒に固定されたまま宙ぶらりんになって死んでいた(これも最終のフンが変な出方だった)。

ABCについては3個体とも、同じ親が産んだ卵から育てた兄弟(♂?♀)である。

Ⅳ ハブニング

その1 ナガサキアゲハ(♀)

前蛹化した時、背中にまわす糸がお腹側にもゴチャゴチャと付いていた。蛹化した後も不思議なことに糸がお腹に残っていた(どちらも就寝中だったので観察は出来なかったが、何かの原因で糸掛けが中断してやり直したか、糸くぐりに失敗したのだと思う)。大きく綺麗で一番元気な蝶になった。



その2 ナガサキアゲハ(♂)

5令4日目の幼虫の体中に、何かに噛まれたような跡があった。夜中に噛まれたものと思うが、無事に羽化した(一緒にいた5令3頭はどこも噛まれず)。



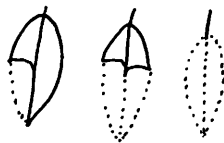
その3 ナガサキアゲハ(♀)

葉の食べ方が変わっていた。普通は終令幼虫ともなると、規則正しく食べて軸は切り落とすのに、気ままな食べ方をして軸は一切噛み切らず、そのまま残していた。模様がとても綺麗な立派な蝶になった。



不規則な食べ方をして軸はそのまま残していた

5令幼虫の口はプラスチックのように硬くできているので軸もかみ切ってしまう



軸は下に残す

(普通の幼虫の食べ方)

その4 アゲハ

前蛹化が出来ずにビンの底に縮まって転がっていた幼虫を、ティッシュに乗せておいたところ、蛹化した。接着剤で棒に固定してあげたが、体の反りが大きくて羽化したときに足が棒に届かないといけな

いので、添え木をしてあげた。途中はハブニングがあったが立派な蝶になった。



(夜)場所を決めてじっとしていた糸はまだ掛けていなかった

(朝)ビンの底にころがっていた

(昼)ティッシュの上に乗せておいた

下半身の濡がお腹がわりにしかなかった

(翌日)接着剤で固定

(夜)蛹になっていた

(9日後に羽化した)足が届かないので添え木をした

(普通の蛹の角度)下半身の濡は全体にある

その5 クロアゲハ(♂)

2令脱皮直後にうっかりピンを倒してしまい、下半身が不自由になってしまった。その後2日間は食欲があまり無いように見えた3令化4令化は普通だったが、5令脱皮の時は半日ほどかかった。何とか脱皮したが、5令4日目には背中に穴があいていた。蝶になっても背中に跡形が残っていた。その上お腹がポンプのようにポコポコしていて、水分の動くのが外から感じられた。小さくてあまり元気が無かった。

その6 その他

クロアゲハの3令幼虫が2令脱皮直前のアゲハの幼虫を食べていた。家にいるクモがアゲハの1令幼虫を襲った。

Ⅴ 飼育を終えて

ちょっとしたきっかけからのめり込み、子育てをするような感覚で飼育してきたが、自然に逆らっているという気持ちに加え、庭のミカンの木が弱ってはいけなないので、このへんで区切りをつけることにした。この経験を通して昆虫の生態のほんの一部でも知る事が出来て、他の虫を見る目も変わった。自分なりに自然を大切にしていきたいと思っている。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)



羽化したアゲハチョウ



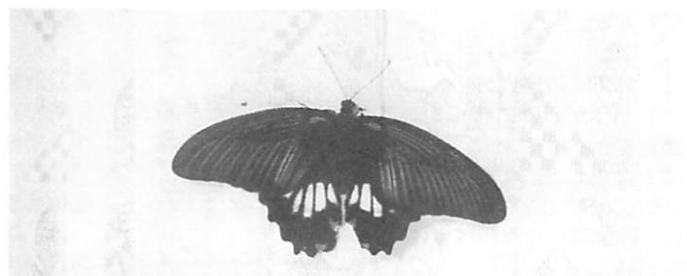
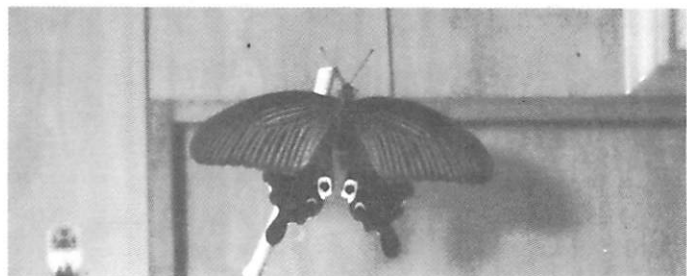
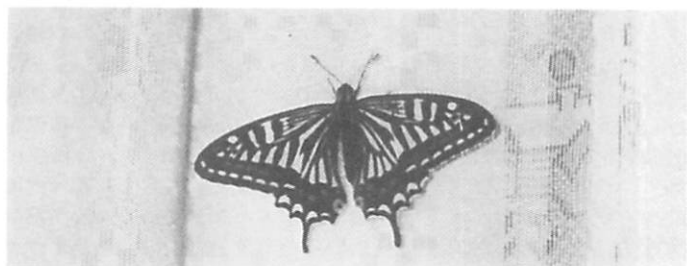
時差で羽化したナガサキアゲハ
(左 先に羽化した♂ 右 遅れて羽化した♀)



(幼虫は左から
アゲハ、ナガサ
キアゲハ、クロ
アゲハ)



(成虫は上から
アゲハ、クロア
ゲハ、ナガサキ
アゲハ)



終令幼虫と羽化した成虫

ブタクサハムシの兵庫県における広がり状況 (その2)

—2001の現況—

近藤 伸一

はじめに

ブタクサハムシ *Ophraella communa* Le Sage は北米原産の侵入昆虫で、日本では1996年夏に初めて千葉県で発生が確認され、猛烈な勢いで日本全国に分布を拡大している。

兵庫県では1998年に阪神間で初めて確認され、翌1999年には県南西部に拡大し、但馬でも確認された(1999,近藤、1999,沢田)。2000年には但馬北部、淡路島、家島でも確認され(2000,西本)、分布は県下一円に拡大した。

本年は調査の密度が低い但馬地域とその周辺を詳細に調査し、県下の分布状況がほぼ判明したので、本年の調査の結果とあわせて、分布の拡大過程を1998年から現在まで年毎に整理して報告する。

1 分布調査の方法

これまでに県下で行われた分布調査は、ブタクサハムシの寄主植物である北米原産のブタクサ (*Ambrosia artemisiifolia*)、オオブタクサ (*Ambrosia trifida*)、オオオナモミ (*Xanthium occidentale*) の生育地で、食草を見てブタクサハムシの卵、幼虫、蛹、成虫を探す方法と、ネットで植物をすくって確認する方法で行われた。また分布の広がりを確認するために、食草からブタクサハムシが確認出来なかった場所も記録されている。

2001年の調査は近藤伸一と近藤阿佐子が行った。調査方法は一方が車を運転し、他方が走る車内から食草を探すという、分布調査としては粗い方法で行ったため、かなりの地域で食草を見落としているものと思われる。食草が生えていそうな場所では可能な限り車を降りて徒歩で探した(特にブタクサは車を走らせながらは見つけるのが難しい)。ブタクサハムシの分布の確認方法はこれまでと同様である。

2 分布の拡大状況

1998年から2001年にかけて県下で行われた分布調査を、各年ごとに、地図上にプロットして分布図を作成した。記載の内容はその年確認した場所は●、確認出来なかった場所は□、前年又はそれ以前に確認した場所は●とした。

1) 1998年(図1)

初めて県下で確認された年で、阪神地域と神戸市、明石市の7市で生息が確認され、明石市が西端であった。三田市からは確認されなかった。ただ県西部は調査されていないので、この時点での県西部の分布状況は不明である。

2) 1999年(図2)

県南部を中心に新たに33市町で見つかった。生息の確認された市町数は延べ40となり、内陸部まで広がっていることがわかった。

①阪神地域は川西市を除くすべての市町で確認された。

②東播磨地域は17市町のうち11市町で確認され、最北は杉原川沿いの加美町南部であった。

③中播磨地域は全8市町のうち市川沿いの4市町、最北は神崎町南部であった。

④西播磨地域は全17市町のうち8市町で確認され、揖保川沿いの最北は波賀町中部、千種川の最北は佐用町南部であった。

⑤丹波地域は全市町で確認された。

⑥淡路島は食草の分布を確認出来た場所が少なく、オオオナモミが生えている個所はほとんど調査したが確認出来なかった。

⑦但馬地域ではわずかに2カ所、国道9号線沿いの山東町と、円山川中流部の日高町で確認されただけで、但馬のほとんどの区域で食草は見られなかったが、ブタクサハムシは確認出来なかった。

⑧隣接府県の状況

7 京都府では丹波、但馬に隣接した3市町で確認された。

1 岡山県では瀬戸内側の東に位置する6市町で確認出来た。

ウ 鳥取県では確認されなかった。

3) 2000年(図3)

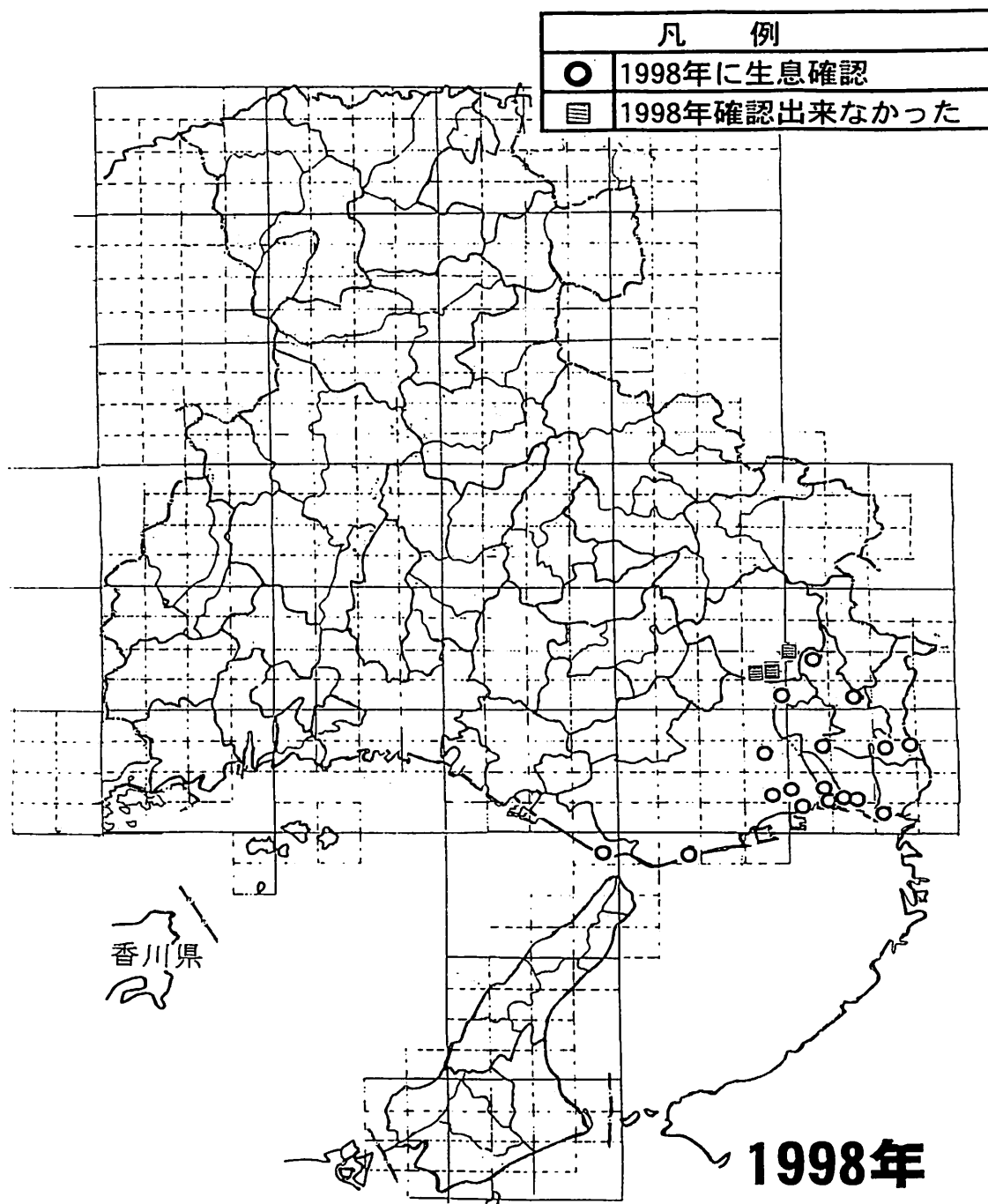
新たに14市町で確認され、54市町に拡大した。

①東播磨地域では、北部への拡大が確認出来なかった。

②中播磨地域では、離島の家島(家島町真浦)で初めて確認された。

③西播磨地域では、北部への拡大が確認出来なかった。

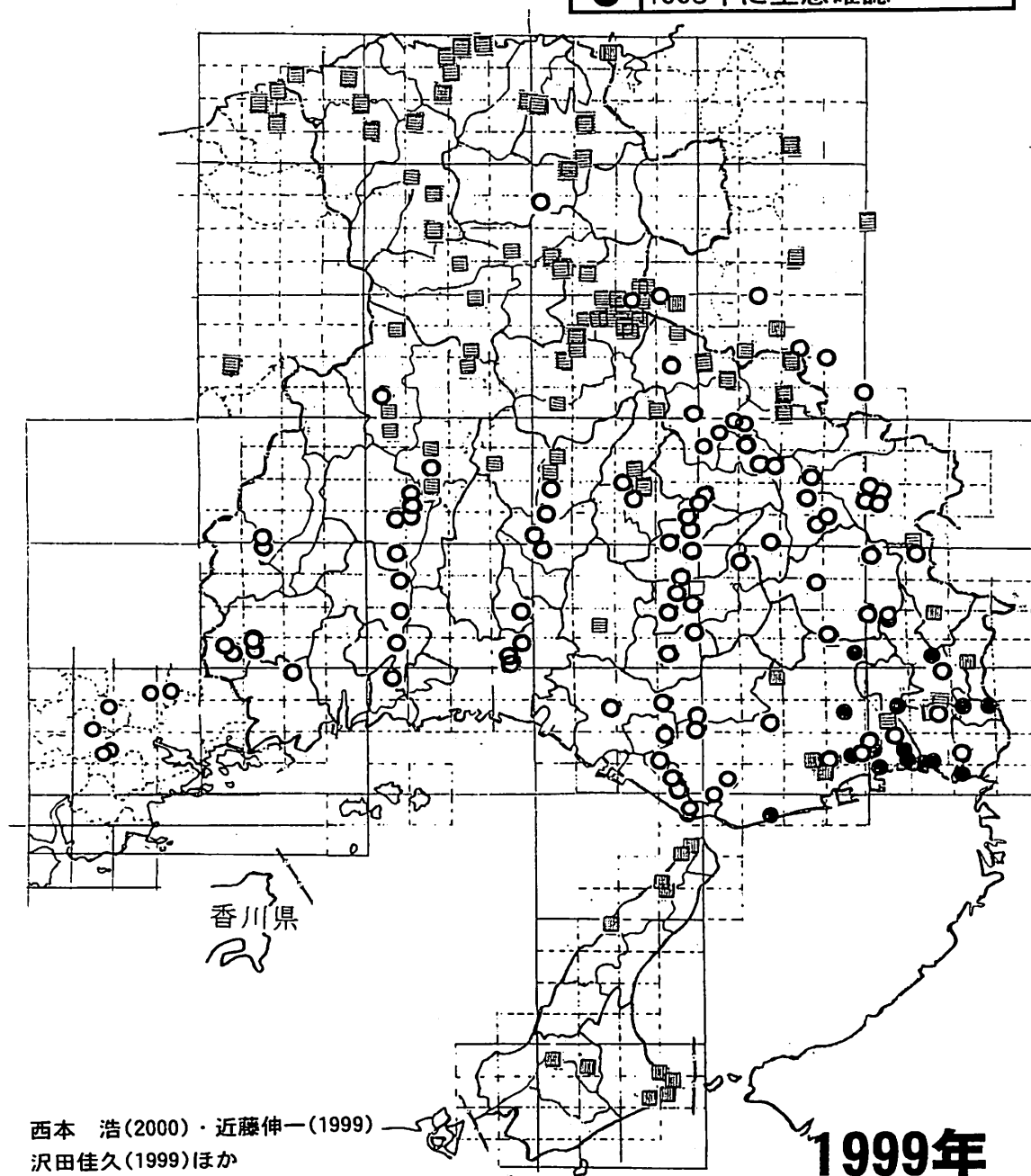
図1 ブタクサハムシの分布状況



西本 浩(2000)・河上康子(1998)ほか
の調査報告より作成

図 2

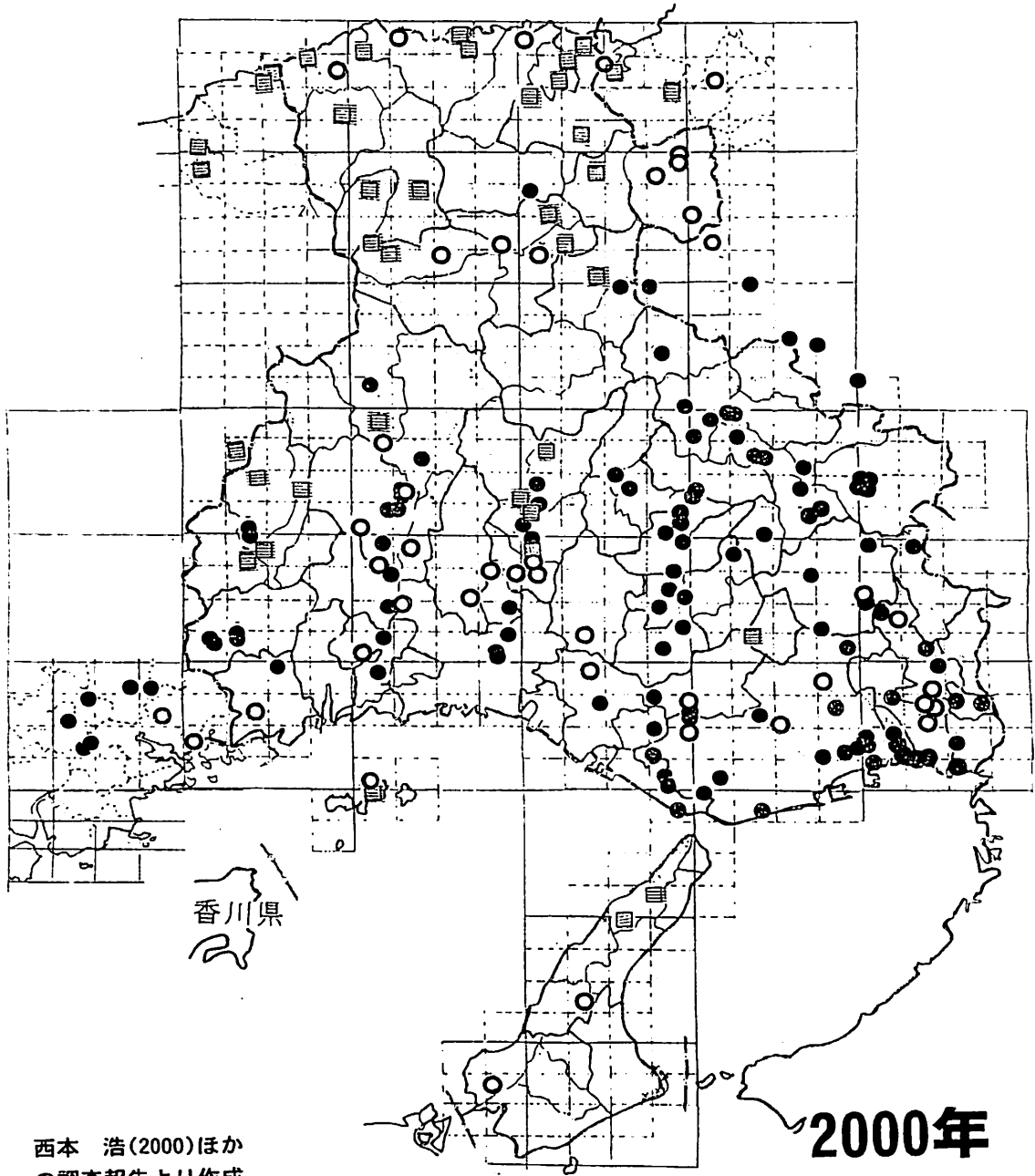
凡 例	
○	1999年に生息確認
目	1999年確認出来なかった
●	1998年に生息確認



西本 浩(2000)・近藤伸一(1999)
 沢田佳久(1999)ほか
 の調査報告より作成

図 3

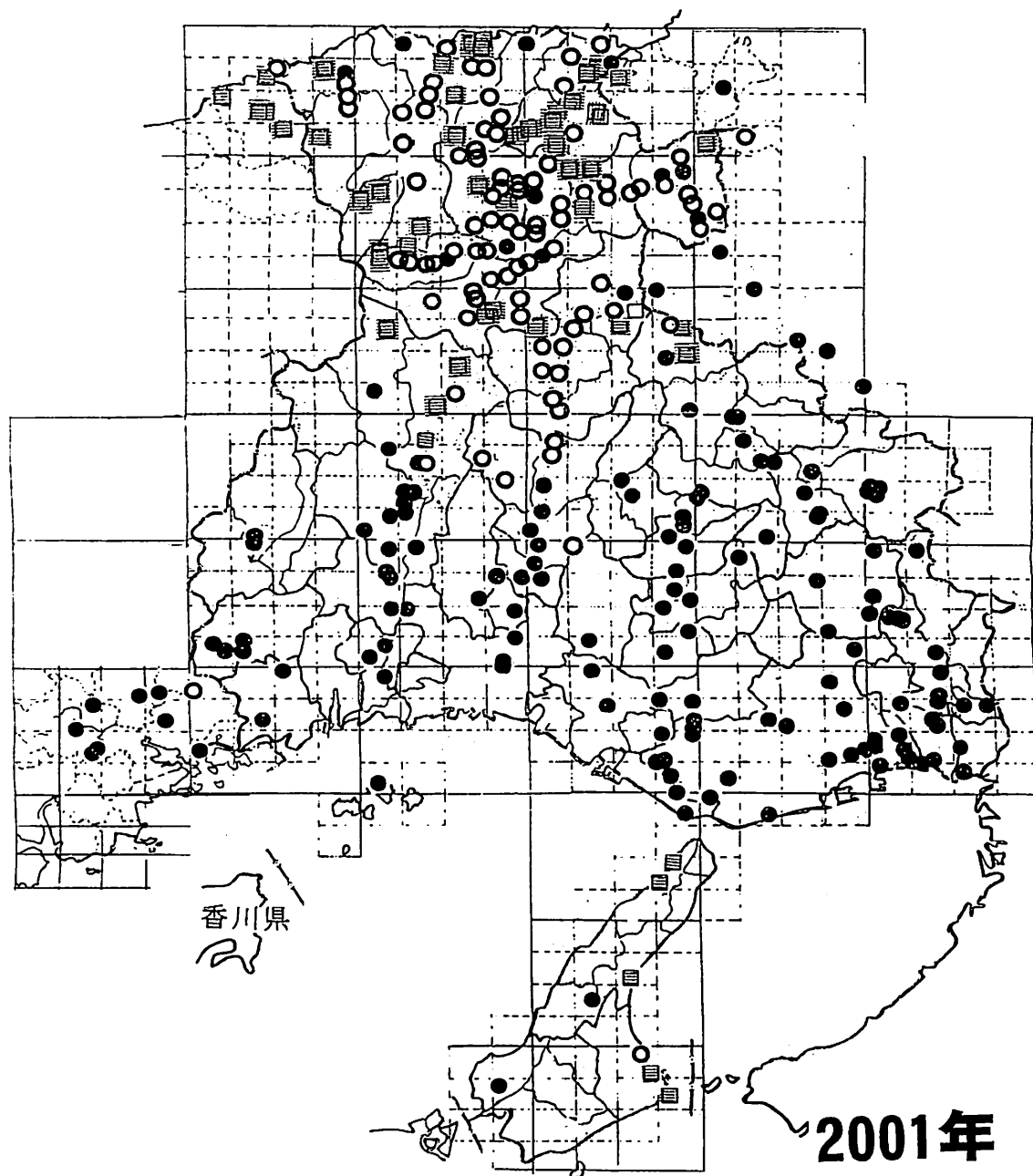
凡 例	
○	2000年に生息確認
□	2000年確認出来なかった
●	1999年以前に生息確認



西本 浩(2000)ほか
の調査報告より作成

図 4

凡 例	
○	2001年に生息確認
□	2001年確認出来なかった
●	2000年以前に生息確認



④淡路島で初めて確認された(五色町塔下、西淡町伊加利)。

⑤但馬の状況

7 円山川流域

a 大屋川沿いで(養父町上野)確認された。

b 八木川沿いで(八鹿町八木、関宮町吉井)で確認された。

c 出石川の上流部(但東町4カ所)で確認された。

イ 日本海に近接した3カ所(竹野町、香住町、浜坂町)で確認された。

⑥隣接府県の状況

7 京都府では新たに2町で確認された。

イ 岡山県では新たに1町で確認された。

ウ 鳥取県では確認されなかった。

4) 2001年(図4)

県北部を中心に調査し、新たに11市町で確認することが出来た。県下の市町の7割を超える65市町で分布が確認された。

①神戸、阪神地域ではほとんど調査を行わなかったが、神戸市西区岩岡町では、1999年の調査時に多数発生していた6箇所のオオオナモミ群落を、本年の9、10月に調査したが、9月時点では発生は確認できず、10月になってわずかに1箇所で成虫を確認したにすぎない。

②東播磨地域では加古川支流の杉原川最上流部(加美町中北部)で調査を試みたが、食草を見つけることが出来なかった。また1999年に調査した明石市内の道路際の2カ所のオオオナモミ群落では、当時は群落の全域に無数の成虫、幼虫が見られたが、本年の調査では1カ所は発生しておらず、他の1カ所でもわずかに数株に食痕があり、成虫の数もわずかであった。

③中播磨地域では市川に沿って北、西に分布を拡大していた。

7 市川支流

a 岡部川ではオオブタクサから(市川町瀬加)確認した。

b 小田原川では下流から上流までオオブタクサが茂り、中流部(大河内町宮野)でも最上流部(大河内町上小田)でも多数の個体が見られた。

イ 市川本流は最上流部にあたる生野峠の直下(神崎町猪篠)でも確認した。

④西播磨では揖保川流域の上流部を調査したが、北への分布拡大は確認出来なかった。

7 揖保川支流

a 染河内川の下流付近(一宮町下野田)では確認出

来たが、その上流では食草を見つけることが出来なかった。

b 最上流部にあたる倉床川では食草(オオオナモミ)は分布するものの見られず、黒原川との合流部付近で(一宮町百千家満)確認した。

c 引原川では、最上流部の波賀町戸倉にブタクサが分布していたが確認出来ず、戸倉から引原の間は食草を見つけることが確認出来なかった。

イ 千種川流域は調査を行っていない。

⑤但馬地域

7 円山川

a 河口部(豊岡市気比、城崎町桃島)には分布していた。

b 奈佐川流域では確認出来なかったが、峠を越えると(竹野町床瀬)分布していた。

c 出石川では最上流部(但東町久畑)まで分布していた。

d 出石川支流太田川にも分布(但東町畑山)しているが、最上流部(中藤)では確認出来ず、峠を越えた京都府野田川町では分布を確認した。

e 稲葉川は上流(日高町万劫)まで分布し、支流の阿瀬川は中流部(殿)まで確認、上流(羽尻)では確認出来なかった。

f 八木川は下流(八鹿町八鹿)から上流(関宮町外野alt.400m)まで分布している。食草は鉢高原(alt.900m)まで分布しているが、確認出来なかった。

g 小佐川は下流から上流(八鹿町加瀬尾alt.530m)まで分布している。

h 大屋川は下流から上流(大屋町中間)まで分布しているが、ここより上流では食草が見られなかった。

i 明延川は下流から中流(大屋町和田)まで見られ、ここより上流では食草を見つけることが出来なかった。

j 建屋川は下流から中流(養父町建屋)まで分布し、ここより上流では確認出来なかったが、峠を越えれば(朝来町上八代)見られた。

k 円山川本流は下流から最上流部(生野町小田和)まで分布し、生野峠を越えた神崎町側にも分布している。

イ 竹野川は下流から中流(竹野町門谷)まで分布し、上流では確認出来なかったが、椒川は上流(竹野町床瀬)まで分布した。

ウ 佐津川は下流では確認出来ず、中流(香住町単人)で見られ、上流では確認出来なかった。支流の土生川(本見塚)では見られた。

- エ 矢田川は下流から中流(村岡町長須)まで連続して見られるが、上流(美方町城山)では確認出来なかった。支流の湯舟川は中流(村岡町鹿田)で見られるが、上流(村岡町大野)では確認出来なかった。
- オ 岸田川では中流部(浜坂町古市・温泉町出合)で見られるが、上流では確認出来なかった。
- カ 海岸部の県西端でも分布していた(浜坂町居組)。
- ⑥ 丹波地域では加古川支流の遠坂川を調査し、最上流部(青垣町遠坂)では見られたが、中流(山垣)下流部(小倉)では確認出来なかった。
- ⑦ 淡路島では北部(北淡町、津名町)では確認出来ず、南東部(洲本市小路谷)で確認したが、南に下ると確認出来なかった。
- ⑧ 隣接府県の状態
- ア 京都府では1町で確認した。
- イ 岡山県では1999年に見られなかったオオオナモミ群落(備前市三石町)で、大発生していた。
- ウ 鳥取県では確認出来なかった

3 食草の分布状況

ブタクサハムシの寄生植物であるブタクサ、オオブタクサ、オオオナモミが生育しているのは河川敷、道路際、造成地、採石場、池の堤、畑地など常にかく乱され、植生の不安定な日によく当たる環境である。ブタクサとオオオナモミは県下のほぼ全域に分布しているが、但馬では大規模な群落は少ない。一方オオブタクサは但馬全域、丹波北部(青垣町)、中播磨北部(市川、大河内、神崎町)で大群落を形成しているが、他の地域ではほとんど見られない。

4 分布の拡大について気づいたこと

- ① 河川と平行して田畑と道路があり、河川、田畑、道路のいずれにも食草が分布している場合、オオブタクサが見られる確率が一番高いのは河川沿いである。河川に沿って分布を拡大する方法が一般的であると思われる。
- ② オオオナモミの春の発芽はかなり遅く、秋に成虫が無数に見られた場所でも越冬幼虫が活動を始める頃には発芽していない。成虫は食草を探して移動せざるを得ないため、分布の拡大をより促進している可能性が高い。

5 寄生植物に対する嗜好

ブタクサハムシが生育している場所で、ブタクサ(以下Aと記す)、オオブタクサ(同T)、オオオナ

モミ(同X)それぞれの食草が単独で群落を形成している場所では、どの食草でも葉脈だけになった葉がみられるなど無数の食痕を残し、多数の成虫、幼虫が見られ、嗜好に差は見られないが、これらの3種の食草が混生している場所では、嗜好に差がみられる。

- ① AとTの混生地ではブタクサハムシが確認できるが、付近のTだけの群落では見られない例。
- ア 浜坂町居組では、T群落を数カ所調査したが確認できず、土採り跡地のT群落の中にわずかに見られるAから成虫、蛹を確認することが出来た。
- イ 豊岡市気比では、T群落を数カ所調査したが確認できず、船着場の狭い範囲のT,A混生する群落で、T,A両方の食草から成虫、幼虫を多数確認した。
- ウ 八鹿町加瀬尾では、果樹園がTの大群落になっており、ここではブタクサハムシを確認出来なかったが、隣接した田の畦畔に生えた数本のAから成虫を確認した。
- エ 神崎町猪篠の資材置き場のT群落の中に、わずかに生えた数本のAから成虫を多数確認した。
- ② XとAの混生地ではブタクサハムシが確認できるが、付近にあるXだけの群落からは見つからない例
- 一宮町百千家満では、建設資材置場のX群落の中に生えた数本のAから多数の成虫を確認したが、付近の生えているXからは、成虫はもとより食痕も見られなかった。一宮町下野田でも同様であった。
- ③ TとXの混生地で、Tに嗜好が見られた例
- 城崎町桃島のT、X混生地ではほとんどのT食痕が見られたが、Xには食痕のない株が多く割合で見られた。
- 朝来町八代では河川敷に両種の混生が見られ、Tには無数の食痕が見られ、多数の成虫が確認できたが、Xの食痕はわずかで、成虫も少なかった。

以上の観察結果からA(ブタクサ)を最も好み、次いでT(オオブタクサ)、X(オオオナモミ)の順のようである。

6 2001年の調査記録

2001年の採集記録を次に示す。記載の方法は、調査場所、(メッシュ・コード番号)、調査した食草・オオブタクサ(T)、ブタクサ(A)、オオオナモミ(X)調査月日の順に記載した。確認はすべて近藤が行った。

①ブタクサハムシの生息を確認した場所

神戸市西区岩岡町岩岡(51340756)(X)20.X.2001
 明石市鳥羽(51340707)(X)20.X.2001
 神崎町大山(52345633)(T)26.VIII.2001
 " 猪篠(52345633)(A)31.VIII.2001
 市川町上瀬加(52343685)(T)20.VIII.2001
 大河内町上小田(52345524)(T)7.X.2001
 " 宮野(52344597)(T)7.X.2001
 一宮町百千家満(52346521)(A)7.X.2001
 " 下野田(52345417)(A)7.X.2001
 豊岡市気比(53343666)(T.A)18.VIII.2001
 " 玄武洞(53343604)(T)18.VIII.2001
 " 九日市(53342635)(T)25.VIII.2001
 " 妙楽寺(53342635)(T)成虫少25.VIII.2001
 城崎町桃島(53343655)(T.X)18.VIII.2001
 竹野町床瀬(53342537)(T)25.VIII.2001
 " 中村(53342536)(T)25.VIII.2001
 " 銅山(53342567)(T)25.VIII.2001
 " 門谷(53342596)(T)25.VIII.2001
 日高町祢布(53341661)(T)24.VIII.2001
 " 藤井(53341682)(T)24.VIII.2001
 " 久田谷(53341559)(T)22.IX.2001
 " 佐田(53341549)(T)22.IX.2001
 " 栗山(53341547)(T)22.IX.2001
 " 殿(53341536)(T)22.IX.2001
 " 十戸(53341567)(T)22.IX.2001
 " 名色(53341594)(T)22.IX.2001
 " 神鍋山(53342504)(T)22.IX.2001
 " 万却(53342502)(T)22.IX.2001
 出石町細見(53341659)(T)18.VIII.2001
 " 福見(53341646)(T)22.IX.2001
 " 鍛冶屋(53341649)(T)22.IX.2001
 " 寺坂(53341742)(T)22.IX.2001
 但東町矢根(53341754)(T)22.IX.2001
 " 出合(53341756)(T)22.IX.2001
 " 平田(53341739)(T)22.IX.2001
 " 栗尾(53351010)(T)22.IX.2001
 " 薬王寺(53351012)(T)22.IX.2001
 " 久畑(53350090)(T)22.IX.2001
 " 畑山(53341789)(T)6.X.2001
 香住町本見塚(53343535)(T)25.VIII.2001
 " 隼人(53343534)(T)25.VIII.2001
 " 香住(53343550)(T)25.VIII.2001
 " 大野(53343419)(T)25.VIII.2001
 " 藤(53342498)(T)25.VIII.2001
 浜坂町居組(53343331)(T)17.VIII.2001
 " 古市(53343318)(T)17.VIII.2001

温泉町金屋(53342399)(T)17.VIII.2001
 " 出合(53342379)(T)17.VIII.2001
 村岡町境(53342478)(T)25.VIII.2001
 " 長瀬(53342465)(T)25.VIII.2001
 " 長須(53342425)(T)25.VIII.2001
 " 鹿田(53341467)(T)25.VIII.2001
 養父町小城(53340653)(T)13.VIII.2001
 " 広谷大橋(53340652)(T)13.VIII.2001
 " 十二所(53340641)(T)15.VIII.2001
 " 伊豆(53340539)(T)15.VIII.2001
 " 浅野(53340620)(T)21.IX.2001
 " 森(52347579)(T)21.IX.2001
 養父町建屋(52347559)(T)21.IX.2001
 八鹿町八鹿(53340671)(T)30.VI.2001
 " 坂本(53341604)(T)8.VII.2001
 " 石原(53340586)(T)7.VII.2001
 " 加瀬尾(53340594)(A)27.VII.2001
 " 浅間(53341624)(T)18.VIII.2001
 " 下馬瀬(53340589)(T)31.VIII.2001
 " 中村(53340598)(T)31.VIII.2001
 関宮町宮垣(53340537)(T)15.VIII.2001
 " 三宅(53340556)(T)17.VII.2001
 " 万久里(53340554)(T)17.VII.2001
 " 片岡(53340552)(T)17.VII.2001
 " 中瀬(53340439)(T)17.VII.2001
 " 摺鉢(53340428)(T)17.VII.2001
 " 鹿倉口(53340447)(T)17.VII.2001
 " 外野(53340445)(T)23.VIII.2001
 大屋町宮垣(52340537)(T)15.VIII.2001
 " 中(52340526)(T)14.IX.2001
 " 中間(52347478)(T)14.IX.2001
 " 大屋市場(52347593)(T)21.IX.2001
 " 糸原(52347574)(T)21.IX.2001
 大屋町和田(52347553)(T)21.IX.2001
 朝来町物部(52347635)(T)11.VIII.2001
 " 伊由市場(52347604)(T)11.VIII.2001
 " 羽瀨(52346654)(T)11.VIII.2001
 " 上八代(52347603)(T)21.IX.2001
 " 八代(52346683)(T.X)21.IX.2001
 和田山町竹田(52347657)(T)11.VIII.2001
 " 久世田(52347646)(T)11.VIII.2001
 " 和田山(52340608)(T)11.VIII.2001
 山東町大月(52347760)(T)29.IX.2001
 " 諏訪(52347750)(T)29.IX.2001
 生野町円山(52346623)(T)31.VIII.2001
 " 小田和(52346613)(T)31.VIII.2001
 宍垣町遠坂(52347747)(T)29.IX.2001

洲本市小路谷(51343783)(X)21.X.2001
 京都府野田川町岩屋(53352024)(T)6.X.2001
 岡山県備前市三石町野谷(52341260)(X)15.IX.2001

②食草調査したが見られなかった場所

神戸市西区岩岡町岩岡(51340766)(X)20.X.2001
 " " (51340755)(X)20.X.2001
 明石市大久保町大窪(51340726)(X)20.X.2001
 一宮町倉床(52346572)(T)7.X.2001
 " 福中(52346409)(X)7.X.2001
 " 田尻(52345457)(X)7.X.2001
 波賀町戸倉(52347434)(A)14.IX.2001
 豊岡市三原(53343649)(T)18.VIII.2001
 " 畑上-三原(53343638)(T)18.VIII.2001
 " 畑上(53343637)(T)18.VIII.2001
 " 畑上-気比(53343647)(T)18.VIII.2001
 " 祥雲寺(55342668)(T.X)18.VIII.2001
 " 森(55342666)(T.X)18.VIII.2001
 " 岩井(53342613)(T)25.VIII.2001
 " 下宮(53342668)(T)25.VIII.2001
 " 栃江(53342663)(T.X)25.VIII.2001
 " 宮井(53342652)(T)25.VIII.2001
 " 内町(53342631)(T)25.VIII.2001
 " 目坂(53342528)(T)25.VIII.2001
 " 市谷(53341675)(T)22.IX.2001
 竹野町番屋峠(53342537)(T)25.VIII.2001
 日高町奈佐路(53341692)(T)25.VIII.2001
 " 観音寺(53341537)(T)22.IX.2001
 " 羽尻(53341545)(T)22.IX.2001
 " 稲葉(53342512)(T)22.IX.2001
 出石町森井(53341678)(T)22.IX.2001
 " 暮坂(53341626)(T)22.IX.2001
 但東町口藤(53352022)(T)6.X.2001
 香住町三川(53342592)(T)25.VIII.2001
 " 米地(53343565)(T)25.VIII.2001
 " 口佐津(53343575)(T)25.VIII.2001
 " 柴山(53343573)(T.A.X)25.VIII.2001
 " 加鹿野(53343530)(T)25.VIII.2001
 温泉町宮脇(53342325)(T)17.VIII.2001
 村岡町大野(53340487)(T)17.VIII.2001
 美方町城山(53341413)(T)23.VIII.2001
 " 小長迫(53341430)(T)23.VIII.2001
 関宮町葛畑(53340457)(T)17.VIII.2001
 " 大野峠(53340467)(T)17.VIII.2001
 " 福定(53340443)(T)23.VIII.2001
 " 鉢伏高原(53340453)(T)23.VIII.2001
 養父町長野(52347559)(T)21.IX.2001

大屋町須西(52347554)(T)21.IX.2001
 " 宮本(52347565)(T)21.IX.2001
 山東町与余土(52347730)(T)29.IX.2001
 " 和賀(52347761)(T)29.IX.2001
 " 上早田(52347762)(T.X)29.IX.2001
 " 一品(52347763)(T)29.IX.2001
 青垣町山垣(52347748)(T)29.IX.2001
 " 小倉(52346789)(T)29.IX.2001
 " 桧倉(52346797)(T)29.IX.2001
 北淡町野島(51346797)(X)21.X.2001
 " 育波(51346721)(X)21.X.2001
 津名町志筑(51345712)(X)21.X.2001
 洲本市由良内田(51343763)(X)21.X.2001
 " " 生石(51343726)(X)21.X.2001
 京都府久美浜町新町(53343721)(T)18.VIII.2001
 " 久美浜町三原峠(53343730)(T)18.VIII.2001
 鳥取県岩美町蒲生()(T)17.VIII.2001
 " 岩美町岩井()(T)17.VIII.2001
 " 岩美町坂上()(T)17.VIII.2001
 " 岩美町大谷()(T.A.X)17.VIII.2001
 " 岩美町陸上()(T)17.VIII.2001

7 年度別市町別の調査記録
 次表のとおり

<参考文献>

河上康子(1998)私信(初宿成彦のHPより)
 稲畑憲昭(1998)私信(初宿成彦のHPより)
 吉田浩史(1998)私信(初宿成彦のHPより)
 藤田俊児(1998)私信(初宿成彦のHPより)
 滝沢春雄ほか(1999)月刊むし338:26-31
 近藤伸一(1999)ブタクサハムシの兵庫県における
 広がり状況 きべりはむし27(2):76-78
 沢田佳久(1999)ブタクサハムシの分布-兵庫県1999
 年夏の状況
<http://www.gao.ne.jp/~tgs1698/bu99.htm>
 西本浩(2001)兵庫県下のブタクサハムシの移動
 兵庫生物ニュースNo45:302-306

(KONDO SHINICHI)

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

市町別・年度別 一覧表

記載の方法 生息確認の有無：◎ブタクサハムシの生息を確認した □確認出来なかった

場所：市町名の記載を省略した

月日：年を記載を省略した

調査した寄生物：(A)ブタクサ (T)オオブタクサ (X)オオオナモミ

確認者名 稲畑:稲畑憲昭 岡部:岡部真帆 桂:桂由美子 河上:河上康子 近藤:近藤伸一

後藤:後藤統一 沢田:沢田佳久 田中:田中貞之 西本:西本浩 波多野:波多野哲哉

古橋:古橋 藤田:藤田俊児 吉田:吉田浩史

		1998	1999	2000	2001
阪 神	尼崎市	◎末広町8.29(A)西本	◎西大島8.29(X)近藤		
	伊丹市	◎中野東8.29(AX)西本 ◎北河原猪名川右岸 9.17 藤田	□西昆陽8.--(A)岡部		
	川西市		□萩原台8.31(A)後藤		
	猪名川町		◎杉生8.28 (A)西本 □杉生新田8.28(A)西本 □万寿9.30 (X)近藤		
	宝塚市	◎切畑ウケ脇 8.26(A)西本 ◎波豆9.5(A)西本	◎西部7.3(A)西本 ◎塔の町2丁目8.25 (A)西本 ◎中山五万台8.--(A)桂	◎千種8.22(A)西本 ◎大原野中部8.25(A)西本 ◎中州1丁目9.9 (A)西本 ◎千種3丁目9.9 (A)西本 ◎小林5丁目9.19 (A)西本	
	西宮市	◎朝田町8.29(A)西本 ◎山口町船坂峠 9.5(A)西本 ◎御前浜6.23 河上		◎仁川町広川原8.6 (A)田中 ◎上甲東園8.8(X)田中 ◎山口町粉坂9.10(A)西本	
	芦屋市	◎前田町8.29(T)西本 ◎芦屋川河口付近 6.26稲畑 ◎芦屋川葉平橋付近 8.2 吉田	◎山手町10.6(X)近藤 □奥池南町8.--(A)古橋		
	三田市	□椎原8.8(A)西本 □武庫が丘8.8(A)西本 □屋敷町8.8(A)西本	◎椎原6.30(A)西本 ◎武庫が丘7.9(A)西本 ◎東本庄8.28(A)西本 ◎小柿8.20(A)沢田	◎本郷7.9(A)西本 ◎川西9.10(A)西本	
	東灘区	◎住吉山手8.29(A)西本 ◎魚崎南町8.3 吉田	◎住吉台8.29(X)近藤 ◎住吉山手3丁目 8.29(X)近藤		
	灘区	◎六甲台町8.29(A)西本	◎桜ヶ丘町8.29(X)近藤 ◎神大橋内7.24 (A)西本		
戸	中央区		◎布引谷9.18(X)近藤 □再度谷9.30(X)近藤 □二本松林道9.30(X)近藤		
	兵庫区				
	長田区				
	須磨区	◎須磨浦 10.8 河上			
	垂水区				
	西区		◎岩岡町岩岡8.28(X)近藤 ◎伊川谷町有瀬9.5(X)近藤 ◎伊川谷町伊吹9.5(X)近藤 ◎神出町東 9.30(X)近藤 ◎神出町古神9.30(X)近藤	◎田井9.2(AT)西本 □伊川谷町寺谷9.2(X)近藤	◎岩岡町岩岡10.20(X)近藤 □岩岡町岩岡10.20(X)近藤

		1998	1999	2000	2001
神戸市	北区	◎有野町唐櫃 8.29(A)西本 ◎道場町平田 9.5(A)西本	◎山田町衝原9.30(X)近藤 □淡河町北畑9.30(X)近藤 □一里山町七三峠 9.30(X)近藤	◎八多町附物9.2(A)西本 ◎播地9.2(A)西本	
東播磨	明石市	◎明石川河口10.19 河上	◎鳥羽9.5(X)近藤 ◎大久保町大窪9.26(X)近藤 ◎西新町9.5(X)近藤 ◎印南9.12(X)近藤		◎鳥羽10.20(X)近藤 □大久保町大窪10.20(X)近藤
	稲美町				
	播磨町				
	加古川市		◎加古川左岸池尻橋(X)近藤	◎志方町9.3(A)西本	
	高砂市				
	三木市		◎別所町花尻9.25(X)近藤	◎福井9.2(A)西本 ◎里脇9.3(A)西本 □長谷9.3(X)西本	
	吉川町				
	小野市		◎浄谷町 9.12(X)近藤 ◎船木町 9.12(X)近藤	◎石野9.3(A)西本	
	加西市			◎西笠原町9.3(A)西本	
	東条町				
	社町		◎社9.25(X)近藤 ◎三草8.29(A)西本 ◎上鴨川北8.29(A)西本 □牧野8.29(A)西本		
	滝野町		◎上滝野9.25(X)近藤		
	西脇市		◎富田町9.25(X)近藤 ◎西島8.29(A)西本 ◎高松8.29(A)西本		
	八千代町				
	中町		◎東山8.18(A)沢田 □多可高校前 9.25(X)近藤		
	黒田庄町		◎船町8.29(A)西本 ◎大伏8.5(A)沢田 ◎津万井8.5(A)沢田		
	加美町		◎寺内町9.25(X)近藤 □道の駅付近8.18(A)沢田 □役場南8.18(A)沢田		
中播磨	姫路市		◎野里10.11(X)近藤 ◎仁豊野10.11(X)近藤 ◎小川橋8.6(A)沢田	◎六九谷8.20(A)西本	
	夢前町			◎又坂8.20(A)西本	
	家島町			◎真浦9.24(A)西本 □宮 9.24(A)西本	
	香寺町		◎恒屋川岩瀬橋8.6(A)沢田	◎久畑8.20(A)西本	
	福崎町			◎西治8.20(A)西本 ◎大門9.3(A)西本	
	市川町		◎市川町屋形10.11(X)近藤 ◎西田中8.6(A)沢田	◎山崎9.3(AT)西本 □沢9.3(T)西本	◎上瀬加8.20(T)近藤
	神崎町		◎貝野橋8.6(A)沢田 ◎粟賀新神崎橋8.6(A)沢田 □大山10.11(T)近藤 □柏尾8.6(A)沢田	□野村9.3(T)西本	◎大山8.26(T)近藤 ◎猪篠8.31(A)近藤
	大河内町		□上小田10.24(T)近藤		◎上小田10.7(A)近藤 ◎宮野10.7(A)近藤

		1998	1999	2000	2001
西播磨	御津町				
	揖保川町				
	太子町				
	竜野市		◎揖保町今市9.18(X)近藤 ◎祇園橋8.11(A)沢田	◎揖西町8.20(A)西本	
	新宮町		◎新宮9.29(X)近藤 ◎しんぐ荘8.11(A)沢田	◎平見8.20(A)西本	
	安富町			◎安志8.20(A)西本	
	山崎町		◎千本屋 10.24(X)近藤 ◎岸田10.24(X)近藤 ◎与位10.24(X)近藤 ◎宇原橋南東8.11(A)沢田 ◎五十波8.11(A)沢田	◎木ノ谷8.20(A)西本 ◎高下8.20(A)西本	
	一宮町		◎三軒屋 10.24(X)近藤 □倉床9.25(X)近藤 □田尻9.25(X)近藤 □上浜11.4(X)沢田		◎百千家満10.7(A)近藤 ◎下野田10.7(A)近藤 □倉床10.7(X)近藤 □福中10.7(X)近藤 □田尻10.7(X)近藤
	波賀町		◎有賀8.11(A)沢田 □安賀8.11(A)沢田 □野尻-有賀間8.11(A)沢田 □道谷口8.11(A)沢田	◎日見谷8.20(A)西本 □今市8.20(X)西本	□戸倉9.14(A)近藤
	千種町				
	相生市				
	赤穂市		◎有年横尾10.3(X)近藤	◎有年原8.20(A)西本 ◎大津10.22(A)西本	
	上郡町		◎山野里10.3(X)近藤 ◎船坂10.3(X)近藤 ◎高山10.3(X)近藤 ◎行頭10.3(X)近藤		
	南光町			□下三河8.20(A)西本 □榎田 8.20(X)西本 □平谷8.20(TX)西本	
	上月町				
	三日月町				
	佐用町		◎共立病院下8.10(A)沢田 ◎山脇-大坪8.10(AX)沢田	□下石井8.20(X)西本	
北但馬	豊岡市		□江野10.11(T)近藤 □佐野10.11(T)近藤 □堀川橋南東10.26(X)沢田 □氣比の浜橋8.4(A)沢田	□玄武洞9.15(T)西本 □江本9.15(T)西本 □江野9.15(T)西本 □氣比9.15(T)西本	◎氣比8.18(TA)近藤 ◎玄武洞8.18(T)近藤 ◎九日市8.25(T)近藤 ◎妙楽寺8.25(T)近藤 □三原8.18(T)近藤 □畑上8.18(T)近藤 □祥雲寺8.18(TX)近藤 □森8.18(TX)近藤 □岩井8.25(T)近藤 □下宮(T)8.25(T)近藤 □新江8.25(TX)近藤 □宮井8.25(T)近藤 □内町8.25(T)近藤 □目坂8.25(T)近藤 □市谷9.22(T)近藤

	1998	1999	2000	2001
北 但 馬	城崎町		□菜々浦9.15(T)西本	◎桃島8.18(TX)近藤
	竹野町	□森本10.11(T)近藤	◎竹野駅前9.15 (T)西本	◎床瀬8.25(T)近藤 ◎中村8.25(T)近藤 ◎銅山8.25(T)近藤 ◎門谷8.25(T)近藤 □番屋峠8.25(T)近藤
	日高町	◎赤崎橋8.4(A)沢田 □西芝10.11(T)近藤		◎祢布8.24(T)近藤 ◎藤井8.24(T)近藤 ◎久田谷9.22(T)近藤 ◎佐田9.22(T)近藤 ◎栗山9.22(T)近藤 ◎殿9.22(T)近藤 ◎十戸9.22(T)近藤 ◎名色9.22(T)近藤 ◎神鍋山9.22(T)近藤 ◎万却9.22(T)近藤 □奈佐路8.25(T)近藤 □観音寺9.22(T)近藤 □羽尻9.22(T)近藤 □稲葉9.22(T)近藤
	出石町		□福住9.15 (T)西本	◎細見8.18(T)近藤 ◎福見9.22(T)近藤 ◎鍛冶屋9.22(T)近藤 ◎寺坂9.22(T)近藤 □森井9.22(T)近藤 □葛坂9.22(T)近藤
	但東町		◎出合9.15 (T)西本 ◎畑山9.15 (T)西本 ◎佐田9.15 (T)西本 ◎知布9.15 (T)西本	◎矢根9.22(T)近藤 ◎出合9.22(T)近藤 ◎平田9.22(T)近藤 ◎栗尾9.22(T)近藤 ◎薬王寺9.22(T)近藤 ◎久畑9.22(T)近藤 ◎畑山10.6(T)近藤 □中藤10.6(T)近藤
	香住町	□小原10.11 (T)近藤 □境10.11 (X)近藤 □無南垣10.11(X)近藤 □矢田川矢田橋8.19(A)沢田 □加鹿野8.19(A)沢田	◎鎧9.15 (T)西本 □佐古峠9.15 (AT)西本 □丹生地9.15 (T)西本	◎本見塚8.25(T)近藤 ◎準人8.25(T)近藤 ◎香住8.25(T)近藤 ◎大野8.25(T)近藤 ◎藤8.25(T)近藤 □三川8.25(T)近藤 □米地8.25(T)近藤 □口佐津8.25(T)近藤 □柴山8.25(TAX)近藤 □加鹿野8.25(T)近藤
	浜坂町	□居組(A)沢田 □七釜橋北東(A)沢田	◎七釜9.23 (ATX)西本 □久谷9.23 (T)西本 □芦屋9.23 (T)西本 □居組9.23 (T)西本	◎居組 8.17(T)近藤 ◎古市 8.17(T)近藤
	温泉町	□春来川小豆谷橋8.19(A)沢田 □金屋口今岡橋8.19(A)沢田	□歌長北9.23(T)西本	◎金屋 8.17(T)近藤 ◎出合 8.17(T)近藤 □宮脇 8.17(T)近藤

		1998	1999	2000	2001
北 但 馬	村岡町		☐ 福岡10.11(T)近藤 ☐ 入江10.11(X)近藤 ☐ 長瀬10.11(T)近藤 ☐ 寺河内8.19(A)沢田	☐ 寺河内9.23(T)西本	◎境 8.25(T)近藤 ◎長瀬 8.25(T)近藤 ◎長須 8.25(T)近藤 ◎鹿田 8.25(T)近藤 ☐ 大野 8.17(T)近藤
	葵方町			☐ 城山9.23(T)西本	☐ 城山 8.23(T)近藤 ☐ 小長迫8.23(T)近藤
南 但 馬	八鹿町		☐ 八木10.11(T)近藤	◎八木9.23 (T)西本 ☐ 小田9.15 (T)西本 ☐ 寺谷9.15 (T)西本	◎八鹿 6.30(T)近藤 ◎坂本 7.8(T)近藤 ◎石原 7.7(T)近藤 ◎加瀬尾7.27(T)近藤 ◎浅間 8.18(T)近藤 ◎下馬瀬8.31(T)近藤 ◎中村 8.31(T)近藤
	養父町		☐ ハザマジ峠10.11(T)近藤 ☐ 広谷10.11(T)近藤	◎上野9.23 (T)西本 ☐ 口米地9.15 (AT)西本	◎小城8.13(T)近藤 ◎広谷大橋8.13(T)近藤 ◎十二所8.15(T)近藤 ◎伊豆8.15(T)近藤 ◎浅野9.21(T)近藤 ◎森9.21(T)近藤 ◎建屋9.21(T)近藤 ☐ 長野9.21(T)近藤
	関宮町		☐ 下吉井10.11(X)近藤	◎吉井9.23 (AT)西本 ☐ 草出9.23 (T)西本 ☐ 大久保9.23 (T)西本	◎宮垣 8.15(T)近藤 ◎三宅 7.17(T)近藤 ◎万久里7.17(T)近藤 ◎片岡 7.17(T)近藤 ◎中瀬 7.17(T)近藤 ◎摺鉢 7.17(T)近藤 ◎鹿倉口7.17(T)近藤 ◎外野 8.23(T)近藤 ☐ 葛畑 8.17(T)近藤 ☐ 大野峠8.17(T)近藤 ☐ 福定 8.23(T)近藤 ☐ 鉢伏高原8.23(T)近藤
	大屋町		☐ 大屋市場9.25(T)近藤 ☐ 明延9.25(T)近藤		◎宮垣 8.15(T)近藤 ◎中 9.14(T)近藤 ◎中間 9.14(T)近藤 ◎大屋市場9.21(T)近藤 ◎糸原9.21(T)近藤 ◎和田9.21(T)近藤 ☐ 須西9.21(T)近藤 ☐ 宮本9.21(T)近藤
	和田山町		☐ 竹田10.11(T)近藤 ☐ 立ノ原10.11(T)近藤 ☐ 岡江9.17(T)波多野 ☐ 林垣8.4(A)沢田	☐ 柳原9.23(T)西村	◎竹田 8.11(T)近藤 ◎久世田8.11(T)近藤 ◎和田山8.11(T)近藤
	朝来町		☐ 立脇10.11(X)(T)近藤 ☐ 道の駅8.29(T)西本 ☐ 伊由市場8.29(T)西本		◎物部 8.11(T)近藤 ◎伊由市場 8.11(T)近藤 ◎羽剥 8.11(T)近藤 ◎上八代9.21(T)近藤 ◎八代9.21(TX)近藤

		1998	1999	2000	2001
南 但 馬	生野町		□円山 10.11(T)近藤		◎円山 8.31(T)近藤 ◎小田和8.31(T)近藤
	山東町		◎金浦9.25(X)近藤 □野間9.25(T)近藤 □一品9.25(T)近藤 □大垣8.29(T)西村 □追間9.17(T)波多野 □田中9.17(T)波多野 □越田9.17(T)波多野 □西谷奥9.17(T)波多野 □田口9.17(T)波多野 □梁瀬8.4(A)沢田		◎樂音寺9.29(T)近藤 ◎諏訪9.29(T)近藤 □与余土9.29(T)近藤 □和賀9.29(T)近藤 □上早田9.29(T.X)近藤 □一品9.29(T)近藤
丹 波	柏原町		◎下町8.28(A)西本 ◎上小倉8.28(A)西本 ◎柏原8.29 西本		
	山南町		◎井原8.28(A)西本 ◎村森8.5(A)沢田		
	氷上町		◎三原8.28(A)西本 ◎大崎8.5(A)沢田 ◎稻次穂壺城跡8.5(A)沢田 ◎加古川下油利8.5(A)沢田 □船戸橋-さちよ橋 8.3(A)沢田		
	春日町		◎石才8.29 (A)西本 □竹田川渡所橋東(A)8.3沢田		
	市島町		◎勅使8.29 西本 □東勅使8.3(A)沢田 □広田橋8.3(A)沢田		
	青垣町		◎檜倉8.18(A)沢田 □遠阪川鹿島橋8.3(A)沢田 □西芦田8.3(A)沢田		◎遠坂9.29(T)近藤 □山垣9.29 (T)近藤 □小倉9.29(T)近藤 □檜倉9.29(T)近藤
	篠山市 (篠山町)		◎日置東8.29 (A)西本 ◎大上8.28 (A)西本 ◎八上内8.29 (A)西村 ◎日置六本柳8.20(A)沢田		
	(西紀町)		◎宮田8.28(A)西本		
	(丹南町)		◎真南条中8.29 (A)西本 ◎鑓が坂8.28 (A)西本 ◎栗栖野バス停8.20(A)沢田 ◎住吉台8.28(A)西本		
	(今田町)		◎今田新田8.29(A)西本		

		1998	1999	2000	2001
淡路	淡路町				
	北淡町		☐ 江崎10.18(X)近藤 ☐ 野島平林10.18(X)近藤 ☐ 小倉10.18(X)近藤 ☐ 舟木10.18(X)近藤	☐ 仁井10.9(TX)西本 ☐ 生田大坪10.9(X)西本	☐ 野島平林10.21(X)近藤 ☐ 育波10.21(X)近藤
	東浦町				
	津名町				☐ 志筑10.21(X)近藤
	一宮町				
	五色町			◎塔下10.9(A)西本	
	洲本市		☐ 由良天川 9.19(X)近藤 ☐ 由良生石9.19(X)近藤 ☐ 由良成ヶ島9.19(X)近藤 ☐ 上瀬 9.19(X)近藤		◎小路谷10.21(X)近藤 ☐ 由良生石10.21(X)近藤 ☐ 由良内田10.21(X)近藤
	緑町		☐ 中条中筋9.19(X)近藤		
	三原町		☐ 山所9.19(X)近藤		
	西淡町			◎伊加利10.9(A)西本	
	南淡町				
京都府	夜久野町		◎高内町9.25 (X)近藤 ☐ 上夜久野駅裏(X)9.25近藤 ☐ 日置8.29(T)西本		
	福知山市		◎岩間8.29 (A)西本 ◎岩崎付近8.3(A)沢田 ◎牧8.3(A)沢田 ☐ 奥槻原8.3(A)沢田 ☐ 陵北8.29(A)西本 ☐ 立原8.29(A)西本	◎中佐々木9.15(A)西本	
	三和町		◎三和橋8.3(A)沢田		
	峰山町			◎二箇9.15(T)西本	
	大江町		☐ 屋敷口7.27(A)沢田		
	舞鶴市		☐ 志高長池7.27(A)沢田		
	野田川町		☐ 石川口7.27(A)沢田		◎岩屋10.6(T)近藤
	久美浜町			◎三原峠9.15 (T)西本 ☐ 佐野甲9.15(T)西本 ☐ 知慈寺9.15(T)西本	☐ 新町8.18(T)近藤 ☐ 三原峠8.18(T)近藤
岡山県	備前市		◎坂根10.23(X)近藤	◎宮前10.22 (A)西本	◎三石町野谷9.15(X)近藤
	和気町		◎藤野10.23(X)近藤		
	吉永町		◎早子10.23(X)近藤		
	熊山町		◎河田原10.23(X)近藤		
	瀬戸町		◎日市10.23(X)近藤		
	長船町		◎船山10.23(X)近藤		
	日生町			◎日生10.22 (A)西本	
	大原町			☐ 中町10.22(X)西本	
鳥取県	岩美町		☐ 岩井温泉入口8.19(A)沢田 ☐ 役場北8.19(A)沢田 ☐ 陸上トナリ東8.19(A)沢田	☐ 陸上9.23(A)西本	☐ 蒲生8.17(T)近藤 ☐ 岩井8.17(T)近藤 ☐ 坂上8.17(T)近藤 ☐ 大谷8.17(TAX)近藤 ☐ 陸上8.17(T)近藤
	鳥取市			☐ 安畑9.23(AX)西本	
	国府町			☐ 吉野9.23(TX)西本	
	智頭町		☐ 篠坂神社9.1(A)沢田		

芦屋市の蝶(その2)

西 隆 広

1. はじめに

私は兵庫県芦屋市の蝶に関して1984年に報告した¹⁾(以下「84年報告」という)。その後十数年を経て、芦屋市で見られる蝶は変化を見せている。そこで84年報告をベースに、その後2000年までの記録を一定の期間に区切り、期間ごとに記録の有無を示すことにより、芦屋市における蝶という昆虫の一群についての種別の消息を報告する。

用いた記録は一部を除いて、現在私が所有しているものである。記録の形態は、標本、野帳記載或いは生態写真である。標本、野帳記載については次の問題点を含んでいることをお断りする。

標 本：標本の一部は1995年1月の兵庫県南部地震による家屋被害で失われた。
それらの中で記録を控えていなかった標

本のデータは失われた。

野帳記載：1992年の後半から、市内で下記の2ルートを決めて種別の頭数の記録を始めた。しかし、地震後の県外疎開期間である1995年、1996年の芦屋市内での記録は少ない。また1997年以降は、2ルートの内、簡単に観察できる第1ルートに偏っている。
ルートでの観察は、ルート内を幾つかの区間に分けて、区間内で目撃した蝶の数を種別にカウントしている。ルートでの観察を開始する以前の目撃記録は少しあるが、断片的で連続性に欠け不十分である。なお地震後野帳類はすべて取り出すことができた。

観察ルート

区 分	観察ルートの始終点及び経由地点
第1ルート	芦屋川業平橋(標高=17m)～城山(標高=260m)～高座滝(標高=200m)
第2ルート	東お多福山登山口(標高=450m)～蛇谷～(標高=480m～640m)～東お多福山(標高=696m)

注)「観察ルートの始終点及び経由地点」は基本であり、観察に当たっては、始終点の変更、区間の追加、削除を適宜行っている。

2. 芦屋市の蝶の期間別記録

私が2000年までに芦屋市内で記録した79種の蝶の期間別記録の有無を示したものが巻末に示した「芦屋市の蝶：期間記録一覧表」である。84年報告より後の期間記録については1期間の区切りは原則として5年としたが、84年報告は1983年までの記録に基づいているため、始めの期間は1984年～1990年の7年間を1期間とした。

同表等に基づき以下に芦屋市の蝶の概観を述べる。

(1) 芦屋市の蝶の消長

「芦屋市の蝶：期間記録一覧表」及び同表を作成するために用いた私の全記録に基づき84年報告以降、新に記録されたもの、記録が途絶えているものなどをまとめたものが、「芦屋市の蝶の消長」である。「84年報告の後、新に見出された種」である5種の内、3種は近年分布の拡大が著しい当地にとってより南方起源の蝶である。私は進出して来る話題性の高い蝶よりも、姿を消しつつある地味な蝶を重視している。より大きな生態的環境問題が、そこにあると考

えるからである。その中で温帯系ヒョウモンチョウ類の減少傾向が気にかかっている²⁾。温帯系ヒョウモンチョウ類はメスグロヒョウモンを除く4種については1980年代前半の野帳の記述を見る限り珍しくなかったが、現在では1種を除いて著しく減少しているか、あるいは見られなくなっている。この現象に関しては、後述するルートを決めての種別頭数観察を開始した1992年後半時点では、すでに現在とあまり変わらなくなっており、何時頃から、どの様に観察数が減少していったかを確認できなかったことは残念である。

温帯系ヒョウモンチョウ類など一部の種の衰退の原因の一つには、植生が二次林である六甲山の場合は、その遷移が進行中であることが挙げられよう。戦後半世紀以上の間、藪から見ると六甲山は、植林事業などによって緑が確実に豊かになった。そして林床は暗くなっていった。その過程で栄養塩が蓄積されたためか、裸地などのブッシュ化が進んでいる。急峻な上に、表層が風化花崗岩起源のマサ土でなる不安定な六甲山の治山のためには重要であるこの遷

移は、一部の蝶などにはかなりの影響を与えているのではないと思う。

その他、かつて所々にあった湿地は大規模な開発の影響で多くが消滅し、さらに地球温暖化の影響か、近年の小雨傾向で、残存湿地の乾燥化が進んでいる。芦屋市の場合、奥池南部のいもり谷に広がっていた

貴重な湿地群は、1960年代に行われた保養地のための宅地開発で多くが失われ、その結果であろう、ウラナミジャノメは絶滅した。現在僅かに残っている湿地には、ハッチョウトンボが今年(2001年)も見られたが、乾燥化による草原化が進んでおり、後暫くで姿を消すのではないかと危惧している。

芦屋市の蝶の消長(2000年までの記録による)

区 分	該 当 種
2000年から遡り20年以上記録がない種(絶滅)	ウラナミジャノメ
2000年から遡り10年以上記録がない種	エゾスジグロシロチョウ、ウラキンシジミ ^{注)} 、ウラナミアカシジミ、クロシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、ヒメヒカゲ、ミヤマチャバネセセリ
2000年から遡り5年以上記録がない種	メスグロヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ヒメジャノメ
相当の期間をおいて近年再記録された種	ツマグロキチョウ(9年)、アオバセセリ(15年)
84年報告の後、新たに見出された種	クロコノマチョウ、ウラゴマダラシジミ、イシガケチョウ、ミスジチョウ、ムラサキツバメ

注) 2001年に記録された。

(2) 芦屋市で注目すべき蝶

「芦屋市の蝶：期間記録一覧表」の区分欄に●を付した種について略記する。

● ツマグロキチョウ *Eurema laeta*

1980年代前半は海岸線から山中まで広範囲にかなりの記録があったが、その後は殆どなく、1990年の目撃記録を最後に、記録が途絶えていた。

1999年秋に久し振りに1♂の記録を得た。ところで本種の芦屋市における私の記録には夏型がなく、すべて秋型である。なお1984年に越冬個体の記録が1例ある。

● エゾスジグロシロチョウ *Pieris napi*

84年報告以外にない。その標本は震災で失われた。芦屋市では同属のスジグロシロチョウ(*P. melete*)も決して多くはない。本種は何時も注意しているが、出会えない。

● ムラサキツバメ *Narathura bazalus*

1999年に記録したのが最初であるが、2000年は確認できなかった。本市での発生は古市景一氏の連絡により知った。古市景一氏より報告がある予定である。

● ウラゴマダラシジミ *Artopotes pryri*

1992年の初記録²⁾の他に、2001年までの間に4例の記録がある。細々と生き続けているようである。なお、最初の標本は震災で失われた。

● ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*

1991年～2000年の記録がないが、この原因の一つにルートでの観察に力を入れていたために、本種

の主な発生地である高座川上流域を見回らなかったことが挙げられる。ただ、2000年に本種の記録を求めて発生地に入ってみたが、出会わなかった。そこで明らかな減少傾向が見られると考えていたところ、2001年は第1ルート内で3頭記録した。内1頭(♀)は、クリの花を訪れていた。

● ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata*

84年報告の記録を最後に、以後全く記録していない。

● オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

かつては第1ルートの城山周辺では、少ないながらも毎年見られた。城山ではその後断続的に記録があったが、1993年の記録が現在までの最後の記録となっている。第2ルート内の東お多福山では、時折観察される程度だが、2000年には数頭の♂による追飛が観察された。

● クロシジミ *Niphandia fusca*

1980年のいもり谷での標本が現存している他、1984年の目撃記録があるが、その後の記録がない。注意しているが、最近は全く見られない。84年報告の標本は震災で失われた。

● ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice*

温帯系ヒョウモンでは、本種のみが現在まで連続的に見られ、第2ルート内の東お多福山では個体数は少なくない。しかし今後他の温帯系ヒョウモンと同様に姿を消す可能性があり、現在注意深く見守っている。

● オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome rus-*

lana

1983年を最後に記録が途絶えている。石宝殿(芦屋市と西宮市の境界上にあり標高860m)付近など、ルート観察地域外に残存している可能性がある。

● メスグロヒョウモン *Damora sugana*

84年報告の他には、1987年及び1994年の記録がある。1994年は複数回観察されたが^{2.)}、昔から極めて散発的にしか観察できない種である。

● ミドリヒョウモン *Argynnis paphia*

各期間の記録としては連続しているが最近は著しく少なくなり、記録のない年が多くなっている上に、最近の5年間は記録がある年でも秋季のみの記録となっている。2000年秋には、芦屋市の南部住宅地で越冬個体を確認した。

● ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe*

1991年の標本(東お多福山、金武克巳採集・保管)を確認している他、1993年の目撃記録があるが、最近は全く見かけなくなった。石宝殿付近など、ルート観察地域外に残存している可能性がある。

● ミスジチョウ *Neptis philyra*

1999年の1♀が私が有する市内唯一の記録である。2001年には本種の雄らしい個体を目撃したが、確認に至らなかった。見逃しがあると考えられる。

なお、上記記録は未報告であるので、ここでデータを添えて報告する。

データ 1♀ 12.VI.1999 芦屋川中流(奥山)

芦屋市 西 隆広 採集・保管

● サカハチチョウ *Araschnia burejana*

六甲山では少ない種であるが、僅かながらも増えつつあるようだ。著名な鳥の研究家で昆虫にも造詣が深かった故小林桂助氏は「昔は、六甲山にはいなかった」と語っていた。

● スミナガシ *Dichorragia nesimachus*

84年報告の他に、1994年の記録がある。また、芦屋市に隣接する神戸市東灘区東部の芦屋川流域内で、1985年に記録している。少ない種である。

なお、84年報告時点では本種の市内の標本がなかったため、データの無い報告となっている。1994年の記録を報告しておく。

データ 1♀ 21.VIII.1994 蛇谷

芦屋市 西 隆広 採集・保管

● イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

1992年に確認^{2.)}して以来、毎年ではないが記録している。2001年も記録した。

● ウラナミジャノメ *Ypthima multistriata*

84年報告のとおりである。芦屋市では絶滅種である。

● ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus*

現存の記録では1984の写真記録が最後になっている。その後も暫く見られ、知人より写真撮影の報告を受けたがデータは残っていない。現在は全く見られない。芦屋市では生息に適した環境は少ないが、

そこで長期間記録が途絶えていることから、絶滅した可能性が高い。

● ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*

観察に力を入れている2ルート内に本種の生息地がないことから、確認が難しくなっており、1996年～2000年の記録がない。本市では山麓部での宅地開発の結果、田園的な環境が少なくなっており本種は局地的に見られる程度であるが、本来の生息環境ではない森林で鬱閉された谷での記録もある。

● クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

1985年に確認^{3.)}して以来、ほぼ毎年見られるが、多いものではない。夏季よりも秋季の記録が多いが、越冬個体の記録もある^(2.)の報告の後確認。

● アオバセセリ *Chaospes benjaminii*

1970年代までは、城山の山頂では、雄がテリトリーを争う光景が見られた。その後、84年報告(1983年の目撃記録)を最後に、私の記録からは見られなくなっていた。1998年5月、高座川においてウツギの花にきた1♀を久し振りに採集した。少なくなった蝶の一つである。

● ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis*

1981年～1983年の標本が残っている他1984年の目撃記録があるが、その後途絶えている。観察時には何時も注意しているが、再発見には至っていない。

3. ルートを定めての観察の功罪

この報告では、1992年後半から始めた2ルートでの観察記録が大いに役立った。しかし、ルートを定めての観察を行うことは、個人の感覚では功罪相半ばする、という気持ちになる。このことについて少し述べておきたい。

ルートを定めての観察の悩みは、週末にしか時間が自由にならない今の私にとって、時間確保が困難になることである。また、できるだけ間隔を開けずに観察しようとする結果、時には精神的な負担を感じることがある。特に猛暑の季節は、蝶の姿は明らかに少なくなるが、それでも、観察を行わなければならないとして、時々さぼりつつも、出かけることになる。結構疲れる。また、この観察に力を入れますと、ルート外で主に見られる種の記録が欠落し、結果としてある種の異変に気づかずに過ごすことになりかねない。

一方、ルートを定めての観察は、回数を重ねる中で様々なものが見えてくる。この観察を開始した第一の目的はそこにある。今回の報告は原則として84年報告とそれ以降の、記録の有無までとしたが、季節ごとの種別、区間別の頭数記録を今後分析する中で、面白いものが見えてくるのではないかと期待している。これについては、2001年にアカシジミやテングチョウの多発に遭遇したが、両種ともにルート内に発生地があったために、過去の日撃個体数との比較が可能となった。種別に様々な変動を見せる

中で、その背景即ち環境の変化の状況まで類推できれば、と思っている。

4. あとがき

芦屋市では84年報告以降、現在まで連続的に見られる蝶の中にも、同報告での解説とは異なった状態になっているものがある。本来ならば全種に対して解説できればよいのだが、そのためにはルート外の近年の観察記録が極めて不十分な状態である。今後何年かかけて観察した後、改めて報告したい。

謝 辞

今回の報告に当たっては、古市景一氏にはムラサキツバメの情報を頂戴するなど御世話になりました。また金武克巳氏には芦屋市でのウラギンヒョウ

モンの記録を提供していただきました。末筆ではありますが、お二人に深甚の謝意を表します。なお、金武氏の標本は、兵庫県南部地震で甚大な被害に遭われたお宅からかろうじて取り出された貴重なものであることを、ここにご報告致します。

<参考文献>

1. 西 隆広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし No.9: 28-38
2. 西 隆広(1994) 六甲山域の蝶数種について きべりはむし第22巻第2号
3. 西 隆広(1988) 芦屋市内におけるクロコノマチョウの記録 きべりはむし第16巻第1号

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西町4-3)

芦屋市の蝶：期間記録一覧表

84年報告及び各期間で○を記入した種は、記録があることを示す。

区分	和 名	学 名	84年 報告	期 間		
				1984～ 1990	1991～ 1995	1996～ 2000
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous</i>	○	○	○	○
	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>	○	○	○	○
	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	○	○	○	○
	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	○	○	○	○
	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>	○	○	○	○
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>	○	○	○	○
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>	○	○	○	○
	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>	○	○	○	○
	カラスアゲハ	<i>Papilio dehaanii</i>	○	○	○	○
	ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	○	○	○	○
	キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	○	○	○	○
●	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i>	○	○		○
	モンキチョウ	<i>Colias erate</i>	○	○	○	○
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	○	○	○	○
●	エゾスジグロシロチョウ	<i>Pieris napi</i>	○			
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>	○	○	○	○
	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	○	○	○	○
	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>	○	○	○	○
●	ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus</i>				○
●	ウラゴマダラシジミ	<i>Artopotes pryri</i>			○	○
●	ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>	○	○		
	アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	○	○	○	○
●	ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	○			
	ウラミスジシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	○	○	○	○
	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>	○	○	○	○
●	オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	○		○	○
	コツバメ	<i>Calophrys ferrea</i>	○	○	○	○
	トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	○	○	○	○
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>	○	○	○	○
●	クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	○			
	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	○	○	○	○

区分	和 名	学 名	84年 報告	期 間		
				1984～ 1990	1991～ 1995	1996～ 2000
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha</i>	○	○	○	○
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>	○	○	○	○
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>	○	○	○	○
	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>	○	○	○	○
	テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>	○	○	○	○
	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>	○	○	○	○
●	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>	○	○	○	○
●	オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome rulsana</i>	○			
●	メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>	○		○	
●	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>	○	○	○	○
●	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe</i>	○	○	○	
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	○	○	○	○
	イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla</i>	○	○	○	○
	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>	○	○	○	○
	コミスジ	<i>Neptis sappho</i>	○	○	○	○
	ホシミスジ	<i>Neptis pryri</i>	○	○	○	○
●	ミスジチョウ	<i>Neptis philyra</i>				○
●	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>	○		○	○
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>	○	○	○	○
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	○	○	○	○
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	○	○	○	○
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	○	○	○	○
	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>	○	○	○	○
●	スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus</i>	○		○	
●	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>			○	○
	コムラサキ	<i>Apatura metis</i>	○	○	○	○
	ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>	○	○	○	○
	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	○	○	○	○
●	ウラナミジャノメ	<i>Ypthima multistriata</i>	○			
●	ヒメヒカゲ	<i>Coenonympha oedippus</i>	○	○		
	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	○	○	○	○
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	○	○	○	○
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>	○	○	○	○
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	○	○	○	○
●	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>	○	○	○	
	コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i>	○	○	○	○
●	クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima</i>		○	○	○
	ミヤマセセリ	<i>Erynnis montanus</i>	○	○	○	○
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio lathys</i>	○	○	○	○
●	アオバセセリ	<i>Choaspes benjamintii</i>	○			○
	コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>	○	○	○	○
	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>	○	○	○	○
	ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>	○	○	○	○
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>	○	○	○	○
	オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida</i>	○	○	○	○
●	ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>	○	○		
	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>	○	○	○	○
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	○	○	○	○

注) 区分の●:「芦屋市で注目すべき蝶」としてコメントしたもの

兵庫県のウワバ亜科

兵庫県産蛾類分布資料・22

高島 昭

ここではヤガ科のうち兵庫県で記録があるウワバ亜科について述べる。データは2001年8月31日現在で入手できた資料に基づいている。記載の要領はこれまでと同じであるが、引用文献の表示方法を若干変更している。これまでは報告ごとに文献を整理し番号をつけていたが、これでは全体をしてみたときに参照するのに不便を生じるので、筆者の文献データベースを基にした番号に改めた。このため文献番号は連番とはなっていないが、例えば別稿の「兵庫県のキノカワガ…」の文献番号と本稿の文献番号は連動している。なお、文献リストは稿を改めて紹介する予定である。

また、データのあとの★マークは、兵庫県立人と自然の博物館で確認できた標本を示す。標本調査及び記録の掲載に格別のご配慮を頂いた兵庫県立人と自然の博物館の中西明德氏、八木剛氏にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げる。

ウワバ亜科 <PLUSIINAE>

形態的には比較的良好なまとまった一群で、2、3の例外を除いて複眼の後方から複眼を覆うように繊毛が発達し、金色または銀色の金属色斑紋を種が多い。

本亜科の種は全大陸と主な島嶼に分布し、寒地帯から熱帯地域にまで特有の種群を有するが、全体的には森林より乾燥地によく適応している。熱帯性の種群は広域分布種を多く含み、移動性が強く特定の休眠期を有しないものが多い。幼虫は*Abrostola*を除いて第1,2腹脚を欠くセミルーバー。キク科やその他の草本につくものが多く、中には野菜類の害虫として著名な種も含まれる。

日本では詳細不明なものも含めて60種が確認されており、兵庫県からは26種が報告されている。なお、ムラサキキンウワバは過去に報告されているが誤認と思われるためリストには含めていない。

地域別に見ると、神戸16種、阪神・北摂18種、中東播南部8種、中東播北部16種、西播南部12種、西播北部16種、南但17種、北但10種、丹波13種、淡路北部6種、淡路南部14種となっていて、種類数だけでは地域間の違いは見られない。中東播南部、淡路北部で種類数が少ないが調査頻度が少ないためと思われる。しかし、種毎に見ると冷温帯性の種や南方系の種では特徴的な分布を示している。

このうち、シーモンキンウワバ、オオキクギンウワバ、ガマキンウワバ、アミメギンウワバ、コセア

カキンウワバなどは記録が少なく注目種である。これらの種は記録が少ない種に加え、分布の限界域となっているもの、長い間再発見されていない種も含まれ、調査が必要である。また、ウスグロマダラウワバをはじめ6種は兵庫県からは未発見であるが、今後確認される可能性がある。

1. *Abrostola triplasia* (Linnaeus) (4118)

イラクサマダラウワバ

本属中では小型で前翅は他種に比べてややくすんだ灰黄色を帯びうる。翅頂近くの外横線の起点附近の淡色影は他種よりも顕著で外見で確実に同定できる。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島、徳之島に分布する。食草はイラクサ科である。オーブンランドのような環境を好み都市近辺や耕作地附近でも見られる。年2回の発生である。県下では平地から山地まで広く分布する。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町,13.X.1987,-,新家勝¹¹³; 引原,22.VI.1974,1♂;29.VI.1974,1♂;22.V.1976,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
相生市(三瀬山,25.VI.2000,1♂,高島昭)
南光町(船越,7.VII.1968,1ex.,岡本清¹⁰⁴)
朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀⁷⁰)
水ノ山(---,---,遠山ほか²⁴)
関宮町(福定,25.VII.1973,2♂,遠山雅夫²⁰)

2. *Abrostola major* Dufay (4121)

オオマダラウワバ

本属中ではやや大型で内・外横線を縁取る赤色条は充分赤褐色であるが、外見上ミヤママダラウワバと酷似し区別が困難である。近縁種中では暖温帯性の要素が強く、東北地方以北ではまれで、関東以西、九州に至る本土域に分布の中心があり対馬にも産する。年2回の発生。幼虫はアカソ、カラムシを食べることが知られている。県下では、低山地から山地にかけて分布しているがやや局地的である。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,---,---,田中蕃²¹)
能勢妙見山(26.VIII.1983,3♂,夏秋ほか²⁷)
波賀町(引原,18.V.1974,1♂;27.IX.1974,1♂;2.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵; 同,20.VIII.1988,2♂;22.IX.1988,1♂,高島昭¹⁴)
三日月町(下本郷,-.V.1984,-,川副昭人¹⁰²)
水ノ山(---,---,遠山ほか²⁴)
関宮町(大段ヶ平,21.VII.2000,1♂;4.VIII.2000,1♂,高

島昭：福定,23.VI.1973,4♂,遠山雅夫³⁰⁾

3. *Abrostola pacifica* Dufay (4120)

ミヤマダラウワバ

前翅の内横線の内側を走る赤褐色条は近縁種中で最も太い。エゾマダラウワバとはほぼ同様な分布を示し、北海道から中部にかけて産するが中国山地からも得られている。年2回の発生であるが食草は分かっていない。県下では、氷ノ山山系にのみ産する。

【採集記録】

波賀町(坂の谷,19.VIII.1998,1♂,高島昭：引原,27.IX.1974,1♂;2.VI.1975,1♂;22.V.1976,2♂;8.V.1977,1♂,遊磨正秀⁵⁵⁾：同,14.VIII.1979,1♂,相坂耕作：同,7.IX.1988,1♂;17.IX.1988,1♂,高島昭¹⁴⁾)

氷ノ山(---,遠山ほか³⁵⁾)

関宮町(福定,23.VI.1973,8♂,遠山雅夫³⁰⁾)

4. *Abrostola abrostolina* (Butler) (4123)

ユミガタマダラウワバ

本属中最も小型で識別は容易。東北北部から九州に至る本土域と対馬に分布する。幼虫はクワクサを食べる。年2回以上発生し5~9月に見られる。蛹で越冬する。県下では里山から山地帯まで広く分布するが記録は案外少ない。

【採集記録】

猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♂,夏秋ほか⁷³⁾)
高砂市(---,2.VIII.1968,1ex.;22.VIII.1976,1ex.,岡本清¹⁵⁴⁾)
黒田庄町(喜多,2.VII.1959,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)
八千代町(笠形山,5.VIII.1960,1ex.,岡本清²⁰⁴⁾)
波賀町(引原,22.VI.1974,1♂;29.VI.1974,3♂;12.VIII.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁵⁾)

三日月町(下本郷,---,川副昭人¹⁰⁰⁾)

氷ノ山(---,遠山ほか³⁵⁾)

関宮町(福定,23.VI.1973,3♂,遠山雅夫³⁰⁾)

市島町(妙高山,---,山本義丸¹⁵⁵⁾)

5. *Lamprotes mikadina* (Butler) (4127)

シーモンキンウワバ 注目種

前翅は紫灰色で中央に微小なC字紋を有する。中横線と外横線の間は後縁に向かって金色で充たされる。北海道中南部、利尻、礼文、東北から中国地方にかけての本州に分布する。幼虫はカラマツソウを食べる。山地性で年1回夏に発生する。県下では内陸部の山地で記録されているが近年の記録がなく、調査が望まれる。

【採集記録】

氷ノ山(---,遠山ほか³⁵⁾)

柏原町(柏原,11.VII.1960,1♂,山本義丸¹⁵⁵⁾)

市島町(妙高山,18.VIII.1960,1♂,山本義丸¹⁵⁵⁾)

篠山市(竜坊,29.VIII.1962,1♂,田中蕃¹⁹⁾)

6. *Macdunnoughia crassisigna* (Warren) (4130)

オオキクギンウワバ 注目種

キクギンウワバによく似ているが、前翅は紫灰色を呈し、中央の銀紋はやや大きく時に分離する。腎状紋の上縁に細い銀線があり本種のよい識別点になる。礼文島、北海道から九州に至る本土域、対馬、屋久島に分布する。7~9月に記録があるがキクギンウワバより個体数は少ない。幼虫はゴボウを食べるのが観察されているが幼生期はよくわかっていない。県下からは神戸市、猪名川町、波賀町から記録があるが、最近の記録はない。局地的であると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,16.VIII.1963,1♀,田中蕃¹⁹⁾)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂,夏秋ほか⁷³⁾)

波賀町(引原,22.VI.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁵⁾)

7. *Macgunnoughia purissima* (Butler) (4131)

ギンモンシロウワバ

前翅は明るい灰色で横線は褐色、中央の銀紋は小さく分離する。北海道から九州に至る本土域と対馬、式根島から記録がある。6月ごろから発生し秋遅くまで見られる。幼生期はよくわかっていない。県下では各地に普通で平地から山地まで見られる。

【採集記録】

神戸市(藍那,30.VII.1985,1♂;12.X.1985,1♂;12.VII.

1986,1♂,中川俣夫*：諏訪山公園,-X.1988,-,山口

福男²⁰¹⁾：摩耶山,---,田中蕃²¹⁾：同,5.IX.1967,1♂,

岡村八郎*：御影,6.IV.1985,1♀,岡村八郎*：六甲

山,15.IX.1985,1♂,岡村八郎*)

西宮市(上霞原町,13.X.1967,1♂,東正雄¹³⁰⁾)

猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♂;20.VIII.1982,1♂

;1.IX.1982,1♂4♀,夏秋ほか⁷³⁾)

宝塚市(武田尾,22.V.1992,1♀,東たか¹³⁰⁾：中山寺,27.

IX.1987,1♂,東正雄¹³⁰⁾：南口2丁目,3.X.1979,-,新家

勝⁶⁶⁾：武庫川町,21.X.1988,-,新家勝¹²⁹⁾)

西脇市(---,27.V.1959,1ex.,岡本清²⁰⁴⁾)

黒田庄町(喜多,17.XI.1960,1ex.;4.X.1962,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)

大河内町(長沢,29.VI.2000,1♂,高島昭)

波賀町(坂の谷,26.VI.1998,1♂,高島昭：引原,18.V.

1974,1♀;8.VI.1974,2♂;22.IV.1977,1♂,遊磨正秀⁵⁵⁾

：同,14.VIII.1979,1♂,相坂耕作：同,16.V.1988,1♂;

5.VIII.1988,1♂,高島昭¹⁴⁾：同,21.X.1997,1♂,高島

昭)

三日月町(下本郷,---,VIII.1983,-,IX.1984,-,川副昭人

¹⁰⁰⁾)

豊岡市(正法寺,25.VI.1998,1♂,柴田剛)

氷ノ山(---,遠山ほか³⁵⁾)

関宮町(鉢伏高原,27.VI.1996,1♂,永瀬幸一*：福定,

18.VIII.1964,1ex.,岡本清²⁰⁴⁾)

市島町(妙高山,---,山本義丸¹⁵⁵)
 北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,1♂,登日邦明⁹⁹)
 津名町(大町畑,5.IV.1972,1♂,登日邦明⁹⁹)
 洲本市(厚浜,4.IV.1978,-,藤宮正昭¹³¹: 宇山,26.IV.
 1981,1ex.,林俊雅⁹⁸)
 南淡町(阿万上町,21.III.1971,-,藤平明⁹⁵: 同,21.IV.
 1976,-,藤平明⁹⁵: 同,1.XII.1985,-;4.VII.1994,-,藤平
 明⁹⁷: 灘大川,14.VII.1994,-,藤平明⁹⁷)

8. *Sclerogenia jessica* (Butler) (4132)

ワイモンギンウワバ

中央の銀色紋は小さくY字状を示す。本土域一帯、
 対馬、屋久島、御蔵島に分布する。幼生期は不明で
 あったが食草としてヤクシソウ、ヒメカンアオイが
 観察されている。県下での記録は少なく、南部の低
 山地から見つかっている。

【採集記録】

神戸市(有馬,29.VI.1990,1♀,東正雄¹³⁰: 摩耶山,---,
 岡村八郎¹⁰⁴: 同,24.VIII.1963,1♀,田中蕃⁹¹)
 川西市(黒川,10.VIII.1996,1♀,高島昭¹⁷¹)
 宝塚市(宝梅1丁目,2.V.1977,1♀,東正雄¹³⁰)
 南淡町(阿万上町,---,藤平明⁹⁵: 同,---,藤平明⁹⁵:
 灘黒岩,29.VI.1997,-,藤平明⁹⁷)

9. *Antoculeora locuples* (Oberthür) (4133)

ギンボシキンウワバ

前翅は赤褐色で金属光沢が強い。中央の銀紋は大
 きく分離する。北海道から九州まで分布するが離島
 から記録がない。幼生期は不詳。県下では各地に普
 通に見られ、平地から山地まで広く分布している。

【採集記録】

高砂市(-,4.V.1963,1ex.;13.VI.1963,1ex.,岡本清¹⁵⁸)
 黒田庄町(喜多,30.V.1959,1ex.;24.VI.1960,1ex.;22.X.
 1962,1ex.,岡本清¹⁵⁸)
 波賀町(坂の谷,5.VI.1998,2♂;20.VI.1998,1♀,高島昭
 : 引原,22.VI.1974,1♂;29.VI.1974,1♂;27.IX.1974,
 1♀;27.IX.1974,2♂;2.VI.1975,1♂;11.X.1975,3♂;8.
 V.1977,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭)
 三日月町(下本郷,-,V.1984,-,川副昭人¹²³)
 朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂;31.VII.1975,1♂,遊磨
 正秀⁵⁵)
 大屋町(横行溪谷,4.VI.1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(---,遠山ほか³⁵: 同,---,山本義丸¹²³)
 関宮町(大段ヶ平,1.VII.2000,1♂,高島昭: 鉢伏高原,
 25.VII.1989,1♀,一ノ本明英⁹)
 柏原町(柏原,---,---,山本義丸¹⁵⁵)
 津名町(大町畑,3.IV.1972,1♀;5.IV.1972,1♀;12.IV.
 1972,1♂;4.V.1972,1♂,登日邦明⁹⁵: 同,1.VII.1972,
 2♂,登日邦明⁹⁹)
 洲本市(厚浜,11.IV.1977,-,藤宮正昭¹³¹)

三原町(八木養宜,15.VIII.1983,-,藤宮正昭¹³¹)
 南淡町(阿万上町,5.VI.1973,-,藤平明⁹⁵: 同,19.VI.1974,
 -,藤平明⁹⁵: 同,23.IV.1985,-,藤平明⁹⁷)

10. *Erythroplusia rutilifrons* (Walker) (4134)

ギンスジキンウワバ

前翅は紫褐色で、赤褐色部は強く金属光沢を帯び
 るが、前縁部から中室内にかけては赤褐色を帯びず、
 セアカキンウワバとの識別点になる。中央の銀紋は
 小さく分離する。北海道から九州にかけてと対馬に
 分布する。食草としてオオバコが観察されている。
 年2回の発生。県下では記録が少なく現状では南東
 部の平地から低山地に限られている。

【採集記録】

神戸市(藍那,17.V.1986,1♀,中川俊夫*: 摩耶山,---,
 -,田中蕃⁹¹)
 西宮市(甲子園,13.VI.1950,-,東正雄¹³⁰)
 猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♀,夏秋ほか⁷³)
 宝塚市(南口,20.IV.1987,1♂,東正雄¹³⁰: 南口2丁目,6.
 XI.1978,-,新家勝⁶⁴)
 黒田庄町(喜多,21.IV.1959,1ex.,岡本清¹⁵⁸)

11. *Erythroplusia pyropia* (Butler) (4135)

セアカキンウワバ

ギンスジキンウワバに似るが、前翅は基部と後縁
 角付近を除きほぼ前面赤褐色で金属光沢をとまう。
 中央の銀紋は分離し前種よりやや大きい。北海道か
 ら九州、対馬に分布し、幼虫はセリを食べることが
 わかっている。県下では平地から山地まで広く分布
 するが少ない種のようなのである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,22.X.1967,1♀;22.X.1967,1♂,岡村八
 郎*)
 宝塚市(武田尾,22.V.1992,1♀,東正雄¹³⁰: 波豆,18.VII.
 1977,1♀,東正雄¹³⁰)
 黒田庄町(喜多,4.X.1961,1ex.;18.X.1961,1ex.,岡本清
¹⁵⁸)
 氷ノ山(---,遠山ほか³⁵)
 関宮町(氷ノ山,---,1955,-,山本義丸⁷)
 柏原町(柏原,---,山本義丸¹⁵⁵)
 市島町(妙高山,---,山本義丸¹⁵⁵)
 南淡町(阿万上町,---,1958,-,藤平明⁹⁹)

12. *Autographa gamma* (Linnaeus) (4138)

ガマキンウワバ 注目種

前翅はやや黄色味が強く紫灰色を帯びない。中央
 の銀紋はY字状。後翅の翅脈は暗色で外縁の暗色帯
 は顕著である。北海道、東北から北陸、千葉、長野、
 群馬、徳島、高知、対馬などで記録があるが、秋の
 記録が多い。ヨーロッパでは移動性が強い種として
 知られるが、日本での動態はわかっていない。大陸

からの移動個体及びそれに基づく発生ではないかという説もある。

県下での記録は少なく、わずかに3例が知られるだけである。

〔採集記録〕

兵庫県(---,杉繁郎¹⁴¹)

神戸市(御影中町1丁目,13.VI.1989,1♂,岡村八郎* : 山田町,25.IX.1973,1♀,松本健嗣¹⁴¹)

13. *Autographa nigrisigna* (Walker) (4139)

タマナギンウワバ

ガマキンウワバに似るが、やや紫褐色を帯び、中央の銀紋は分離しY字状にならない。内横線の後半部は銀色を帯びなめらか。後翅の基半部は翅脈が暗色を呈することはない。対馬、南西諸島を除く日本全土に普通に産する。アブラナ科野菜の害虫として著名であるが、ハクサンアザミも食草として記録されている。県下では各地に普通でしばしば野菜畑の害虫として問題になる。

〔採集記録〕

神戸市(藍那,24.XI.1987,1♂,中川俣夫* : 諏訪山公園, -X.1986, -,山口福男¹⁴¹ : 摩耶山,2.VI.1968,1♂;20.

VII.1968,1♂;17.XI.1984,1♀,岡村八郎*)

宝塚市(南口2丁目,28.X.1983, -,新家勝¹⁴¹ : 武庫川町, 24.IX.1989, -,新家勝¹⁴¹)

黒田庄町(喜多,7.VII.1960,1ex.,岡本清¹⁴¹)

上郡町(上郡,13.IX.1995,1♂,高島昭¹⁴¹)

温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,1♂,谷田昌也⁹⁷)

氷ノ山(---,遠山ほか¹⁴¹)

柏原町(柏原,---,山本義丸¹⁴¹)

洲本市(厚浜,6.XI.1979, -,藤富正昭¹⁴¹)

三原町(八木養宜,21.IX.1988, -,藤富正昭¹⁴¹)

14. *Plusia festucae* (Linnaeus) (4145)

イネキンウワバ

日本全土に分布する。かつて北海道産が別種とされたこともあったが、現在では一種として扱われている。幼虫はイネ、ヒエ、アマ、ガマ、イグサ、カキツバタなどを食べ、幼虫で越冬するという。県下では各地に普通に山地にも見られるが、平地から低山地が分布の中心と思われる。

〔採集記録〕

神戸市(道場,3.V.1967,1♂,岡村八郎* : 摩耶山,---, 田中蕃¹⁴¹ : 同,27.VIII.1967,1♀;15.IX.1967,1♂,岡村八郎*)

川西市(黒川,13.VII.1996,1♂,高島昭¹⁴¹)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂2♀,夏秋ほか¹⁴¹)

宝塚市(花屋敷,25.V.1933,1♂,東正雄¹⁴¹ : 南口2丁目, 21.V.1979, -,新家勝¹⁴¹)

黒田庄町(喜多,14.VII.1960,1ex.,岡本清¹⁴¹)

波賀町(引原,27.VII.1973,1♂,遊磨正秀¹⁴¹)

三日月町(下本郷, -VIII.1983, -,川副昭人¹⁴¹)

大屋町(横行溪谷,20.VIII.1999,1♂,高島昭)

氷ノ山(---,遠山ほか¹⁴¹)

氷上郡(---,山本義丸¹⁴¹)

洲本市(厚浜,20.VIII.1978, -,藤富正昭¹⁴¹)

三原町(八木養宜,13.VIII.1985, -,4.VIII.1990, -,藤富正昭¹⁴¹)

南淡町(阿万上町, -IX.1958, -,藤平明⁹⁷ : 同,14.V.1961, -,藤平明⁹⁷ : 筒井,12.VIII.1993, -,藤平明¹⁴¹)

15. *Diachrysa coreae* (Bryk) (4148)

リョクモンオオキンウワバ

オオキンウワバに似るが前翅の紫褐色部はそれほど濃くなく、金色斑の周辺はぼやけて輪郭が不明瞭である。東北部から九州、対馬に分布する。年2回の発生であるが幼生期は不詳。県下では各地で記録されており低山地から山地にかけて分布する。

〔採集記録〕

川西市(黒川,2.VIII.1997,1♂,高島昭¹⁴¹)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂;12.VIII.1982,1♂;1.IX.1982,1♀,夏秋ほか¹⁴¹)

黒田庄町(喜多,1.X.1959,1ex.,岡本清¹⁴¹)

大河内町(長沢,29.VI.2000,1♂,高島昭)

波賀町(引原,4.VII.1973,1♂;22.VI.1974,1♂;27.IX.

1974,1♂,遊磨正秀¹⁴¹ : 同,26.VIII.1988,1♂,高島昭¹⁴¹)

三室山(---,遠山ほか¹⁴¹)

上郡町(黒石,22.VII.1984,1♂,相坂耕作)

三日月町(下本郷, -IX, -,川副昭人¹⁴¹)

温泉町(扇ノ山,25.VIII.1984,1♂,谷田昌也⁹⁷)

氷ノ山(---,遠山ほか¹⁴¹ : 同, ---,山本義丸¹⁴¹)

関宮町(鉢伏高原,15.VIII.1990,1♂,一ノ本明英*)

柏原町(柏原,---,山本義丸¹⁴¹)

16. *Diachrysa leonina* (Oberthür) (4149)

マグリキンウワバ

翅表は紫灰色を呈し、中央部は特に濃色であるが金属光沢はない。外横線はR₅付近で鋭く外方に角をなす。北海道から中部の山地帯、奈良県荒神岳、剣山、石鎚山、九重山などで記録がある。幼虫はエゾイラクサ、エゾゴマナ、チシマアザミなどから発見されている。年1回8~9月に出現する。兵庫県からは西播北部から但馬にかけての山地に生息する。

〔採集記録〕

波賀町(坂の谷,19.VIII.1998,1♂,高島昭¹⁴¹)

村岡町(鉢北高原,19.VIII.2000,1♂,高島昭)

大屋町(横行溪谷,20.VIII.1999,1♂;11.IX.1999,1♂,高島昭)

関宮町(氷ノ山, -,1954, -,山本義丸¹⁴¹)

17. *Trichoplusia ni* (Hübner) (4155)

イラクサギンウワバ

前翅は灰褐色で金属光沢をあらわさない。中央の銀紋は白色に近い。日本全土から見られるが個体数は少ないという。多食性で和名は特定の食草を示すものではない。キュウリからも幼虫が発見されている。県下では淡路でのみ記録されているが、南部の平地では見つかると思われる。

[採集記録]

北淡町(常陸寺山, 31.VII.1967, -, 登日邦明¹⁹)

南淡町(阿万上町, -, IX.1958, -, 29.VII.1973, -, 藤平明²⁵)

18. *Thysanoplusia intermixta* (Warren) (4157)

キクキンウワバ

屋久島以北に産する。幼虫は各種キク科植物につく。4月から11月まで見られる。県下では各地で普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(藍那, 6.IX.1984, 1♀; 6.XII.1986, 1♀; 24.VIII.1987, 1♂; 28.XI.1987, 1♂; 9.XII.1987, 1♀, 中川俊夫*; 諏訪山公園, -, X.1988, -, 山口福男²⁰¹; 谷上, 10.VIII.1931, 1♀; 15.VIII.1931, 1♂, 東正雄¹³⁰; 摩耶山, -, -, 田中蕃²¹; 同, 15.VIII.1985, 1♂, 岡村八郎*; 六甲山, 3.VII.1988, 1♀, 岡村八郎*)

尼崎市(南塚口町, 2.XII.1983, 1♀, 夏秋優²⁰⁰)

西宮市(上葭原町, 13.X.1963, 1♂; 16.IX.1968, 1♂, 東良雄¹³⁰; -, 5.X.1967, 1♀; 12.X.1967, 1♀, 阪口浩平*)

伊丹市(-, 16.VI.1981, 1♂, 中川俊夫*)

川西市(黒川, 7.VI.1997, 1♀, 高島昭¹⁷¹)

猪名川町(上阿古谷, 12.VIII.1982, 1♂; 1.IX.1982, 1♂, 夏秋ほか⁷³)

宝塚市(西谷西部, 22.VIII.1987, 1♀, 東正雄¹³⁰; 宝梅1丁目, 17.XI.1987, 1♂, 東たか¹³⁰; 南口2丁目, 15.X.1978, -, 新家勝⁶; 同, 30.IX.1989, -, 新家勝¹²⁹)

高砂市(-, 7.XII.1964, 1ex., 岡本清¹⁵⁸)

黒田庄町(喜多, 20.IV.1959, 2exs.; 9.X.1959, 1ex.; 4.X.1961, 1ex., 岡本清¹⁵⁸)

姫路市(広嶺山, -, 1982, -, 木村三郎⁶⁴)

大河内町(砥峰高原, 12.X.1999, 1♂, 高島昭)

波賀町(坂の谷, 17.VII.1998, 1♂, 高島昭; 引原, 22.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀⁵⁵; 同, 16.VII.1988, 1♀; 25.VII.1988, 1♂; 1.IX.1988, 1♂, 高島昭¹⁷¹)

相生市(瓜生, 30.VI.1989, 1♂, 高島昭¹⁵; 同, 26.VIII.1997, 1♂, 高島昭)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♂, 高島昭)

豊岡市(-, 7.VII.1973, -, 山根政之²; 正法寺, 15.VI.1998, 1♂; 23.IX.1998, 2exs.; 18.X.1998, 1ex., 柴田剛)

温泉町(扇ノ山, 25.VIII.1984, 1♂, 谷田昌也⁹⁷)

鉢伏山(-, -, -, 遠山ほか³⁶)

大屋町(横行溪谷, -, IX.1999, 1♂; 6.XI.1999, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(-, -, -, 遠山ほか³⁶)

関宮町(鉢伏高原, 10.VIII.1989, 1♂, 一ノ本明英*: 氷ノ山, -, -, 1954, -, 山本義丸⁴)

氷上郡(-, -, -, -, 山本義丸⁴)

北淡町(常陸寺山, 5.VII.1972, 1♂; 7.VII.1972, 1♀, 登日邦明²⁷)

三原町(八木養宜, 19.VII.1986, -, -, XII.1992, -, 藤富正昭¹³¹)

南淡町(阿万, 11.2.1962, -, 藤平明²⁵; 阿万上町, 21.X.

1958, -, 12.VI.1960, -, 藤平明²⁵; 同, 16.III.1961, -, 藤平明¹⁹⁷)

19. *Trichoplusia daubei* (Boisduval) (4158)

アミメキンウワバ 注目種

イラクサギンウワバに似ているが、中央の銀紋は細い帯状になる。熱帯性の種で伊豆半島・福井以西の本州、四国、九州、屋久島、沖縄、八丈島などで記録がある。県下での記録は少なく、神戸市と黒田庄町で採集されているだけである。土着性については不明であり、今後の調査が必要と思われる。

[採集記録]

神戸市(藍那, 21.IX.1989, 1♂, 中川俊夫*: 摩耶山, 30.VIII.1984, 1♂, 岡村八郎*)

黒田庄町(喜多, 18.X.1961, 1ex., 岡本清¹⁶⁸)

20. *Zonoplusia ochreatea* (Walker) (4161)

コセアカキンウワバ 注目種

前翅は赤褐色で、亜外縁線の外側の外縁に至る間は金属光沢をもつ。中央の銀紋は細い斜条となり灰白色を呈する。熱帯性の種で日本まで分布を広げている。伊豆半島以西の本州南岸、四国、九州、対馬、屋久島、奄美、沖縄、三宅島などで得られている。幼生期はよくわかっていないがおそらく多食性といわれている。県下では南淡町で記録されているだけで、北限域にあると思われる。

[採集記録]

南淡町(阿万上町, -, VI.1959, -, 藤平明²⁵; 同, 24.X.1973, -, 藤平明⁹⁹; 同, 3.XI.1991, -, 藤平明¹⁹⁷)

21. *Ctenoplusia albostrata* (Bremer & Grey)

(4162) エソギクキンウワバ

前翅は暗灰色で金属光沢を欠く。中央の銀紋は内横線と外横線を連結する黄白色の斜条となる。熱帯性の種で日本全土から得られているが、北海道では稀。移動性があると思われる。本州中部では6月ごろから発生し秋に向かって個体数が増加する。幼虫はエソギク、ヒメジョオン、ゴマナなどのキク科草本を食べる。

県下では平地から低山地に普通であるが、山地帯にもよく飛来する。

[採集記録]

神戸市(諏訪山公園,-X.1985,-,山口福男²⁰¹:摩耶山,-,-,田中蕃²¹)
 尼崎市(南塚口町,8.XI.1982,1♂,夏秋優²⁰⁶)
 猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♂²♀,夏秋ほか⁷³)
 宝塚市(光明町,25.VIII.1988,-,新家勝¹³⁰:寿楽荘,12.XII.1989,1♂;13.IX.1990,1♂,東正雄¹³⁰:宝塚駅,14.X.1987,1♂,東正雄¹³⁰:西谷西部,19.IX.1987,1♂,東正雄¹³⁰:花屋敷,9.XII.1990,1♂,東正雄¹³⁰:宝梅1丁目,28.X.1985,1♂;25.XI.1985,1♂,東正雄¹³⁰:宝梅2丁目,2.XI.1987,1♂,東正雄¹³⁰:南口2丁目,11.X.1989,-,新家勝¹³⁰:武庫川町,6.XI.1979,-,新家勝⁶⁶)
 高砂市(-,15.VIII.1963,1ex.;28.VIII.1976,1ex.,岡本清¹⁵⁸)
 黒田庄町(喜多,12.IX.1961,1ex.;14.IX.1961,1ex.;1.VIII.1962,1ex.,岡本清¹⁵⁸)
 姫路市(太市,-,1991,-,丸谷ほか¹²⁶)
 大河内町(砥峰高原,12.X.1999,1♂,高島昭)
 波賀町(坂の谷,17.VII.1998,1♂,高島昭)
 上郡町(船坂,23.X.1997,1♂,高島昭)
 大屋町(横行溪谷,3.IX.1999,1♂,高島昭)
 柏原町(柏原,-,-,-,山本義丸¹⁶⁵)
 津名町(大町畑,5.V.1972,1♂,登日邦明²⁵:同,27.VII.1972,1♂,登日邦明²⁵)
 三原町(八木養宜,7.2.1993,-,藤富正昭¹³¹)
 南淡町(阿万上町,19.IX.1973,-,3.XI.1973,-,藤平明³⁵:賀集,26.IX.1995,-,藤平明¹⁹⁷:筒井,12.IX.1993,-,藤平明¹⁹⁷:福良向谷,10.X.1996,-,20.XII.1997,-,藤平明¹⁹⁷)

22. *Ctenoplusia agnata* (Staudinger) (4163)

ミツモンキンウワバ

イチジクキンウワバと似ているが、中央の銀紋はやや小さく、特に外横線がCuA₂脈の下で内方に鋭く切れ込んでいることで識別できる。寒冷地をのぞく日本全土で得られているが、秋に向かって大量に発生し、北方へ移動するものと推定されている。幼虫は多食性で、ニンジン、ゴボウなどの作物につくことも多い。県下では各地に普通で、夏以降の採集例が多い。

[採集記録]

神戸市(藍那,14.XI.1987,1♂;26.XI.1987,1♂,中川俊夫* :諏訪山公園,-X.1985,-,山口福男²⁰¹:摩耶山,-,-,田中蕃²¹)
 川西市(黒川,9.XI.1996,1♂,高島昭¹⁷¹)
 猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♂;20.VIII.1982,1♂;1.IX.1982,2♂³♀,夏秋ほか⁷³)
 宝塚市(武田尾,3.VII.1991,1♂,東正雄¹³⁰:西谷西部,22.VIII.1987,3♂;19.IX.1987,3♂,東正雄¹³⁰:宝梅1丁目,28.V.1988,1♂,東正雄¹³⁰:南口2丁目,3.XI.1979,-,新家勝⁶⁶:同,6.X.1989,-,新家勝¹²⁹)
 高砂市(-,21.VI.1970,1ex.,岡本清¹⁵⁸)

黒田庄町(喜多,26.VII.1960,1ex.;6.IX.1960,1ex.;14.IX.1961,1ex.;12.X.1961,2exs.,岡本清¹⁵⁸)
 姫路市(太市,-,1991,-,丸谷ほか¹²⁶)
 波賀町(坂の谷,26.VIII.1988,1♂;25.IX.1998,1♀,高島昭:同,24.VIII.1991,-,大築正弘*:鹿伏,18.VIII.1995,1♂,高島昭:引原,22.VI.1974,1♂;12.VIII.1974,1♀,遊磨正秀⁵⁵:同,5.VIII.1988,1♀;7.IX.1988,1♂¹♀,高島昭¹⁶⁴)
 上郡町(行頭,7.IX.1995,1♂,高島昭¹⁵⁹)
 豊岡市(正法寺,11.VIII.1998,1♂;30.VIII.1998,1♀;2.X.1998,1ex.;15.XI.1998,1ex.,柴田剛)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸¹)
 洲本市(厚浜,29.IX.1978,-,17.IX.1979,-,藤富正昭¹³¹)
 三原町(八木養宜,8.X.1991,-,藤富正昭¹³¹)
 南淡町(阿万上町,8.IX.1962,-,19.IX.1973,-,藤平明³⁵:同,22.IX.1994,-,藤平明¹⁹⁷)

23. *Ctenoplusia ichinosei* (Dufay) (4164)

ニシキンウワバ

前翅の外横線は細かく波上を呈し、その外側はややピンク色を帯びた淡色部で帯状に縁取られる。中央の銀紋は通常分離する。本州、四国、九州、対馬、神津島、御蔵島、屋久島、奄美、石垣などから得られているが関東以北では稀。東南アジアに近縁種が多い。秋に向かって個体数が増加し、移動性があると考えられている。県下では平地から山地まで普通に見られるが前エゾギクキンウワバ、ミツモンキンウワバと比べるとそれほど普遍的ではない。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃²¹)
 猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♂;20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか⁷³)
 宝塚市(武庫川町,28.IX.1979,-,新家勝⁶⁶)
 高砂市(-,X.VII.1967,1ex.;12.VII.1967,1ex.;13.VII.1967,1ex.,岡本清¹⁵⁸)
 大河内町(砥峰高原,12.X.1999,1♂,高島昭)
 波賀町(坂の谷,12.VIII.1998,1♂,高島昭:引原,29.VII.1988,1♂,高島昭¹⁶⁴)
 温泉町(扇ノ山,25.VIII.1984,1ex.,谷田昌也⁹⁷)
 村岡町(鉢北高原,19.VIII.2000,1♂,高島昭)
 関宮町(大段ヶ平,4.VIII.2000,1♂,高島昭)
 北淡町(常隆寺山,31.VII.1967,-,登日邦明¹⁹)

24. *Chrysodeixis eriosoma* (Doubleday) (4165)

イチジクキンウワバ

外見はミツモンキンウワバと似ており、同定には注意が必要である。新鮮な個体では本種は紫色を帯び、中央部はより金色を帯びた褐色で、中央の銀紋は肥大することが多い。外横線のCuA₂脈下方での内方への切れ込みは、ミツモンキンウワバのように鋭く角をなすことはない。♂の尾端には黒色の毛束

兵庫県におけるウワバ亜科分布一覽表

2001. 8. 31 現在	神戸	阪神北	中東	中東	西播	西播	南	北	丹	淡路	淡路	記録	備	考
戸	北	東	東	播	播	但	但	波	北	南	地	数		
1. イラクサ	○	○			○	○	○					8		
2. オオミ	○	○			○	○	○					7		
3. ミミ					○	○	○					4		冷温帯性
4. ヨシ		○	○	○	○	○	○		○			9		
5. オキ	○	○				○	○		○			4		注自種
6. オキ	○	○				○	○					3		注自種
7. キン	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	28		
8. ウイ	○	○										6		
9. キン			○	○	○	○			○	○	○	16		
10. キ	○	○										7		
11. ア	○	○		○					○		○	9		
12. カ	○	○										2		注自種
13. マ	○	○		○		○	○	○	○		○	12		
14. イ	○	○		○	○	○	○	○	○		○	16		
15. イ	○	○		○	○	○	○	○	○		○	12		
16. マ						○	○	○				4		山地性
17. イ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		注自種
18. キ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32		
19. ア	○		○									3		注自種
20. ア	○											1		注自種
21. コ	○	○	○	○	○	○			○	○	○	27		
22. ミ	○	○	○	○	○	○			○	○	○	21		
23. ニ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	11		
24. イ	○	○		○	○	○	○				○	14		
25. モ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	12		
26. フ	○	○	○	○			○	○	○		○	15		
ウワバ亜科 計	16	18	8	16	12	16	17	10	13	6	14			

が裸出して見ることが多い。熱帯性の種で日本全土に記録があるが、東北、北海道では少ない。秋に向かって発生量を増し北方に移動するものと思われる。幼虫は特定の食草を持たず野菜を食害すること多い。また、大豆につくことが発見された。県下では南部の平地から低山地が分布の中心で、但馬の平地帯からも報告されている。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -,-,-, 田中養¹¹: 同, 5.IX.1967, 1♂; 10.IX.1967, 1♀; 20.VII.1968, 1♀; 3.VIII.1968, 1♂; 3.VIII.1968, 1♀, 岡村八郎*)

西宮市(-, 4.IX.1967, 1♂, 阪口浩平*)

猪名川町(上阿古谷, 20.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか⁷³)

宝塚市(武庫川町, 17.X.1981, -, 新家勝⁷⁶)

西脇市(-, 7.IX.1961, -, 岡本清²⁰⁴)

黒田庄町(喜多, 26.VII.1960, 1ex., 岡本清¹⁵⁸)

波賀町(引原, 7.X.1988, 1♂, 高島昭¹⁴)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♀, 高島昭)

三日月町(下本郷, -, X.1984, -, 川副昭人¹⁰³)

豊岡市(山本, 31.VII.1973, -, 山根政之⁴¹)

南淡町(阿万上町, 3.IX.1961, -, 21.X.1973, -, 藤平明³⁵:

同, 7.XII.1985, -, 藤平明¹⁹⁷: 賀集, 26.IX.1995, -, 藤平明

¹⁹⁷: 筒井, 12.IX.1993, -, 藤平明¹⁹⁷: 瀬黒岩, 1.IX.1997, -, 11.X.1998, -, 藤平明¹⁹⁷)

25. *Anadevidia debetata* (Butler) (4169)

モモイロキンウワバ

前翅は紫赤色で垂外縁部に金属光沢がある。ウリキンウワバに似るが外横線は単一で、おおむね直線状を呈する。北海道から九州にかけてと三宅島で記録があるが北海道には土着しないとされる。幼生期は不明である。県下では平地から山地まで比較的普通に見られる。

〔採集記録〕

西宮市(今津, 4.XI.1969, 1♀, 遊磨正秀³¹: 生瀬, 31.VIII.1970, 1♀, 遊磨正秀³¹)

猪名川町(上阿古谷, 2.VIII.1983, 1♂, 夏秋ほか⁴²)

高砂市(-, 24.V.1967, 1ex., 岡本清¹⁵⁸)

八千代町(笠形山, 26.VII.1968, 1ex. (飼育), 岡本清²⁰⁴)

波賀町(坂の谷, 25.IX.1998, 1♂, 高島昭: 引原, 27.IX.

1974, 1♀; 11.X.1975, 2♂, 遊磨正秀³⁵: 同, 5.IX.1987,

1ex.; 20.VIII.1988, 1♂, 高島昭¹⁴: 同, 12.XI.1997, 1♀,

高島昭)

温泉町(扇ノ山, 25.VIII.1984, 1ex., 谷田昌也⁹⁷)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁶)

氷ノ山(---,山本義丸¹²⁾)

市島町(妙高山,---,山本義丸¹⁵⁵)

南淡町(阿万上町,18.X.1984,-,藤平明⁹⁾)

26. *Anadevidia peponis* (Fabricius) (4170)

ウリキンウワバ

前翅は灰褐色で、亜外縁部のCuA₂脈より上方で金銅色を帯び、また中脈下方の中央部も同様の光沢をもつ。外横線は二重で繊細な波状を呈する。本土全域と対馬、屋久島、沖縄などに分布するが、北海道では南方よりの飛来と思われる。ウリ科のほか、キリ、ヤマアイが食草として知られている。県下では各地に普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(諏訪山公園,-,XI.1997,-,山口福男²⁰¹:摩耶山,-,---,田中蕃²¹⁾)

尼崎市(南塚口町,18.XI.1983,1♂,夏秋優²⁰⁶)

西宮市(上霞原町,25.IX.1968,1♂,東正雄¹³⁰: -,27.X.

1967,1♂,阪口浩平*)

猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか⁷⁾)

宝塚市(光明町,25.VII.1988,-,新家勝¹³⁰:寿楽荘,5.XII.

1989,1♂,東正雄¹³⁰:南口2丁目,15.X.1978,-,新家勝⁶⁶:

同,16.X.1988,-,新家勝¹³⁹)

三田市(相野,1.IX.1985,1♂,岡村八郎*)

明石市(大久保,5.XI.1964,1ex.,岡本清²⁰⁴)

黒田庄町(喜多,3.IX.1959,1ex.,岡本清¹⁶⁴)

豊岡市(正法寺,29.IX.1998,1ex.,2.X.1998,1ex.,28.X.

1998,1ex.,柴田剛)

関宮町(氷ノ山,-,1955,-,山本義丸⁷⁾)

柏原町(柏原,-,---,山本義丸¹⁵⁵)

南淡町(阿万上町,20.XII.1971,-,23.X.1973,-,藤平明³⁾)

<今後記録される可能性のある種>

1. *Abrostola sugii* Dufay (4122)

ウスグロマダラウワバ

前翅翅底の淡色部は本属中最も暗色。亜外縁部の白色影は発達する。関東南部以西から九州にかけて分布するが離島からは未知という。年2回の発生であるが幼生期や食草は不詳である。兵庫県からは記録がないが大阪府箕面市から記録されているので、探せば発見できると思われる。

2. *Polychrysis splendida* (Butler) (4126)

マダラキンウワバ

北海道、本州、四国に産する。幼虫はホソバトリカブト、オオダイブシを食べることがわかっている。本州では年2回発生するがかなり局地的で、兵庫県からは見つからない。

3. *Plusidia cheiranthi* (Tauscher) (4128)

ムラサキウワバ

前翅に金属色を欠き、紫赤色を呈する。翅頂部は黄褐色。北海道、本州に分布し西は中国山地にまで分布する。四国、九州からは記録がない。年1回の発生であるが幼生期は未知。兵庫県からは現在のところ記録されていない。

4. *Macdunnoughia confusa* (Stephens) (4129)

キクギンウワバ

前翅は灰褐色で中央に銀色紋がある。この銀紋は常に接続し、ほぼ直線状の内横線とつながっている。中室下方の中央部は褐色。本土のほぼ全域で記録がある。かなり移動性を持ち秋に向かって発生量が増加する。幼虫は多食性でしばしば野菜を食害する。兵庫県ではこれまで記録が見られないが、分布していると思われる。

5. *Autographa amurica* (Staudinger) (4141)

オオムラサキキンウワバ

前翅は濃い紫褐色で内横線、外横線は太く二重となる。中央の銀紋はY字状であるが、時に分離し小さな銀色点を残す。CuA₂脈付近の外横線の内側は赤褐色を呈する。北海道、利尻島、福井県以北の本州に産することが知られているが、最近山口県からも記録されている。兵庫県からは見つからない。

6. *Chrysodeixis acuta* (Walker) (4166)

ホソバネキンウワバ

ニシキンウワバ、イチジクキンウワバと似ているが♂の腹部側面の毛束は暗褐色。前翅はイチジクキンウワバより幅狭く翅頂は突出する。翅の色調は黄褐色を帯び、翅頂部に近い前縁の半月状の淡色部は顕著である。熱帯性の広域分布種で北海道から九州にかけての本土域と、屋久島、伊豆諸島などで記録があるが採集例は少ない。秋以降の記録が多い。幼虫はゴボウを食べるという。兵庫県からは記録がないが、今後発見される可能性は高い。

<引用文献>

- 5) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第1報) 兵庫生物3(1/2):3-6
- 7) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第2報) 兵庫生物3(3):121-123
- 8) 山本義丸(1958) 兵庫県水上郡昆虫目録 12-50
- 12) 田中 蕃(1966) 神戸市摩耶山に産する若干の蛾類 蛾類通信45:442-444
- 18) 田中 蕃(1967) シーモンキンウワバを笠坊で採集 佳香蝶19(70):83
- 19) 登日邦明(1967) 伊勢の森の蛾類

- PARNASSIUS 4:4-9
- 21) 登日邦明(1968) 「メンガタスズメ」を洲本市
鮎屋で採る PARNASSIUS 5/6:12
- 26) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料 (I)
蛾類通信73:215-224
- 29) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録
PARNASSIUS 9:9-16
- 30) 遠山雅夫(1973) 氷ノ山産Abrostola属(ヤガ
科)について きべりはむし2(1):21
- 31) 遊磨正秀(1973) 六甲山地域の蛾類 I
きべりはむし2(1):1-9
- 35) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(II)
PARNASSIUS 12:5-13
- 36) 奥谷禎一(1974) 中国山脈東端の昆虫相
東中国山地自然環境調査報告173-191
- 37) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(II)
蛾類通信76:261-266
- 42) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
(第1・2報)48-54
- 43) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
(第3報)9-14
- 55) 遊磨正秀(1979) 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾
類について(II) きべりはむし7(2):2-16
- 56) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾
類について(I) きべりはむし8(2):1-8
- 66) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集し
た蛾(その2) きべりはむし 9(2):17-20
- 70) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類
について(I) きべりはむし9(1):3-6
- 73) 夏秋優・佐々木昇(1982) 能勢地方の蛾(I)
上阿古谷・夏の蛾 Crude 23:1-37
- 76) 新家 勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集し
た蛾(統報その1) きべりはむし10(2):10-16
- 78) 林 俊雄(1983) 淡路島産蛾類採集記録(I)
PARNASSIUS 28:13-16
- 82) 夏秋優・佐々木昇(1983) 能勢地方の蛾(II)
上阿古谷・夏の蛾(統報) Crude 24:1-12
- 86) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫
てんとうむし9:53-58
- 87) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢地方の蛾(III)
妙見山・夏の蛾(1) Crude 25:15-22
- 88) 新家 勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集し
た蛾(統報その3) きべりはむし12(2):53-55
- 97) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1)
IRATSUME 10:30-37
- 99) 藤平 明(1987) 南淡の蛾 自刊
- 102) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書
てんとうむし10:1-10
- 104) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集記
録 てんとうむし10:37-45
- 113) 新家 勝(1988) 宝塚大橋の照明灯で採集し
た蛾(統報その8) きべりはむし16(1):13-15
- 122) 山本義丸(1989) 氷ノ山の蛾類について(後
報) 兵庫生物9(5):295-297
- 126) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森林
内基礎調査報告書 4-6昆虫類119-151
- 129) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集し
た蛾(統報その10) きべりはむし21(2):53-64
- 130) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫 V
蛾類(II)
- 131) 藤富正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト
PARNASSIUS 41:1-4
- 142) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺におけ
る蛾相第1報 きべりはむし23(1):6-16
- 152) 高島 昭(1996) 相生市三瀬山の蛾(1)
きべりはむし24(1):27-39
- 155) 山本義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類
(1) きべりはむし24(2):1-13
- 158) 岡本 清(1997) 高砂の蛾 てんとうむし11:
40-45
- 159) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1)
きべりはむし25(1):31-38
- 168) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1)
てんとうむし12:30-38
- 171) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし26
(1):23-38
- 181) 杉 繁郎(1980) 兵庫県で採れたウスマダラ
カレハ 誘蛾燈82:120
- 186) 高島 昭(1999) 兵庫県波賀町で採集した注
目すべき蛾 誘蛾燈155:17-24
- 197) 藤平 明(1999) 淡路島南部の蛾 自刊1-96
- 201) 山口福男(1999) 諏訪山公園で採集した蛾
きべりはむし27(2):37-41
- 204) 岡本 清(1999) 兵庫県で採集した蛾
てんとうむし13:50-58
- 206) 夏秋 優(1997) 兵庫県尼崎市塚口の蛾
Crude 41:20-25
- 211) 松本健嗣(1983) 神戸市山田町の蛾(統報I)
きべりはむし11(1):18
- (TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

兵庫県のキノカワガ亜科・リングガ亜科・サラサリングガ亜科

(兵庫県産蛾類分布資料・23)

高島 昭

ここではヤガ科のうちキノカワガ、サラサリングガ、リングガの各亜科について述べる。データは2001年8月31日現在で入手できた資料に基づいている。記載要領は別稿の「兵庫県のウババ亜科」と同様であるので参照されたい。データのあとの★マークは、兵庫県立人と自然の博物館で確認できた標本を示す。標本調査及び記録の掲載に格別のご配慮を頂いた兵庫県立人と自然の博物館の中西明徳氏、八木剛氏にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げる。

キノカワガ亜科 <SARROTHRIPINAE>

形態的にリングガ亜科と類似点が多く、サラサリングガ亜科を含めてヤガ科から独立させるべきであるという意見がある。また、コブガ科との類縁関係についてもしばしば示唆されており、実際にコマバシロキノカワガ属(*Nolathripa*)はその中間的な外観上の特徴を持っている。このように上位分類の位置はやや不安定であるが、ここでは日本産蛾類大図鑑及びPost MJ Ed.2に従い、ヤガ科の一員として取り扱う。後翅のM₂は発達し、前翅の中室端には多少とも隆起した鱗片を生じることが多いが例外もある。

大きく分けて2つの群に大別される。日本からは21種が確認されているが、南方系の種が多く、兵庫県下からは10種が記録されている。

県内における産出状況を地域別に見ると、神戸市5種、阪神北摂9種、中東播南部3種、中東播北部7種、西播南部5種、西播北部2種、南但7種、北但3種、丹波6種、淡路北部3種、淡路南部7種である(別表参照)。このうちシンジュキノカワガは定着性が少なく、偶産種であると思われる。また、ミヤマクロスジキノカワガは採集例が少なく注目すべき種である。クロテンキノカワガは兵庫県からは未記録であるが近県での記録があり、今後見つかる可能性が高い種である。

1. *Nolathripa lactaria* (Graeser) (3966)

コマバシロキノカワガ

前翅環状紋、腎状紋及び各横線上には、やや隆起し光沢を有する鱗片を生じる。幼虫は腹部第3節の腹脚を欠き、1次刺毛には毛束を生じるなどコブガ亜科に似た特徴を持つ。食樹はオニグルミで、北海道から九州にかけて分布する。県下では散発的ながら各地で得られているが、東播地域、淡路地域では

記録されていない。オニグルミの生える河川流域では分布していると思われる。

[採集記録]

能勢妙見山(26.VIII.1983,1♂,夏秋ほか⁶⁷)宝塚市(武田尾,23.VI.1990,1♀,東正雄¹³⁰;西谷西部,16.VI.1990,1♀,東正雄¹³⁰)相生市(瓜生,17.VI.1989,1♂,高島昭¹³²)関宮町(氷ノ山,-,-,1955,-,山本義丸⁷)宍垣町(神楽,-,-,-,山本義丸¹³⁵)2. *Negritothripa hamptoni* (Wileman) (3967)

ネジロキノカワガ

胸背及び前翅の後縁部は白色で、その他の部分はやや金属光沢を有する。腎状紋には環を有し、中心の鱗片は隆起する。日本特産で本州、四国、対馬に分布する。食樹はクヌギ、コナラである。県下では、丹波地域を除く各地で得られている。平地から低山地の二次林には広く分布しているものと思われる。

[採集記録]

神戸市(藍那,5.VI.1988,1♀,中川俊夫*)

川西市(黒川,10.VIII.1996,1♀;7.VI.1997,1♂;2.VIII.1997,1♀,高島昭¹⁷¹)猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,2♀,夏秋ほか⁷³)宝塚市(西谷西部,8.VII.1987,1♀;18.VI.1988,1♂,1♀;16.VI.1990,1♀;8.VI.1991,1♀;20.VI.1992,1♂,東正雄¹³⁰)黒田庄町(喜多,15.VI.1962,1ex.;7.VII.1962,1ex.,岡本清¹⁶⁰)三日月町(下本郷,-.VI.-.,川副昭人¹⁰⁹)

村岡町(鉢北高原,19.VIII.2000,1♀,高島昭)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀⁷⁰)南淡町(阿万上町,5.VIII.1975,-,藤平明⁹⁹;同,8.IX.1987,-,藤平明¹⁹⁷;福良向谷,5.VI.1996,-,藤平明¹⁹⁷)3. *Iscadia uniformis* (Inoue & Sugi) (3969)

ナンキンキノカワガ

♂と♀で色彩が異なり、♂では前翅は暗い紫褐色を帯びた灰褐色であるが、♀では淡い灰緑色をしている。腎状紋はやや角張った暗色環を有し、中心には隆起した鱗片を生じる。宮城県以南の本州から九州にかけて分布する。幼虫はシラキ、ナンキンハゼにつく。年2回の発生であるが成虫で越冬し、翌春にも活動する。県下では各地に分布している。山地帯よりも平地に多いものと思われる。街路樹にナンキンハゼが使われることもあり、このような場合に

は市街地でも発生する可能性がある。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, 5.VIII.1967, 1♀, 岡村八郎*: 同, -.-.-, 田中蕃¹³)
西宮市(甲東園, 1.IX.1988, 1♂; 2.IX.1988, 1♂; 3.IX.1988, 1♂, 川副昭人*)
能勢妙見山(7.VII.1984, 1♀; 18.VIII.1984, 1♂, 夏秋ほか⁷³)
宝塚市(光明町, 10.IX.1988, 1♂, 東正雄¹³⁰)
黒田庄町(喜多, 12.IV.1961, 1ex, 岡本清¹⁶⁴)
大河内町(長沢, 29.VI.2000, 1♂, 高島昭)
安富町(大河溪谷, 19.VI.1999, 1♂, 高島昭)
波賀町(坂の谷, 20.VI.1998, 1♂, 高島昭: 引原, 22.VI.1974, 1♂; 29.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀⁵⁵: 同, 10.IX.1987, 1♀; 7.IX.1988, 1♂; 22.IX.1988, 1♀, 高島昭¹⁶²)
村岡町(鉢北高原, 19.VIII.2000, 1♂, 高島昭)
大屋町(横行溪谷, 6.VII.1999, 1♂, 高島昭)
関宮町(大段ヶ平, 1.VII.2000, 1♂, 高島昭)
青垣町(神楽, 12.VIII.1952, -, 山本義丸⁶)
南淡町(福良向谷, 6.VII.1996, -, 藤平明¹⁹⁷)

4. *Eligma narcissus* (Cramer) (3971)

シンジュキノカワガ 注目種

大変特異な色彩をしており、他種と混同することはない。幼虫はシンジュにつく。もともと日本に分布していたのではなく、ホストのシンジュの移入とともに日本に入ってきた帰化昆虫と考えられている。文献上では1909年に熊本市で記録されているのが最初で、その後全国に散発的に採集例があるが、九州北部で最も発生頻度が高いようで、この地域では不安定ながら定着している可能性がある。兵庫県でも柏原町で1949年に記録されており、その後西宮市甲子園、高砂市、最近になって南淡町や鉢伏高原、和田山町で記録されているが、定着している可能性は少ないものと思われる。

〔採集記録〕

西宮市(甲子園, 1.VIII.1954, 1♀, 阿部駿—¹³⁰)
高砂市(-, 6.IX.1965, 1ex, S.N¹⁶⁴)
和田山町(久世田, 15.X.1998, 1ex, 柴田剛)
関宮町(鉢伏高原, 18.X.1996, 1♀, 永瀬幸一¹⁶⁴)
柏原町(柏原, -, IX.1949, -, 山本義丸⁶)
南淡町(阿万上町, 30.X.1991, 1ex, 藤平明¹⁹⁷)

5. *Risoba prominens* Moore (3972)

リュウキュウキノカワガ

関東南部を北限とし、九州まで本土南岸地域に分布し、伊豆御蔵島、屋久島、奄美大島、沖縄、西表島でも得られている。食樹はヤマモモである。しばしば市街地でも採集されることがあり、街路樹として植えられたヤマモモで発生しているものと思われる。

る。県下では南部の平地から低山地にかけて得られている。淡路地域ではもっと産地は見つかると思われるし、西播地域南部からも発見されられると思われる。

〔採集記録〕

神戸市(藍那, 10.IX.1984, 1♀; 26.VI.1988, 1♀, 中川俊夫*: 諏訪山公園, -, IX.1990, -, 山口福男²⁰¹: 摩耶山, 3.VIII.1968, 1♀; 23.VIII.1984, 1♂, 岡村八郎*: 同, -, -, 田中蕃¹³)
宝塚市(宝梅1丁目, 22.IV.1987, 1♀; 4.VII.1989, 1♀; 12.IX.1989, 1♀, 東たか¹³⁰: 武庫川町, 14.IX.1982, -, 新家勝⁶⁴)
黒田庄町(喜多, 27.IX.1960, 1ex, 岡本清¹⁶⁴)
洲本市(宇山, 26.VIII.1981, 1ex; 27.VIII.1981, 1ex, 林俊雅⁷⁸)
南淡町(阿万上町, 10.IX.1962, -, 1.VIII.1973, -, 藤平明³⁵: 同, 24.VI.1991, -, 29.IV.1993, -, 藤平明¹⁹⁷: 灘大川, 7.V.1994, -, 藤平明¹⁹⁷: 灘黒岩, 23.VIII.1997, -, 藤平明¹⁹⁷: 福良向谷, 7.VI.1997, -, 23.IX.1997, -, 藤平明¹⁹⁷)

6. *Blenina senex* (Butler) (3974) キノカワガ

前翅は樹皮状に隆起した鱗片に厚く覆われ、樹皮に静止しているときは保護色となっている。北海道から沖縄まで分布し、年2回の発生で成虫越冬する。幼虫はカキにつく。県下では各地に普通に見られる。

〔採集記録〕
神戸市(藍那, 23.VI.1985, 1♂, 中川俊夫*: 諏訪山公園, -, X.1985, -, 山口福男²⁰¹: 摩耶山, -, -, -, 岡村八郎¹⁰⁴: 同, -, -, -, 田中蕃¹³: 六甲山, -, -, 1933, -, 堀江聡男¹: 同, 6.VIII.1988, 1♀, 岡村八郎*)

尼崎市(南塚口町, 18.XI.1982, 1♂, 夏秋優²⁰⁶)

川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♀, 高島昭⁷¹)

猪名川町(上阿古谷, 20.VIII.1982, 1♂; 1.IX.1982, 1♂, 夏秋ほか⁷³)

宝塚市(光明町, 18.X.1988, -, 新家勝¹³⁰: 武田尾, 12.VIII.1991, -, 東正雄¹³⁰: 西谷西部, 8.X.1988, 1♂, 東正雄¹³⁰: 宝梅1丁目, 16.I.1980, -, 18.X.1988, -, 東正雄¹³⁰: 南口2丁目, 26.X.1978, -, 新家勝⁶⁴)

三田市(相野, 2.XII.1985, 1♂, 岡村八郎*)

黒田庄町(喜多, -, X.1958, 1ex; -, III.1959, 1ex; 3.IV.1959, 1ex; -, X.1959, 1ex, 岡本清¹⁶⁴)

姫路市(太市, -, 1991, -, 丸谷ほか¹³⁶: 同, 21.III.1995, 1♂, 高島昭: 広嶺山, -, 1982, -, 木村三郎⁶⁵)

新宮町(-, -, -, -, 相坂耕作²⁰⁰)

安富町(大河溪谷, 19.VI.1999, 1♂, 高島昭: 皆河, 21.X.1988, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 22.VI.1974, 1♂; 22.IX.1974, -(目撃記録); 7.VI.1975, 1♂; 11.X.1975, 1♀; 22.X.1975, 1♂ 1♀; 6.XII.1975, 1♂, 遊磨正秀⁵⁵: 同, 9.VII.1988, 1♀; 25.VII.1988, 1♀; 5.VIII.1988, 1♂; 19.X.1988, 1♂, 高島昭¹⁶²: 同, 19.X.1997, 1♂, 高島昭)

上郡町(船坂,8.IV.1998,1♂,高島昭)
 豊岡市(正法寺,29.X.1998,1ex.;10.XI.1998,1ex.,柴田剛:山本,20.VI.1973,-,山根政之⁴⁾)
 和田山町(久世田,1.XI.1998,1ex.,柴田剛)
 氷ノ山(-.-.-,遠山ほか³⁶⁾)
 関宮町(大段ヶ平,1.VII.2000,1♂,高島昭:氷ノ山,-.-.1955,-,山本義丸⁷⁾)
 氷上郡(-.-.-,山本義丸⁸⁾)
 津名町(大町畑,5.IV.1972,1♂,登日邦明²⁴⁾:同,31.VII.1972,1♂,登日邦明²⁵⁾)
 洲本市(宇山,25.VIII.1980,1ex.,林俊雅⁷⁸⁾)
 南淡町(阿万上町,12.XI.1958,-;11.II.1962,-;5.VI.1972,-,藤平明²⁵⁾:同,5.V.1983,-,藤平明²⁹⁾:同,22.VIII.1991,-,藤平明¹⁹⁷⁾)

7. *Charcoma ruficirra* (Hampson) (3976)

ネスジキノカワガ

内横線より内方に二重の暗色条があり、この線は後縁に達しない。関東地方、新潟県を北限として四国、九州、八丈島に産する。春から秋まで見られ、幼虫はクリやドングリの果実に食い込むことが知られている。県下では、南部地域で記録されている。但馬地域や丹波地域からも発見されると思う。

【採集記録】

神戸市(六甲山,13.IX.1970,1♂,遊磨正秀³¹⁾)
 川西市(平野,8.IV.1992,1♂,東正雄¹²⁰⁾)
 能勢妙見山(18.VIII.1984,1♂,夏秋ほか⁸⁷⁾)
 宝塚市(武庫川町,10.IV.1985,-,新家勝⁹⁶⁾)
 黒田庄町(喜多,29.XI.1961,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)
 三日月町(下本郷,-.V.1984,-,川副昭人¹⁰²⁾)
 津名町(大町畑,5.IV.1972,2♂,登日邦明²⁶⁾)
 南淡町(阿万上町,22.IV.1985,-;23.X.1985,-,藤平明²⁹⁾:同,29.X.1990,-;23.III.1993,-,藤平明¹⁹⁷⁾:灘黒岩,11.IV.

1998,-,藤平明¹⁹⁷⁾:福良向谷,22.IV.1997,-,藤平明¹⁹⁷⁾)

8. *Nycteola degenerana* (Hübner) (3977)

ミヤマクロスジキノカワガ 注目種

他の種と比べて前翅翅頂は尖り、外縁の丸味は少ない。斑紋には変化が多いが内横線の外側に接し、1A+2A脈に沿って外方に尖る小さな黒色条を有するのは本種の識別点となる。幼虫はヤナギ科につくと推定されていたが、バッコヤナギ、ミネヤナギにつく幼虫が発見された。北海道から中部地方にかけてと四国、対馬に分布し、本州南部は空白地帯となっているが、県下では川西市で1例の記録があり、少ないながら産するものと思われる。

【採集記録】

川西市(平野,10.IV.1992,1♀,東良雄¹²⁰⁾)

9. *Nycteola asiatica* (Kulikowski) (3978)

クロスジキノカワガ

前翅はかなり長く一様な灰色で、内縁線は二重となり中室端には橙色斑を表し、同色の核を生じる。ヤナギ、ハコヤナギ属の植物につき、北海道から九州にかけての本土域に分布する。県下では北部から南部まで記録されているが、やや分布が限られる傾向にある。地味な種なので、飛来しても見過ごされることがあると思われる。

【採集記録】

黒田庄町(喜多,12.IV.1960,1ex.;14.IV.1960,1ex.;12.IV.1961,1ex.;9.IV.1962,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)
 氷ノ山(-.-.-,山本義丸⁹⁾)
 関宮町(大久保,3.VIII.1961,1ex.,岡本清²⁰⁴⁾)
 柏原町(柏原,7.IV.1955,1♀,山本義丸¹⁵⁸⁾)
 津名町(大町畑,5.IV.1972,1♂,登日邦明²⁶⁾)
 南淡町(阿万上町,10.VI.1991,-;11.IX.1991,-,藤平明¹⁹⁷⁾)

兵庫県におけるキノカワガ亜科分布一覧表

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	備考
1. コマバシロキノカワガ		○			○		○	○	○			6	
2. ネジロキノカワガ	○	○		○	○		○	○	○	○		10	
3. ナンキンキノカワガ	○	○				○	○	○	○	○		14	
4. シンジュキノカワガ	○	○	○				○	○	○	○		6	注目種 個産種?
5. リュウキュウキノカワガ	○	○	○	○	○				○	○		11	
6. キノカワガ	○	○	○	○	○		○	○	○	○		31	
7. ネスジキノカワガ	○	○	○	○	○				○	○		10	
8. ミヤマクロスジキノカワガ		○							○	○		1	注目種
9. クロスジキノカワガ		○	○	○	○		○		○	○		6	
10. マエシロモンキノカワガ		○	○	○	○		○		○	○		8	
キノカワガ亜科 計	5	9	3	7	5	2	7	3	6	3	7		

10. *Nycteola costalis* Sugi (3979)

マエシロモンキノカワガ

前翅は比較的短く、斑紋は変異に富むが、亜外縁線の内側に接し、前縁上に白色影を表すのは本種の特徴である。現在のところ日本の特産で、房総半島から九州にかけての南岸沿い、対馬、屋久島、奄美、西表に分布し、常緑カシ林の分布とほぼ一致している。主にアラカシを食べるという。日本海側からは記録がないという。県下では東南部に産地が限られており、西播北部地域、淡路地域からは報告がない。平地の二次林には広く生息していると思われる。

[採集記録]

西宮市(仁川, 8.IX.1969, 1♂, 遊磨正秀¹⁾)

宝塚市(南口2丁目, 17.XI.1988, -, 新家勝¹²⁾)

高砂市(-, 24.IX.1964, -, 岡本清¹³⁾)

黒田庄町(喜多, 9.IV.1959, 1ex.; 12.IV.1961, 1ex.; 10.X.1961, 1ex., 岡本清¹⁴⁾)

上郡町(船坂, 8.IV.1998, 1♂, 高島昭)

関宮町(大段ヶ平, 1.VII.2000, 1♂, 高島昭)

柏原町(柏原, -, -, -, 山本義丸¹⁵⁾)

水上町(篠ヶ峰, -, -, -, 山本義丸¹⁶⁾)

<今後記録される可能性のある種>

★ *Nycteola dufayi* Sugi (3980)

クロテンキノカワガ

前翅は暗い灰色を呈し、斑紋は不鮮明。マエシロモンキノカワガに似るが、翅表中央が暗灰褐色を帯びることはなく、前縁翅頂に近い白色影は全く現れないか弱い。また、腎状紋は赤褐色を呈しない。関東地方を北限として四国、九州にまで分布する。幼虫はアラカシ、ウラジログシ、イチイガシにつく。ミズナラからも幼虫が発見された。兵庫県からは見つからないが、南部の平地から低山地では分布している可能性がある。

サラサリンガ亜科 <CAMPTOLOMINAE>

以前はヒトリガ科、あるいは独立の科であるサラサヒトリガ科に属していたが、現在はヤガ科に含まれている。ヤガ科では一旦リング亜科に含まれたが、かなり異質で最近では独立した亜科を設ける説が有力である。また、キノカワガ亜科、リング亜科とともにヤガ科の中ではかなり異質であり、独立した科として取り扱うべきであるとする意見もあり、上位分類の位置は必ずしも安定していないが、本稿では日本産蛾類大図鑑及び Post MJ Ed.2 に従い、ヤガ科サラサリンガ亜科として取り扱う。現在の知見では日本産は1属1種(サラサリンガ)であり、兵庫県

にも分布している。

1. *Camptoloma interiorata* (Walker) (3343)

サラサリンガ

別名サラサヒトリ。ヤガ科への移管に伴い和名がサラサリンガに改称されている。

色彩は特徴があり、同定は容易である。クヌギ、ナラ、カシなどを食べる。6~7月頃に出現する。本州から九州に至る本土域と対馬に分布する。県下では、地域的には満遍なく得られているものの記録は少なく、中東播地域からは記録がない。平地から低山地にかけて広く分布すると思われるが、意外に局地性が強いのかかもしれない。

[採集記録]

神戸市(藍那, 14.VII.1989, 1♀, 中川俊夫^{*})

宝塚市(美座2丁目, 26.IV.1979, -, 新家勝¹²⁾; 武庫川町, 17.IV.1987, -, 新家勝¹³⁾)

姫路市(広嶺山, -, -, 1982, -, 木村三郎¹⁴⁾)

相生市(三瀬山, 25.VI.2000, 1♂, 高島昭)

上月町(久崎, 14.VII.1970, 2♂ 1♀, 相坂耕作)

三日月町(下本郷, 28.VI.1984, 1♂, 川副昭人^{*})

関宮町(大段ヶ平, 21.VII.2000, 1♀, 高島昭)

水上郡(-, -, -, -, 山本義丸¹⁵⁾)

洲本市(厚浜, 29.VI.1979, -, 7.VII.1980, -, 藤 富正昭¹⁶⁾)

リング亜科 <CHLOEPHORINAE>

形態的にはキノカワガ亜科とよく似ており、両者を統合して扱う人もいる。さらにはサラサリンガ亜科も含めてこれらの種群をヤガ科から独立させる説もあるが、ここでは日本産蛾類大図鑑及び Post MJ Ed.2 に従いヤガ科に含めて取り扱う。

原則としてキノカワガ亜科で見られるような前翅翅表の隆起した鱗片は見られない。華麗な色彩を持つものが多く、キノカワガ亜科で見られるような隠蔽色を持つものは少ない。新大陸には分布しないが、旧熱帯には多くの種が分化し、アジアではスダランドの森林帯に種数が豊富である。日本には30種が知られ、そのうち兵庫県には17種が記録されている。なお、ワタリングがかつて県内から記録されたことがあるが、その後確認されていないこと、発表者から誤認の可能性が申告されていることなど、記録の信頼性が低いいため本リストからは外している。

県内における産出状況を地域別に見ると、神戸市8種、阪神北摂13種、中東播南部6種、中東播北部8種、西播南部11種、西播北部11種、南但11種、北但8種、丹波11種、淡路北部3種、淡路南部8種となっており(別表参照)、調査密度の濃淡を除けば産出種類数の地域による差は少ない。南方系の種が優勢

であるが一部に北方系の種も混じり、バラエティーに富んだ種構成となっている。ハネモンリング、チャオビリング、ウスアオリング、ツクシアオリング、トビイロリングは記録が少なく注目種である。また、クロモンオビリングは県内からの記録はないが、淡路島など南部では今後採集される可能性がある。

1. *Iragoades nobilis* (Staudinger) (3981)

マエキリノガ

季節変異が認められ、1化では前翅にやや濃色の外横線が目立つが、2化では後縁上の褐色斑とその内方の淡色影のみとなる。東北地方から九州、対馬にかけて分布し、年2回の発生である。幼虫はイヌシデから発見されている。県下では、洲本市の記録を除くと山地帯から得られている。これは食樹の分布との関連が強いと思われる。六甲山周辺や中東播地域にも生息すると思われる。

【採集記録】

能勢妙見山(26.VIII.1983,1♂,夏秋ほか⁸⁷)

大河内町(長沢,23.V.2000,1♂,高島昭)

安富町(大河渓谷,14.V.1999,1♂,高島昭)

波賀町(坂の谷,6.VI.1992,1♂,熊代直生^{*}:同,5.VI.

1998,1♂;20.VI.1998,1♂,高島昭:引原,4.VII.1973,

1♀;18.VII.1973,1♀;22.V.1976,2♀,遊磨正秀⁵⁵:同,16.VII.1988,1♀,高島昭¹⁴)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,-(目撃記録),遊磨正秀⁷⁰:

横行溪谷,15.V.1999,1♀,高島昭)

氷ノ山(---,遠山ほか³⁶)

関宮町(大段ヶ平,2.VI.2000,1♂,高島昭:氷ノ山,---,

1954,-,山本義丸⁵)

青垣町(神楽,---,山本義丸¹⁵⁵)

洲本市(宇山,16.V.1981,1ex.,林俊雅⁷⁰)

2. *Earias pudicana* Staudinger (3985)

アカマエアオリング

前翅は深緑色で、中室端の褐色点は個体によっては欠くこともある。縁毛は紫褐色、後翅は白色。春型では胸背及び前翅前縁基部がピンク色を帯びることが多い。年2〜3回の発生で春から秋まで見られる。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島に産する。幼虫はヤナギを食べる。ヤマハギを食べることも確認されている。県下では各地に普通に見られる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,---,田中蕃¹³)

川西市(黒川,3.V.1997,1♂,高島昭¹²¹)

宝塚市(西谷西部,14.V.1977,1♂;27.VI.1977,1♀;27.VI.

1987,1♂1♀;5.IX.1987,1♂;20.VIII.1988,1♂,東正雄

¹²⁰:南口2丁目,25.VI.1984,-,新家勝⁹²:武庫川町,11.X.1984,-,新家勝⁹²:同,10.V.1989,-,新家勝¹²⁹)

黒田庄町(喜多,7.VII.1960,1ex.,岡本清¹⁶⁰)

波賀町(引原,1.VI.1974,1♀;22.V.1976,1♂,遊磨正秀⁵⁵)

三日月町(下本郷,-.VII.1983,-.VIII.1983,-.V.1984,-,川副昭人¹⁰²:同,5.VI.1984,1♂1♀;9.VI.1984,1♀,川副昭人^{*})

氷ノ山(---,遠山ほか³⁶)

氷上郡(---,山本義丸⁵)

津名町(大町畑,3.V.1972,1♂;5.V.1972,1♀,登日邦明²⁵)

南淡町(阿万上町,23.IV.1973,-,藤平明³⁵:同,4.V.1976,-,藤平明³⁵:同,19.VIII.1987,-,藤平明¹⁹⁷)

3. *Earias roseifera* Butler (3986)

ベニモンアオリング

前翅は黄緑色であるが、春型では翅表中央が濃いピンク色を帯びる。中室端には暗色点を表すことが多い。後翅は灰色ないし暗灰色。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島、御蔵島、石垣島に分布し、幼虫は各種ツツジ類を食べる。年2回以上の発生と思われる。県下では前種同様各地に普通に産する。

【採集記録】

神戸市(藍那,19.V.1988,1♂,中川俣夫^{*}:諏訪山公園,-.VI.1986,-,山口福男¹⁰¹:摩耶山,---,田中蕃¹³)

尼崎市(南塚口町,10.V.1982,1♂;15.V.1982,1♀,夏秋優¹⁰⁶)

川西市(黒川,13.VII.1996,1♂,高島昭¹²¹:平野,26.VI.1992,1♀;26.IX.1992,2♀,東良雄¹²⁰)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♀,夏秋ほか⁷²)

宝塚市(武庫川町,1.VII.1987,-,新家勝¹¹²)

高砂市(-.30.VII.1971,-,岡本清¹⁵⁴)

黒田庄町(喜多,19.IV.1960,1ex.;30.IV.1960,1ex.;1.V.

1960,2exs.;11.V.1960,1ex.;12.V.1960,1ex.,岡本清¹⁶⁰)

姫路市(太市,---.1991,-,丸谷ほか¹²⁶:同,17.V.1995,1♀,高島昭)

三日月町(下本郷,-.VI.-,川副昭人¹⁰²)

温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1ex.,谷田昌也⁹⁷)

氷上郡(---,山本義丸⁵)

津名町(大町畑,3.V.1972,1♂;5.V.1972,2♀,登日邦明²⁵:同,1.VII.1972,1♂;31.VII.1972,1♂,登日邦明²⁵)

洲本市(中津川,4.V.1972,1♂1♀,登日邦明²⁵:同,3.VII.1972,1♂2♀,登日邦明²⁵)

三原町(八木養宜,23.IV.1993,-,藤富正昭¹²¹)

南淡町(阿万上町,2.V.1960,-,19.IX.1973,-,藤平明³⁵:賀集,3.V.1995,-,藤平明¹⁹⁷)

4. *Kerala decipiens* (Butler) (3992)

ハネモンリング 注目種

前翅は細長く、静止するときは体軸に沿って翅を

丸め、コケガ亜科のソノバ類のような姿態を表す。北海道から九州、屋久島にかけて分布するが、西日本では少なく稀な種となる。幼虫はヤマハノキを食べると予想されている。年2回の発生で、県下では氷ノ山周辺の山地で得られているだけである。

【採集記録】

波賀町(坂の谷, 12.VI.1998, 1♂, 高島昭)

大屋町(横行溪谷, 4.VI.1999, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(---, 1ex., 山本義丸¹⁾)

5. *Gelastocera exusta* Butler (3993)

クロオビリンガ

北海道から九州にかけての本土域に普通に産する。年2回、春と夏に出現する。幼虫は、オニグルミ、サワシバ、オヒョウ、ヤシヤブシ、シナノキ、フジなど多種の樹木につく。県下では、各地に産し、平地でも山地でも得られている。

【採集記録】

神戸市(藍那, 27.IX.1981, 1♂, 松本健嗣¹⁾: ひよどり台, 7.VIII.1983, 1♀; 11.VIII.1983, 1♂, 松本健嗣¹⁾: 六甲山, 3.VI.1989, 1♂, 岡村八郎²⁾)

川西市(黒川, 18.V.1996, 1♀, 高島昭¹³⁾: 平野, 20.VII.1992, 1♂, 東良雄¹³⁾)

能勢妙見山(29.VIII.1983, 1♂, 夏秋ほか⁴⁾)

猪名川町(上阿古谷, 12.VIII.1982, 1♂; 20.VIII.1982, 1♀, 夏秋ほか²⁾)

宝塚市(西谷西部, 14.V.1977, 3♂; 20.VIII.1988, 1♀, 東正雄¹³⁾)

黒田庄町(喜多, 30.IV.1959, 1ex.; 21.IX.1959, 1ex.; 20.IV.1960, 1ex.; 24.V.1960, 1ex.; 29.VI.1961, 1ex., 岡本清¹⁴⁾)

姫路市(太市, ---.1991, -, 丸谷ほか¹⁵⁾: 広嶺山, 6.VII.1996, 1♀, 高島昭¹⁶⁾)

波賀町(坂の谷, 26.VIII.1988, 1♀; 28.VIII.1988, 1♂; 27.V.1998, 1♂; 12.VIII.1998, 1♂; 10.IX.1998, 1♂; 17.IX.1998, 1♂, 高島昭: 引原, 22.VI.1974, 1♀; 29.VI.1974, 1♂; 22.V.1976, 1♂, 遊磨正秀⁵⁾: 同, 2.VII.1988, 1♂; 20.VIII.1988, 2♂; 20.VIII.1988, 1♂, 高島昭¹⁴⁾)

相生市(瓜生, 21.V.1997, 1♂; 8.IX.1997, 1♂, 高島昭¹⁷⁾)

南光町(船越, 23.VIII.1963, 1ex., 岡本清¹⁴⁾)

三日月町(下本郷, -.VI.-, -.IX.-, -.V.1984, -.VII.1984, -.IX.1984, -, 川副昭人¹⁸⁾: 同, 28.IV.1984, 1♂, 川副昭人¹⁸⁾)

村岡町(鉢北高原, 19.VIII.2000, 1♂, 高島昭)

朝来町(須留ヶ峰, 31.VII.1975, -(目撃記録), 遊磨正秀⁵⁾)

大屋町(横行溪谷, 15.V.1999, 1♀; 6.VII.1999, 1♂; 3.IX.1999, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(---, -, 遠山ほか¹⁴⁾)

関宮町(大段ヶ平, 2.VI.2000, 1♂; 1.VII.2000, 1♂, 高島昭: 氷ノ山, ---.1954, -, 山本義丸⁵⁾: 同, ---.1955, -, 山本

義丸⁷⁾: 福定, 18.VIII.1964, 1ex., 岡本清¹⁴⁾)

水上郡(---, -, 山本義丸¹⁾)

南淡町(阿万上町, 10.V.1985, -; 17.IX.1986, -, 藤平明⁹⁾: 同, 27.IV.1986, -; 11.V.1991, -, 藤平明¹⁷⁾: 灘黒岩, 29.VI.1998, -, 藤平明¹⁷⁾: 福良乙, 3.V.1996, -, 藤平明¹⁷⁾: 福良向谷, 22.IV.1997, -, 藤平明¹⁷⁾)

6. *Macrochthonia fervens* Butler (3995)

カマフリンガ

北海道から九州までの本土域に普通に産する。幼虫はハルニレ及びケヤキから見つかっている。県下ではやや記録が少なく、中東播地域、淡路地域からは見つかっていない。里山地域では広く分布しているのではないと思われる。

【採集記録】

神戸市(藍那, 27.IX.1981, 1♂, 松本健嗣¹⁾: ひよどり台, 7.VIII.1983, 1♀; 11.VIII.1983, 1♂, 松本健嗣¹⁾)

妙見山(29.VIII.1983, 1♂, 夏秋ほか⁴⁾)

波賀町(引原, 22.VI.1974, 1♀; 29.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀⁵⁾: 同, 2.VII.1988, 1♂; 20.VIII.1988, 2♂, 高島昭¹⁴⁾: 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂, 高島昭)

三日月町(下本郷, -.VII.1984, -.IX.-, -, 川副昭人¹⁸⁾: 同, 5.VI.1984, 1♂ 1♀, 川副昭人¹⁸⁾)

大屋町(横行溪谷, 6.VII.1999, 1♂, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, ---.1955, -, 山本義丸⁷⁾: 福定, 18.VIII.

1964, 1ex., 岡本清¹⁴⁾: 大段ヶ平, 1.VII.2000, 1♂, 高島昭)

水上郡(---, -, 山本義丸¹⁾)

7. *Hypocarea conspiciua* (Leech) (3997)

カバイロリンガ

前翅は赤褐色でやや橙黄色を帯び、中央に幅広い暗色部がある。また、翅頂近くの前縁部に暗色斑を有する。本州から九州にかけて分布するが最近北海道(大野町)からも発見されている。幼生期はわかっていないが、年2回出現する。県下では、能勢妙見山、波賀町、村岡町、関宮町から得られているだけで少ない種である。六甲山や中央山地では見つかるだろう。

【採集記録】

能勢妙見山(26.VIII.1983, 1♀, 夏秋ほか⁴⁾)

波賀町(坂の谷, 26.VIII.1988, 1♂; 5.VI.1998, 1♂; 19.VIII.1998, 1♂, 高島昭: 同, 24.VIII.1991, 1♂, 大築正弘¹⁾: 引原, 1.IX.1988, 1♂, 高島昭¹⁴⁾)

村岡町(鉢北高原, 19.VIII.2000, 4♂, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, ---.1955, 3♂, 山本義丸⁷⁾)

8. *Maurilia iconica* (Walker) (3998)

チャオビリンガ 注目種

インドーオーストラリア地域に広く分布するが日

本では偶産種と思われる。これまで、九州の英彦山及び小笠原諸島から記録があるという。県下からは宝塚市で1♀の記録があるというが、南方よりの飛来個体と思われる。

〔採集記録〕

宝塚市(西谷西部,18.VI.1988,1♀,東正雄¹³⁰)

9. *Paracrama angulata* Sugi (4000)

ウスアオリンガ 注目種

南方系の種で、紀伊半島を中心とする近畿地方以西、四国、九州、対馬、西表島に産する。年2回かそれ以上の発生である。幼生期は未知である。県下では淡路地域から得られているが、筆者は最近大屋町で採集している。ここは標高約700mの山間地であり、本種はかなり移動性があるのかもしれない。神戸から西播にかけての瀬戸内海沿岸や但馬の沿岸地帯など暖帯林のある地域では発見できるだろう。

〔採集記録〕

大屋町(横行溪谷,6.VII.1999,1♂,高島昭)

津名町(大町畑,5.IV.1972,1♀,登日邦明¹⁶)

洲本市(宇山,18.IV.1981,1ex.,林俊雅⁷¹)

南淡町(阿万上町,25.IX.1965,-,藤平明¹⁵:同,15.VI.

1991,-;11.IX.1991,-,藤平明¹⁷⁷)

10. *Clethrophora distincta* (Leech) (4001)

ミドリリンガ

暖温帯系の種で常緑カシ帯の固有種とされている。関東、富山以西の本州と四国、九州、対馬、屋久島に分布する。年2回の発生でアラカシを食樹としている。県下ではほぼ全域にわたり記録されており、平地から山地まで広く分布するようであるが、淡路からはまだ報告されていないのは意外である。中東播南部及び淡路地域からの発見が期待される。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山,30.VIII.1984,1♂,岡村八郎^{104*})

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,3♂;20.VIII.1982,2♀,夏秋ほか⁷²)

宝塚市(南口2丁目,24.VII.1983,-,新家勝⁸¹)

三田市(香下,5.VI.1984,1♀;1.IX.1992,1♂,東正雄¹³⁰)

八千代町(笠形山,21.VII.1968,1ex.,岡本清¹⁰¹)

波賀町(引原,25.VIII.1987,1ex.;22.IX.1988,1♂,高島昭¹¹²)

相生市(瓜生,16.VI.1996,1♂,高島昭¹⁷⁸:三瀬山,25.VI.2000,1♂,高島昭)

上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭)

佐用町(海内,25.VI.1965,1♂,阪口浩平*)

三日月町(下本郷,-IX.-,-;VIII.1983,-;X.1984,-,川副昭人¹⁰²:同,28.VI.1984,1♀;28.VI.1984,1♀;29.IX.

1984,3♂,川副昭人*)

豊岡市(山本,2.XI.1972,-,山根政之⁶¹)

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁸¹)

11. *Hylophilodes tsukusensis* Nagano (4002)

ツクシアオリンガ 注目種

暖温帯系の種で、♂では後翅が黄色であるが♀では白い。本州では紀伊半島大塔山系、大阪府南部、中国地方、四国、九州北部に産し、山地性とされている。ツクシリングともいう。"ツクシ"は北九州地方の呼び名である。幼虫は未知であるがマテバシイより繭が見つかり、*Pasanian* 属を食樹としている可能性が高いとされる。

県下では最近になって発見されており、川西市の記録の詳細は不明であるが、筆者は相生市、上郡町で採集している。相生市瓜生や赤穂市方面では局地的にシリブカガシが自生しているので、この仲間が食樹であるというのは現実性がある。また、もしそうとすれば、ムラサキツバメと同じような分布を示すと推測できる。なお、最近マテバシイが街路樹に使われることも多く、これについて分布拡大する可能性もあると思われる。

〔採集記録〕

川西市(-,19.IV.1987,-,越野誠一郎¹¹⁵)

相生市(瓜生,29.V.1997,1♀;18.VII.1997,1♂,高島昭¹⁷⁸)

上郡町(行頭,2.V.1995,1♀,高島昭¹⁷⁸)

12. *Pseudoips prasinanus* (Linnaeus) (4003)

アオスシアオリンガ

春と夏で大きさや翅型、色彩が異なり、永らく別種ヤマトスシアオリンガとされてきたが、季節型であることが判明した。幼虫は、ブナ、ミズナラなどの樹木に見られる。年2回の発生で北海道から九州にかけての本土域に分布する。県下では、低山地から山地帯にかけて分布する。能勢妙見山以外の県南東部及び淡路地域からは記録がない。

〔採集記録〕

能勢妙見山(26.VIII.1983,2♂,夏秋ほか⁷²)

姫路市(太市,-,-,1991,-,丸谷ほか¹¹⁶:広嶺山,-,-,1982,-,木村三郎⁸¹:同,6.VII.1996,1♂,高島昭¹⁰⁰)

大河内町(長沢,23.V.2000,3♂1♀,高島昭)

安富町(大河溪谷,14.V.1999,1♂,高島昭)

波賀町(音水,24.V.1964,1ex.,岡本清¹⁰¹:坂の谷,11.V.

1991,2♂;6.VI.1992,1♂,八木剛*:同,8.VI.1991,1♂;

6.VI.1992,2♂2♀,熊代直生*:同,12.VIII.1998,1♂,

高島昭:引原,18.V.1974,2♀;1.VI.1974,1♀;8.VI.

1974,1♂;12.VIII.1974,1♂;2.VI.1975,1♀;22.V.1976,

3♂;8.V.1977,1♂1♀,遊磨正秀⁸¹:同,10.VIII.1987,

1ex.;26.V.1988,2♂;25.VII.1988,1♀,高島昭¹¹²)

三室山(-,-,-,遠山ほか³¹)

相生市(瓜生,26.VIII.1997,1♂,高島昭¹⁷⁸)

三日月町(下本郷,-IX,-,-,-VII.1983,-,-VIII.1983,-,川副昭人¹²⁸:同,9.V.1984,1♂3♀,川副昭人*)
 温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♂1♀,谷田昌也⁷⁾)
 鉢伏山(-,-,-,-,遠山ほか³⁶⁾)
 朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁴⁾)
 大屋町(田淵山,5.VIII.1975,4♂1♀,遊磨正秀⁷⁰:横行溪谷,23.VII.1999,1♂;13.VIII.1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか³⁶⁾)
 関宮町(大段ヶ平,2.VI.2000,1♂;21.VII.2000,1♂1♀;4.VIII.2000,1♂,高島昭:氷ノ山,-,-,-,-,山本義丸⁵⁾)
 青垣町(神楽,-,-,-,-,山本義丸¹⁵⁵⁾)
 市島町(妙高山,-,-,-,-,山本義丸¹⁵⁵⁾)

13. *Pseudoips sylpha* (Butler) (4004)

アカスジアオリンガ

暖温帯落葉樹林の蛾で、北海道から本州にかけてと四国北部、九州北部、対馬に産する。この種も季節型があり、かつて夏型はシロスジアオリンガと呼ばれていた。年2回、春と夏に出現する。県下では、瀬戸内沿岸地域と北摂から丹波にかけての地域で記録されている。中央山地や但馬地域からは発見されていないが、低地には広く分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(藍那,18.VII.1987,1♀,中川俊夫*:摩耶山,-,-,-,-,田中蕃¹³:世継山,9.IV.1992,2♂,岡村八郎*:六甲山,25.IV.1985,1♀,岡村八郎*)
 猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♂4♀,夏秋ほか⁷⁾)
 宝塚市(西谷西部,24.VI.1978,1♂;22.VIII.1987,1♂;5.IX.1987,1♀,東正雄¹³⁰:南口2丁目,16.V.1988,-,新家勝¹³¹:武庫川町,20.VI.1981,-,新家勝¹³¹)
 三田市(香下,4.V.1975,1♂,東正雄¹³⁰)
 黒田庄町(喜多,13.IV.1960,1ex.;21.V.1960,1ex.;1.VII.1960,1ex.;2.VII.1960,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)
 姫路市(太市,23.IV.1995,1♀,高島昭)
 相生市(瓜生,7.VII.1989,1♀,高島昭¹⁵⁴)
 三日月町(下本郷,-VIII.1983,-,-VI.1984,-,-VII.1984,-,川副昭人¹²⁸:同,28.IV.1984,2♂;9.V.1984,3♂,川副昭人*)
 柏原町(柏原,-,-,-,-,山本義丸¹⁵⁵⁾)
 南淡町(阿万上町,20.IV.1993,-,6.VII.1996,-,藤平明¹⁷⁷⁾)

14. *Siglophora ferreilutea* Hampson (4005)

トビイロリンガ 注目種

♂の前翅前縁部では翅脈は歪み、翅表に顕著な渦状の毛塊を生じる。幼生期はよくわかっていない。関東南部を北限とし、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。県下では、相生市、豊岡市と南淡町から知られるのみで、詳しい分布状況はわからない。

[採集記録]

相生市(三瀬山,30.V.2000,1♀,高島昭)

豊岡市(山本,24.X.1972,-,山根政之⁴⁾)
 南淡町(灘大川,12.VI.1995,-,藤平明¹⁷⁷:灘黒岩,30.V.1997,-,藤平明¹⁷⁷⁾)

15. *Ariolica argentea* (Butler) (4006)

ギンボシリンガ

体翅とも銀白色で、橙色の条がある。この橙色条は時に消失する場合がある。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島に分布し、幼虫はツツジ類につく。県下では、各地に普通であるが中東播南部と淡路地域からは記録がない。おそらく普遍的に分布するものと思われる。

[採集記録]

神戸市(諏訪山公園,-VII.1997,-,山口福男³⁰¹:摩耶山,22.VIII.1985,1♀,岡村八郎*:同,-,-,-,-,田中蕃¹³:六甲山,6.V.1985,1♂,岡村八郎*)
 宝塚市(武田尾,2.VI.1987,1♂;12.VIII.1991,1♀,東正雄¹³⁰:中山寺,25.V.1985,-,新家勝¹³⁰:西谷西部,3.V.1976,3♂;14.V.1977,1♀;27.VI.1987,1♂;5.IX.1987,1♂,東正雄¹³⁰)
 三田市(香下,28.VII.1989,1♀,東正雄¹³⁰)
 黒田庄町(喜多,11.V.1960,1ex.,岡本清¹⁶⁸⁾)
 波賀町(坂の谷,28.VIII.1998,1♂,高島昭:引原,8.VI.1974,1♀;2.VI.1975,1♀,遊磨正秀⁵⁴:同,26.VI.1988,1♀,高島昭¹⁵⁴:同,21.X.1997,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,13.V.1989,1♂1♀,高島昭¹⁵⁴:同,30.IV.1997,1♀;21.V.1997,1♀;26.VIII.1997,1♀,高島昭)
 三日月町(下本郷,27.VII.1984,1♀,川副昭人*)
 出石町(弘原,21.VII.1975,-,大林誠⁴⁾)
 朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,-(目撃記録),遊磨正秀⁵⁴⁾)
 大屋町(田淵山,5.VIII.1975,-(目撃記録),遊磨正秀⁷⁰⁾)
 氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか³⁶⁾)
 関宮町(大段ヶ平,4.VIII.2000,1♀,高島昭)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁵⁾)

16. *Gobala argentata* Butler (4007)

ハイイロリンガ

前翅の色彩には変異が多い。本州北部から九州にかけてと対馬、屋久島に分布する。年2回以上の発生で、6月頃から出現するが、成虫で越冬するため、春先にも成虫が見られる。食樹はヌルデ。県下での記録はやや少ないものの、平地から山地まで普遍的に見られるものと思われる。

[採集記録]

神戸市(保久良山,9.IX.1985,1♂,岡村八郎*:摩耶山,-,-,-,-,田中蕃¹³)
 川西市(黒川,18.V.1996,1♂,高島昭¹⁷¹⁾)
 猪名川町(上阿古谷,11.VII.1983,1♂,夏秋ほか⁷⁾)
 黒田庄町(喜多,16.V.1960,1ex.;6.IX.1960,1ex.;17.XI.

1960,1ex.,岡本清¹⁴⁸⁾姫路市(太市,-,1991,-,丸谷ほか¹⁴⁹⁾)波賀町(引原,27.IX.1974,1♀;22.X.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵⁾:同,26.V.1988,1♂;5.VIII.1988,1♀,高島昭¹⁴⁹⁾)

豊岡市(正法寺,28.IV.1998,1♂,柴田剛)

関宮町(氷ノ山,-,1955,-,山本義丸¹⁾)氷上郡(-,-,-,-,山本義丸¹⁾)南淡町(阿万上町,12.IX.1958,-,藤平明⁵⁵⁾:阿万上町,11.IV.1994,-,藤平明¹⁶⁷⁾)17. *Sinna extrema* (Walker) (4008)

アミメリンガ

前翅の斑紋はしばしば消失することがあるという。北海道から九州に至る本土域に分布し、年2回以上の発生で、5~9月に見られる。幼虫はオニグルミを食べることが知られている。県下では案外記録が少なく、県南東部と淡路地域からは記録がない。食樹がオニグルミであるので、六甲山系や北摂山地、中央山地の谷添いの環境を探せば見つかるものと思う。

[採集記録]

波賀町(引原,16.VII.1988,1♂;1.IX.1988,1♂,高島昭¹⁴⁹⁾)相生市(瓜生,24.V.1989,1♀,高島昭¹⁴⁹⁾:同,28.IV.1997,1♂;26.VIII.1997,1♂;8.IX.1997,1♂,高島昭)

竹野町(森本,23.IX.1998,1ex.,柴田剛)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁶⁾)

大屋町(横行溪谷,23.VII.1999,1♀,高島昭)

氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか⁵⁵⁾:同,-,-,-,-,山本義丸¹⁾)氷上郡(-,-,-,-,山本義丸¹⁾)

<今後記録される可能性のある種>

★ *Gelastocera rubicundula* (Wileman) (3994)

クロモンオビリンガ

紀伊半島、四国、九州の南岸沿いと屋久島に分布する。淡路島では記録される可能性がある。

<引用文献>

1) 戸澤信義(1935) 六甲山産蛾類目録 関西昆虫雑誌2(3):30-31

5) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第1報) 兵庫生物3(1/2):3-6

7) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第2報) 兵庫生物3(3):121-123

8) 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録12-50

9) 山本義丸(1958) 氷ノ山の蛾について(第三報) 兵庫生物3(4):237-239

兵庫県におけるリンガ亜科・サラサリンガ亜科分布一覧表

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	備考
サラサリンガ亜科													
1. サラサリンガ	○	○	○		○		○		○		○	10	
リンガ亜科													
1. マエキリンガ		○		○		○	○		○		○	12	
2. アカマエアオリンガ		○	○		○	○	○		○	○	○	12	
3. ベニモンアオリンガ		○	○	○	○	○	○		○	○	○	19	
4. ハネモンリンガ						○	○		○			3	注自殖 山地性
5. クロオビリンガ		○	○	○	○	○	○		○		○	27	
6. カマフリンガ		○				○	○		○			11	
7. カバイロリンガ		○				○	○		○			5	注自殖 山地性
8. ティオピリンガ		○										1	注自殖 南方系
9. ウスアオリンガ							○			○	○	4	注自殖 暖地性
10. ミドリリンガ		○		○	○	○	○		○			13	
11. ツクシアオリンガ		○		○	○	○	○		○			3	注自殖 暖地性
12. アオスシアオリンガ		○	○	○	○	○	○		○			21	
13. アカスシアオリンガ		○	○	○	○	○	○		○		○	15	
14. トビイロリンガ						○					○	4	注自殖
15. キンホシリンガ		○	○	○	○	○	○		○			18	
16. ハイイロリンガ		○	○	○	○	○	○		○		○	12	
17. アミメリンガ					○	○	○		○			7	
リンガ亜科計	8	13	6	8	11	11	11	8	11	3	8		

- 13) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶19(71):89-104
- 26) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(I) 蛾類通信73:215-224
- 29) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録 PARNASSIUS 9:9-16
- 31) 遊磨正秀(1973) 六甲山地域の蛾類 I きべりはむし 2(1):1-9
- 35) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(II) PARNASSIUS 12:5-13
- 36) 奥谷禎一(1974) 中国山脈東端の昆虫相 東中国山地自然環境調査報告173-191
- 42) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第1・2報)48-54
- 43) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第3報)9-14
- 55) 遊磨正秀(1979) 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類について(II) きべりはむし7(2):2-16
- 56) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類について(I) きべりはむし8(2):1-8
- 66) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(その2) きべりはむし9(2):17-20
- 70) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(I) きべりはむし9(1):3-6
- 73) 夏秋優・佐々木昇(1982) 能勢地の蛾(I) 上阿古谷・夏の蛾 Crude 23:1-37
- 76) 新家 勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その1) きべりはむし10(2):10-16
- 78) 林 俊雄(1983) 淡路島産蛾類採集記録(I) PARNASSIUS 28:13-16
- 81) 松本健嗣(1983) 神戸市山田町の蛾(続報II) きべりはむし11(2):57-58
- 82) 夏秋優・佐々木昇(1983) 能勢地方の蛾(II) 上阿古谷・夏の蛾(続報) Crude 24:1-12
- 84) 新家 勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その2) きべりはむし11(1):6-10
- 86) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫 てんとうむし9:53-58
- 87) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢地方の蛾(III) 妙見山・夏の蛾(1) Crude 25:15-22
- 88) 新家 勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その3) きべりはむし12(2):53-55
- 92) 新家 勝(1985) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その4) きべりはむし13(2):36-40
- 96) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その6) きべりはむし14(2):30-33
- 97) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1) IRATSUME 10:30-37
- 99) 藤平 明(1987) 南淡の蛾 自刊
- 102) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし10:1-10
- 104) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集記録 てんとうむし10:37-45
- 113) 新家 勝(1988) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その8) きべりはむし16(1):13-15
- 126) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森林内基礎調査報告書4-6昆虫類119-151
- 129) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その10) きべりはむし21(2):53-64
- 130) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫 V 蛾類(II)
- 131) 藤宮正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト PARNASSIUS 41:1-4
- 137) 藤平 明(1995) 淡路島南部で注目される蛾 (I) PARNASSIUS 42:14-15
- 142) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報 きべりはむし23(1):6-16
- 152) 高島 昭(1996) 相生市三濃山の蛾(1) きべりはむし24(1):27-39
- 155) 山本義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類 (1) きべりはむし24(2):1-13
- 158) 岡本 清(1997) 高砂の蛾 てんとうむし11:40-45
- 159) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1) きべりはむし25(1):31-38
- 160) 高島 昭(1997) 姫路市広瀬山の蛾(1) てんとうむし11:65-69
- 166) 永瀬幸一(1997) 鉢伏高原でシンジュキノカワガを採集 Nature Study 43(10):11
- 168) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1) てんとうむし12:30-38
- 171) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし26(1):23-38
- 178) 高島 昭(1998) 相生市三濃山麓の蛾(2) きべりはむし26(2):59-64
- 185) 越野誠一郎・宇根崎博信(1993) 大阪府南部の注目すべき蛾類 II 蛾類通信174:422-425
- 197) 藤平 明(1999) 淡路島南部の蛾 自刊1-96
- 200) 相坂耕作(1999) 新宮町の陸生昆虫 新宮町自然調査報告I 新宮町の自然119-144
- 201) 山口福男(1999) 諏訪山公園で採集した蛾 きべりはむし27(2):37-41
- 204) 岡本 清(1999) 兵庫県で採集した蛾 てんとうむし13:50-58
- 206) 夏秋 優(1997) 兵庫県尼崎市塚口の蛾 Crude 41:20-25

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

テングチョウの多発(芦屋市の例)

西 隆広

本年(2001年)は、当地方ではテングチョウ(*Libythea celtis*)の多発の話を多く耳にした。この現象について、兵庫県芦屋市の状況を報告する。

———— * ————— * ————— * —————

2001年は確かにテングチョウの成虫の数は多かった。しかし芦屋市では2000年も多発しており、発生地の一つである高座川(芦屋川支川)では、同年極めて多数の蛹を確認している。その数は例えば、発生木周辺のササの葉裏の多くに蛹が付いており、中には1枚当たり数個の例が見られるほどであった。それに対して2001年の蛹は、2000年ほどの数は見られなかった。観察結果で見る限り、上記発生地での発生数は2000年が2001年を上回っていた。

2001年には発生地で興味深い現象が見られた。5月12日に発生地へ出かけた時、川沿いのエノキのすべてが真冬のように葉を失っているのを見て驚いた。気づくの遅れて、エノキが葉を失った原因は確認

できなかったが、テングチョウの幼虫が食べ尽くしたのではないかと思う。

この推測が正しければ、テングチョウの幼虫の多くは蛹化前に食すべき葉を失い、その結果幼虫の一部は餓死し、また葉を失った樹上では幼虫は目立つため鳥類などの集中的な補食を受け、相当数を減らすことになったであろう。そのために蛹化に至る個体が減少したと考える。また本年は成虫の矮小個体が目立った。幼虫多発による摂食量不足が一部で起こったためであろう。

高座川のエノキは枯死することなく、その後回復して葉を茂らせている。

———— * ————— * ————— * —————

表-1に高座川の1観察区間である三条第二堰堤(標高125m)～高座滝(標高200m)、区間長約600mでのテングチョウの越冬成虫及び新成虫の観察数を示す。

表-1 テングチョウ成虫の最多観察数(高座川三条第二堰堤～高座滝)

年	越冬成虫			新成虫		
	期間：4月上旬～5月上旬			期間：5月下旬～6月上旬		
	最多観察頭数	最多観察月日	期間観察回数	最多観察頭数	最多観察月日	期間観察回数
1993年	8	5/09	4	9	6/09	2
1994年	17	4/17	4	27	5/28	1
1997年	5	4/19	5	0	—	2
1998年	1	4/05	6	0	—	1
1999年	2	4/17	3	—	—	0
2000年	22	5/04	7	38+数百	6/04	2
2001年	66	4/28	7	275	6/03	3

備考) 観察時刻は概ね正午頃である。

新成虫の中に一部越冬成虫が含まれる場合がある(表-2参照)。

1997年、1998年の新成虫は0となっているが、当該観察区間外では少数を観察している。

表-1では越冬成虫の観察期間を4月上旬～5月上旬、新成虫の観察期間を5月下旬～6月上旬とし、その期間で観察数の最多頭数及びその観察の月日を示す。但し観察回数が“1”の年は、その1回の観察数を最多観察数としている。

同表からは、越冬成虫の多く見られる年は新成虫の発生数も多くなるという当然の傾向が読みとれるが、食樹となるエノキの葉の量との関係で限界を超せば、発生数は抑制されるということを示しているであろう。しかし、現在までのところ、なぜ成虫多発と言う現象が起こったのかは分からない。当該発生地に関しては、問題は2000年の成虫多発の原

因である。成虫発生数を左右する要因は、母蝶群の産卵総数であり、成虫に達するまでの各ステージでの病死数、寄生数、補食数であろう。ただ、産卵数、幼虫数が多量になると伝染性の致死性細菌やウィルスに感染することによる大量減数以外は、昆虫系の寄生者、捕食者の側にも必要の限界が生じ、結果的に寄生率、補食率の低下が現れるのかも知れない。そうすると第一の問題は母蝶群の産卵総数の変動要因、或いはその前段階の成虫が越冬し繁殖に参加するまでの生存率の変動要因ということになりそうだ。後者に関しては、気象を含む環境的条件の変化などが考えられるが、現在まで不明である。今後の課題で

ある。2001年に関しては、上記各要因の他にエノキの葉の総量が成虫発生数に関係したようだ。表-1では2000年6月4日の観察頭数を“38+数百”としているが、これは野帳の記載そのもので、実際には観察ルートの路上で観察した頭数が38、また三条第二堰堤上流の広場に吸水に集まっていた頭数が数百となっている。これは、堰堤上流に集まった数がありに多すぎてカウントを断念したためであり、今思えば時間を掛けてでも、より正確な概数のカウントを行っておくべきだった、と反省している。なおその状況を撮影しているが、写真では450頭程カウントできる。1000頭以上集まっていたのかも知れぬ。

ところで、表-1の新成虫の最多頭数はかなり不確かな要素を含んでいる。観察日によって頭数の変動が大きいからである。これは、観察日の天候など

の影響の他にも、新成虫は羽化後しばらくは付近に止まるが、その後急速に分散していくらしいことから、ピークを含んだ連続的な観察の結果でない表-1の最多頭数はあくまで参考値である。これに関しては、2000年6月4日の状況は写真記録で一部状況確認ができるが、その中では羽化途中、直後の新成虫が多数見られ、また羽化までに1日以上はかかりそうな緑色の蛹も見られる。それらはカウントしていない。ルートでの種別カウントは通常の歩行で観察できる成虫の数としているためである。

発生地における成虫の観察数の変化に関して、参考までに2001年5月中旬以降6月にかけて、当該区間を訪れた全観察でのテングチョウの観察頭数を表-2に示す。

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西町3-4)

表-2 2001年の観察数の変動

月 日	観察頭数	備 考
5/20	36	越冬成虫17頭、新成虫19頭
6/03	275	最多観察頭数（一部越冬成虫を含む）
6/09	25	一部越冬成虫を含む
6/10	21	同 上
6/17	8	

アオマダラタマムシ、オオムツボシ タマムシ神戸市内での記録 山本 勝也

筆者は県内での採集例が少ないと思われるタマムシ科の2種の標本を所蔵している。そのデータをここに報告する。

1. アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* (Snellen van Vollenhoven)

神戸市北区君影町君影小学校内

1ex. 21.VIII.1998 山本哲也採集

神戸市須磨区離宮西町北須磨小学校内

1ex. -.VI.2000 太田順江採集

同所 1ex. 4.IX.2000 山本剛史採集

神戸市須磨区須磨寺町須磨寺境内

1ex. 8.VIII.2001 山本こずえ、さなえ採集

2. オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii* Y.Kurosawa

神戸市須磨区須磨寺町

1ex. 26.IV.1999 山本勝也採集

どの個体も偶然に採集されたもので、発生木の確認には至っていない。

最後に発表をお勧めいただいた高島 昭氏、各標本

をご提供いただいた各氏に深くお礼申し上げる。

<参考文献>

高橋寿郎(1998):兵庫県のタマムシ(1)

きべりはむし第26巻第1号 p.15 .18

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

神戸市須磨区におけるギフチョウの記録 山本 勝也

筆者は神戸市須磨区内において、偶然にもギフチョウ *Luehdorfia japonica* Leech を採集しているので、ここに報告する。

神戸市須磨区離宮西町

1ex. 7.IV.2001 山本勝也採集

筆者の知る限り採集場所周辺には食草となるカンアオイ類の自生場所はなく、本種が生息するような環境は見当たらない。本個体はおそらく放蝶されたものではないかと思われる。

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

ハマオモトヨトウ稲美町で採集される

新家 勝

加古郡稲美町の生物調査で採集されたガ類の中にハマオモトヨトウ1♀が含まれているのを発見した。採集データは次のとおり。

採集日：1.VIII.2000

採集場所：兵庫県加古郡稲美町岡

東はりま水辺の里公園内

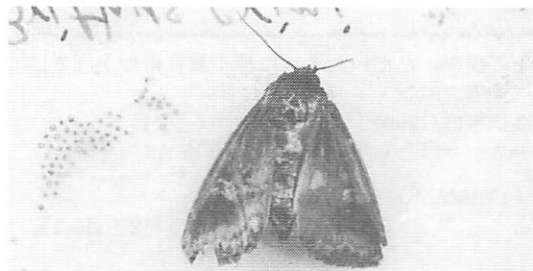
3次メッシュコード 52340784

ライトトラップ

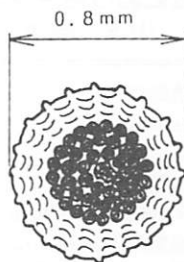
採集者：川上徳子

採集して約2ヵ月後のサンプルを見た際、採集品を包んだ三角紙には、約170個の卵が生みつけられていた。卵は、浅いお椀を伏せた形で底面の直径約0.8mm、上面は黒褐色ないし黄褐色で周辺部はほぼ透明。褐色の濃淡は成熟度または死後の変質度によるのではないと思われる。

本種は、県下では神戸市における幼虫の採集例および津名町における採取幼虫からの飼育例のみが報告されている¹⁾。また、兵庫県版レッドデータのCランク種でもある、なお、採集個体は新家が保管している。



採集個体と三角紙に生みつけられた卵(×1.65)



卵の拡大図(×50)

<参考文献>

- 1) 高島 昭(2000) 兵庫県のヨトウガ亜科
きべりはむし28(2): 62.

(NINOMI MASARU 宝塚市光明町8-57)

諏訪山公園でアサマキシタバを採集

山口 福男

Catocala streckeri Staudinger (アサマキシタバ)を諏訪山公園で採集したので報告する。

採集地：神戸市中央区諏訪山町諏訪山公園

採集日：2001年5月25日 採集数：雄2頭

公園内の水銀灯に飛来して帰りそびれて建物の壁に静止していたのを採集した。標本は私が保管している。アサマキシタバは兵庫県版レッドデータブックにあげられている希少種で、これまでの県内での記録は高島氏が1996年に本誌第24巻第2号に報告されている。これによると本種は県南部に点々と得られていて、産地での個体数は必ずしも少なくないのに記録の乏しいのは発生時期が5月下旬から6月のために発見され難いのではないかと推察されている。なお神戸市の記録は松本健嗣氏によるもので2ヶ所で採集されているがいずれも北区山田地区(旧山田町)からである。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

市川町産蝶類目録(3)

広畑 政巳

姫路昆虫同好会の会誌「てんとうむし」にて兵庫県産蝶類目録(1)、(2)として76種の記録を報告したが、この度76種のうちアカシジミとダイミョウセリの新産地が確認できたので記録として書き留めておきたい。

<アカシジミ>

市川町上牛尾半瀬 1♂ 3.VI.2001 広畑政巳

本種は同地区の三ヶ所で確認している。食樹はブナ科のコナラ亜属とアカガシ亜属が知られており、当地ではコナラとアラカシが見られる。しかし、スギ・ヒノキの植林が進んでおり、本種の生息環境である雑木林は見られず、コナラ・アラカシも散見できるにすぎない。食樹は確認していないがコナラが極めて少ないのでアラカシを食樹としているのではないだろうか。本来なら生息する環境でないような所で発見できたのは驚きであった。

<ダイミョウセリ>

市川町上牛尾半瀬 1♂ 3.VI.2001 広畑政巳

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3丁目11-8)

サツマシジミを芦屋市で記録 西 隆広

サツマシジミ(*Udara albocaerulea*)は兵庫県芦屋市の近隣で散発的な記録はあるが、芦屋市内での記録は寡聞にして知らない。本年(2001年)、市内で採集したので報告する。採集した地点は標高600m程の芦屋川の上流で、木が茂る暗い河原を飛んでいた。

本種は本州各地で分布を広げつつあることは知られている。採集個体は新鮮であったことから、採集地点近傍で発生したと考えられる。しかし私は近隣市町での経年的発生情報に接していないことから、現段階では芦屋市における本種は、迷蝶(一時発生)と位置付ける。

データ

サツマシジミ 芦屋川上流(奥山), 芦屋市
1♂ 12.VIII.2001 西 隆広採集・保管
(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西市4-3)

アカシジミの多発(芦屋市の例) 西 隆広

本年(2001年)は、当地方ではアカシジミ(*Japonica lutea*)が多発した。この現象について、兵庫県芦屋市の状況を報告する。

2001年の芦屋市での本種の成虫初記録は、我が家(芦屋市川西市町)の庭で、5月12日、1♀だった。この記録は従来の記録に比較して早いもので、しかも芦屋市の平野部の住宅街での記録であり、これを報告しようと思っていたところ、その後芦屋市の山域で多数の本種を観察し、多発に関する報告とした。

下表は、芦屋市内で私がルートを決めて蝶などの観察している内の1区間である東お多福山山頂から山麓までの間のアカシジミの頭数である。各年の観察月日はうまく一致していないが、2001年の多発傾向は十分現れている。特に6月16日の数はこれまでの観察頭数に比較して桁違いの多さであった。この傾向はその頃観察した山域のすべてに亘って観察された。さらに平野部でも本種の飛翔を数回確認している。

ところで、5月12日の我が家の記録は平野部の記録であり、平野部での発生であれば、山域より一般に早くても不思議ではない。しかし2001年は発生そのものが早かったように思われる。この現象を確

認するためには、東お多福山方面では、6月上旬～7月上旬での各年の記録の対比ができればベストだが揃わなかった。

我が家の記録は、当市ではアカシジミが山域のみならず、平野部の市街地内でも発生していることを示唆するものであった。この点でも興味深い記録である。我が家の庭にはアカシジミの食樹となり得るものは植えていないが、周辺地域の一部に屋敷林が残存し、アラカシが複数見られる。

東お多福山での観察頭数

年	月日	頭数
1993	6/12	1
	6/27	4
	7/04	5
1994	6/04	0
	6/25	2
	7/03	0
1999	7/04	2
	7/10	1
2000	7/01	13
	7/09	4
2001	6/16	103
	6/24	47

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西市町4-3)

但馬におけるクロコノマチョウの記録 近藤 伸一

イシガケチョウと同様にクロコノマチョウの分布の拡大が各地で報告されている。八鹿町でクロコノマチョウを採集および撮影した。同じ場所で、2週連続して新鮮な個体を確認したので、この場所付近で発生したものと思われる。この場所は本年行っているルートセンサスのコースで、4月から観察を行い、このとき初めて確認したもので、その後も月3回の割合で10月末まで観察を続けたが、確認出来なかった。調査に同行していただいた森口 紀氏にお礼申し上げる。

採集観察記録

八鹿町石原 1♀ 28.VII.2001 森口 紀

この♀は後日多数産卵した。

八鹿町石原 1♀撮影 3.VIII.2001 近藤伸一

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

加古川水系でアイヌハンミョウを確認

柴田 剛

本誌第28巻第2号(2000)で兵庫県下のアイヌハンミョウの生息状況を報告したところであるが、その後、これまで確認されていなかった加古川水系の河原で確認したので報告する。

これまでアイヌハンミョウを確認できた場所は限られているが、その場所における個体数はかなり多いものであった。しかし、今回確認できた場所は河原が重機でかなり攪乱されており、その為か個体数が極めて少ないものであった。

多可郡加美町豊部(杉原川の河原) 1♂ 4.V.2001
(SHIBATA TAKESHI 明石市太寺天王町2970-7)

但馬におけるイシガケチョウの記録

近藤 伸一

近年イシガケチョウの分布の拡大が各地で報告されている。但馬でも下記の通りイシガケチョウを採集しているので報告する。①②の2例の成虫の記録は、いずれも越冬成虫が本年春に暖地で産卵し、羽化した個体が移動してきたものと思われる。

採集記録

①大屋町蔵垣 1♀ 1卵 9.VI.2001

林縁のイチジクに産卵に来たもので、新芽に数卵産卵したうちの1卵を採集した。このイチジクはその後7月、8月に調査したが幼虫、成虫とも見られなかった。

②八鹿町加瀬尾 1♀ 2卵 16.VI.2001

妙見山中腹の標高500mの集落の畑地に生えたイチジクに産卵に来た個体で、イチジクの新芽から2卵採集した。この場所は本年行っているルートセンサスのコースにあり、4月から月3回の割合で観察を行っていたが、本種を確認したのはこの時だけであった。その後も月3回の割合で10月末まで観察を続けたが、幼虫、成虫とも確認出来なかった。

③浜坂町城山 2幼虫 23.VI.2001

海に面した歩道に枝を伸ばしたイヌビワの葉から中令幼虫を採集した。

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

神戸市須磨区におけるヒナカマキリの記録

山本 勝也

筆者らは、県内での記録が少ないと思われるヒナカマキリ *Iridopteryx maculata* Shiraki を神戸市須磨区内において採集している。採集データをここに報告する。

神戸市須磨区高倉町

1♀ 23.XI.1998 山本勝也採集

神戸市須磨区高倉町

1♀ 1.XII.1999 山本勝也採集

神戸市須磨区離宮西町北須磨小学校内

1♂ 10.XI.2000 山本剛史採集

晩秋の晴れた日に地上を徘徊していたもの、もしくは広葉樹の落ち葉の裏についていた個体を観察、採集した。

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

兵庫の蝶雑記(3)

広畑 政巳

「兵庫県産蝶類分布資料」として県下の蝶の採集記録を兵庫昆虫同好会の会誌「きべりはむし」、姫路昆虫同好会の会誌「てんとうむし」、但馬むしの会の会誌「IRATSUME」に報告してきたが、これまでに報告していない数種の採集記録の追加があるので記録として残しておきたい。すべて筆者が採集確認をしている。

<オナガアゲハ>

上郡町小野豆 1♂ 20.V.2001

<ジャコウアゲハ>

上郡町小野豆 1♂ 20.V.2001

姫路市林田町松山 1♂ 23.IX.2001

<ミドリヒョウモン>

姫路市林田町松山 1♂ 23.IX.2001

<アカシジミ>

神戸市北区淡河町北畑 1♂ 1.V.2001

山崎町高所字浅谷 1♂ 16.VI.2001

<ホシミスジ>

太子町太田 1♀ 10.VI.2001

福崎町板坂 1♀ 15.VI.2001

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3丁目11-8)

我が家の庭で観察した アゲハチョウ類の食餌植物 矢田 敦子

我が家の庭で観察したアゲハ、キアゲハの食餌植物を報告する。

アゲハ

カボス……毎年卵をたくさん産みつけ幼虫が成長している。

キンカン……カボスほどは好まないようだが、毎年細々と卵を産みつけている。幼虫も成長しているキアゲハ

マツバゼリ……雑草の中に生えているので幼虫が大きくなるまで見つけにくい。2000年9月25日に5令幼虫を5頭見つけた。本年も8月28日に幼虫を観察している(写真1,2)。

バセリ……キアゲハの食草としてはポピュラーであるが、毎年たくさんの卵が産みつけられ、幼虫も育っている。今年は猛暑でバセリが枯れて食糧事情が悪かったが、たくさん育った。しかし、蛹の殻は通常より薄かったように思う。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)



写真1 マツバゼリ



写真2 マツバゼリで育つキアゲハ
2001年8月28日(16:36)

但馬におけるヒョウモン類の産卵の記録 近藤 伸一

ヒョウモン類3種の産卵を観察したので報告する。日本の大型ヒョウモン類は、一般に秋に産卵し、翌春孵化した幼虫がスミレ類を食べて成長する。各ヒョウモン類は種ごとに幼虫の食べるスミレ類に嗜好の差がみられるが、自然状態での生態は明らかでない。今年但馬で観察した3種のヒョウモン類の産卵行動と、その状況について報告する。なお、9月23日の観察には森口 紀氏に同行していただいた。

1 ウラギンヒョウモン

①2001年9月22日 13時19分～22分 晴れ

日高町名色の但馬ドームの林縁に位置する草地で、ウラギンヒョウモンが腹部を立てて、腹端を枯れ草にこすように歩きまわり、止まっては産卵し、また歩くというようにして数回産卵した。この草地にスミレ類は見られなかった。

②2001年9月23日 13時30分頃 晴れ

八鹿町加瀬尾の田に隣接した刈り込まれた草地で、2♀が産卵を行った。産卵の行動は前記と同じであった。この草地にはニョイスミレとタチツボスミレが見られた。

③2001年10月28日 12時23分～26分 晴れ

八鹿町加瀬尾の栗園と畑の間にある畦畔の草地で産卵行動を確認した。産卵の行動は同じで、この草地に生えていたのはニョイスミレであった。本種は秋も深まったこの時期まで産卵をするようで、同じ場所で元気な別個体の♀を確認している。

2 オオウラギンスジヒョウモン

①2001年9月16日 13時30分ごろ 曇り

八鹿町加瀬尾の栗園の草地で産卵しているのを確認した。産卵の行動は前記ウラギンヒョウモンと同じで、草原に下りると腹を折り曲げ、地表面と垂直になるような体制で歩き、とまっては産卵行動、また歩く、とまる産卵行動という行動を繰り返した。

産卵場所はニョイスミレの群生している場所であった。

②2001年9月23日 13時40分頃 晴れ

八鹿町加瀬尾で、産卵行動を観察した。場所は前記1-②ウラギンヒョウモンが産卵を行った場所から3mほど離れた同じ草地で、草地に生えていたのはニョイスミレとタチツボスミレであった。

なお本種は10月6日、17日には同じ場所で多数の個体が見られたが、産卵行動は見られず、10月28日には全く姿が見られなかった。

3 ミドリヒョウモン

①2001年9月23日 14時40分頃 晴れ

八鹿町妙見の人家跡の草地で、カーテンのようにたらしした黒い寒冷紗(かんれいしゃ)にとまり、すぐに寒冷紗の繊維に産み付け、飛び去った。この寒冷紗は高さが約2mで、産卵位置は、地面から約1.5mであった。またこの草地にはタチツボスミレとニュイスミレが生えていた。

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

 北淡町でイネクロカメムシを採集
 高島 昭

北淡町育波の水田でイネクロカメムシ *Scotimophora lurida* (Bermeister) を採集したので報告する。本種は南方系のカメムシで、本州南部以南に分布するがどのあたりまで土着しているかは定かでない。イネの葉や茎及び乳熟期には実(コメ)をも食害する重要害虫で、ときどき本州各地でも大発生しているらしい。兵庫県ではこれまであまり記録がないと思われるので報告する。

北淡町育波 27.VI.2001 3♀ 高島 昭

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

 安富町でオキナワリチラシ
 高島 昭

2001年9月22日、宍粟郡安富町名坂の兵庫県原種農場の予察灯にオキナワリチラシ *Elerusia aedeae* (Clerck) が入っているのを、兵庫県病害虫防除所の藤富正昭主任研究員が発見した。本種はこれまで兵庫県から記録されておらずこれが初記録となる。

安富町名坂 22.IX.2001 1♂ 藤富正昭

破損はしていないもののやや飛び古した個体であった。本種は伊豆半島以西の太平洋岸以南に分布しているが、近年広島県、山口県、島根県等の本州西部からも記録されており、分布を拡大しつつあるようである。いくつかの亜種に分けられているが、この個体は小型で前翅斑紋の特徴から本州〜九州、対馬等に分布する日本本土亜種 *E. aedeae sugitanii* Matsumura であると思われる。本年8,9月には台風が

近畿地方に相次いで接近しており、強い西風に乗って分布地域から運ばれたものと思われるが、安富町のある宍粟郡南部の里山ではヒサカキやツバキ類が多くもともと分布していた可能性も考えられ興味深い。なお、標本は筆者が保管している。標本の提供及び記録の発表について快諾いただいた藤富正昭氏に感謝申し上げる。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

 淡路景観園芸学校(北淡町)で
 マイコトラガ
 高島 昭

北淡町にある兵庫県立淡路景観園芸学校で同校職員の森田年則氏によりマイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura が採集されている。たまたま筆者が仕事で訪問した際に三角紙標本を確認した。

北淡町野島常盤(兵庫県立淡路景観園芸学校)

11.IV.2001 1♂1♀; 14.IV.2001 2♂1♀

採集者: 森田年則

いずれの個体も水銀灯に飛来して建物の壁等に静止したものが翌朝採集されたものである。

学校周辺は開発が進んでおり、畑や牧草地等が多いが暖帯林もところどころ残されている。淡路島では本種の記録は多いが、このようなオープンランドに近い環境で多く見られることは特筆される。同地は淡路島北部の丘陵地帯のほぼ頂上部に位置し、風で吹き上げられた個体が集まった可能性もある。

なお、標本は筆者が保管している。最後になったが、貴重な標本を提供いただき、発表を快諾された森田氏にはお礼を申し上げる。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

編 集 後 記

- ◆きべりはむし第29巻第2号をお届けします。
 - ◆今回は常連の方々に加えて、新しく入会された矢田さん、山本さんからの投稿がありました。身近な観察記録の報告、ありがとうございます。とくに矢田さんのアゲハチョウの飼育記録は、普段見慣れているはずのアゲハチョウの仲間ですが、ここまで克明に習性を記録したものはあまり例がなく、編集子にとっては初めての知見もありました。地方同好会は新記録や新知見の報告だけでなく、身の回りの記録の積み重ねが大切な使命であると考えています。世紀の大発見は専門誌や学会誌等にお任せするとして、身近な記録の集積を今後も続けていきたいと思っておりますので、過去の報告例があるかどうかにごたわらず、ともしお寄せください。
 - ◆芦屋市の西さんからは、芦屋市の蝶について整理していただきました。編集子は学生時代まで西宮市に住んでいたの、奥池からおたふく山にかけてのあたりへはよく出かけた記憶があります。今ではかなり山奥まで住宅開発が進み、蝶にとって住みにくい環境になっているはずですが、思ったより多くの蝶が生息しているようでうれしく思っています。
 - ◆ブタクサハムシはわずか数年にして兵庫県をほぼ制覇したようです。このような外来昆虫の発生消長は、時として予想もつかない展開をみせることがあります。それを的確に把握するには、やはり身近な観察からということになりそうです。
 - ◆今回は短報が充実しました。兵庫県は広く、各地での話題が豊富にあるはずで、このコーナーを充実することも地方同好会誌の使命の一つと考えています。数回前から報文と短報に分けて目次を記載しているのもそのためです。今後もこれぐらいのボリュームが保てるよう、皆さんのご協力をお願いいたします。
 - ◆本会では難しい投稿規程などは定めていませんが、書き方やまとめ方がわからないため投稿を躊躇される方も多いのではないかと思います。もし、不安な場合は事務局までご相談ください。
-
- ◆次回の「きべりはむし」の発行は2002年5月です。締切は3月末日ですが、原稿は常時受け付けています。兵昆通信でもお知らせしているとおり、e-mailでも受け付けていますので、気軽に御一報ください。短報はメモ程度でも結構です。

(編集担当 高島 昭)

きべりはむし 第29巻 第2号

2001年11月25日発行

発行： 兵庫昆虫同好会

編集： 近藤伸一・高島昭

事務局、原稿送付先：

〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島 昭 方
e-mail akira-takashima@mti.biglobe.ne.jp

郵便振替口座： 01170-3-26646

印刷： 岩峰社・東京

目 次

【報 文】

庭に来る3種のアゲハを飼育して	矢田 敦子	1
ブタクサハムシの兵庫県における広がり状況(その2)		
-2001の現況-	近藤 伸一	10
芦屋市の蝶(その2)	西 隆広	26
兵庫県のウワバ亜科		
(兵庫県産蛾類分布資料・22)	高島 昭	31
兵庫県のキノカワガ亜科・リングア亜科・サラサリングア亜科		
(兵庫県産蛾類分布資料・23)	高島 昭	40
テングチョウの多発(芦屋市の例)	西 隆広	50

【短 報】

アオマダラタマムシ、オオムツボシタマムシ神戸市内での記録		
.....	山本勝也	51
神戸市須磨区におけるギフチョウの記録	山本勝也	51
ハマオモトヨトウ稲美町で採集される	新家 勝	52
諏訪山公園でアサマキシタバを採集	山口福男	52
市川町産蝶類目録(3)	広畑政巳	52
サツマジミを芦屋市で記録	西 隆広	53
アカシジミの多発(芦屋市の例)	西 隆広	53
但馬におけるクロコノマチョウの記録	近藤伸一	53
加古川水系でアイヌハンミョウを確認	柴田 剛	54
但馬におけるイシガケチョウの記録	近藤伸一	54
神戸市須磨区におけるヒナカマキリの記録	山本勝也	54
兵庫の蝶雑記(3)	広畑政巳	54
我が家の庭で観察したアゲハチョウ類の食餌植物	矢田敦子	55
但馬におけるヒョウモン類の産卵の記録	近藤伸一	55
北淡町でイネクロカメムシを採集	高島 昭	56
安富町でオキナワルリチラシ	高島 昭	56
淡路景観園芸学校(北淡町)でマイコトラガ	高島 昭	56
交換誌・寄贈誌紹介		別紙